

・景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	良くなる	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・観光シーズンを迎えて、輸送量が大幅に増加する傾向が例年みられる。
		住宅販売会社（経営者）	・新政権の経済政策の効果が徐々に出てくることで、3～4か月先への期待感があり、景気は上向くことになる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・実感としてまだまだ厳しさを感じているが、単価の高い商品に動きが出てきているなど、景気回復の兆しが出ている。
		商店街（代表者）	・世の中全体の雰囲気として、先行きが良くなるのではないかと期待をもちたしている。
		商店街（代表者）	・例年、ゴールデンウィーク前やゴールデンウィーク中については、地域住民は外へ出かけ、観光客も中心部には足を運ばない傾向にあるため、売上の増加は見込めない。ただし、ゴールデンウィーク以降については、徐々に地元客が増加することになり、月全体としては今月より売上はアップする。
		百貨店（販売促進担当）	・現状、記録的な大雪や低温の影響で消費に対する意欲が下がっているが、今後は気温の上昇や雪解けにともなって、購買意欲が高まってくる。
		百貨店（販売促進担当）	・給料日以降の動きについて、今までと異なる上昇機運がうかがえる。春先に向けて、前向きな気持ちの変化の芽が出てくることに期待している。
		スーパー（店長）	・これからの政治に期待を込めて、良くなるのではないかと期待している。
		スーパー（企画担当）	・新政権の経済政策の効果や株価上昇、円安進行などにより、多少なりとも活気付く。
		コンビニ（エリア担当）	・昼間は来客数が前年並みに戻っている。除雪が進み気温が上昇すれば夜間帯の来客数も戻る。
		コンビニ（エリア担当）	・新政権の経済対策に対して、社会全体が反応することになる。
		コンビニ（エリア担当）	・公共事業が増えることが期待される。
		衣料品専門店（店員）	・雪解けにともない各家庭の暖房費が少なくなる中、春の新入学や転勤の時期を迎えることで消費が増えることになり、着物業界も催事が多くなる。
		家電量販店（経営者）	・春や夏の季節商材の動きに加えて、冷蔵庫やLED照明等の省エネ商品への需要増が見込まれる。
		家電量販店（店員）	・3月は新入学や1人暮らしなどの需要が見込めるため、家電全般に期待感が出てくる。
		家電量販店（地区統括部長）	・引き続きテレビの販売量が回復傾向で推移しているため、微増ながらも売上が増加する。
		乗用車販売店（従業員）	・北海道の場合、暖かくなるにつれて販売台数が伸びることになり、全体的に盛り上がっていくことは間違いないため、今後2～3か月は上向きで推移する。
		乗用車販売店（営業担当）	・国内の政策や世界経済の動向にも左右されるが、今の流れから判断すると、若干の上昇が見込める。
		高級レストラン（経営者）	・雪解けとともに客足が戻ってくると期待している。
		高級レストラン（スタッフ）	・新政権の景気対策の効果が現場まで届き、好景気になる。
		スナック（経営者）	・1～2月と来客数が、現状維持よりも少し良くなっている。これから3～4月にかけて、少しずつ良くなっていく。
		旅行代理店（従業員）	・株高、円安による景気の上向き感を受けて法人の活力が上がる。企業も前向きな姿勢となることで、需要増加が見込まれる。
通信会社（企画担当）	・競合他社の商品、サービスに対して、高い評価をする声は若干ではあるが減りつつあり、自社製品、サービスへの流入、新規獲得が期待できる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光名所（従業員）	・5月になると、台湾との国際線定期便が週1便増加するため、今よりも外国人観光客の入込が増加することを期待できる。
		美容室（経営者）	・全体的に明るい気分が出てきているため、何かを買ったり、出かけたりといった能動的な行動が以前よりも増えてきている雰囲気を客から感じられる。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税前の駆け込み需要が増える。
	変わらない	商店街（代表者）	・トレンドとして、ほぼ例年並み又は前年を下回る状況は変わっておらず、先行きを見通す要素がみられない。
		商店街（代表者）	・春物に関して、カラーやスタイルのトレンドがはっきりしており、今までにないスタイルを求める客が多いが、今後の夏物に関しては、まだそのような明確なトレンドが見えてきていないため、さらに良くなるかは疑問である。
		商店街（代表者）	・株高、円安が進んでいるが、まだ一部の人にしか景気の回復を実感できていない。当地域での景気回復という感じはまだみられないため、変わらない。
		商店街（代表者）	・雰囲気は非常に良いが、それが消費に結び付くかはまだ判断ができない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・ここ数か月の傾向として、非常に良くない状況が続いている。3月は歓送迎会等があって、普段の月よりは売上が増える月ではあるが、そういった季節的な要因を除くとほぼ弱含みのまま推移する。
		百貨店（売場主任）	・長期予報によると、3月以降は暖かい日が続くということであり、前年の4～5月に非常に寒い日が続いたことの影響で、今年は春物の動きが少しは出ることになる。特に、春物コートやカジュアルパンツ、ジャケット等に期待している。
		百貨店（売場主任）	・2012年4月以降、買上客数の前年割れが続いている。天候要因もあるが、衣料品の動きが鈍く、必要なものを必要な時に購入する直近型の買上傾向が今後も続く。
		百貨店（役員）	・株高により資産家の消費動向は良くなるが、一般消費者の財布のひもはまだ固い。円安によるガソリン、灯油、野菜等の値上がり主婦の一番の関心事になっている。
		スーパー（役員）	・増税による可処分所得の減少や燃料等の値上げにより、食品の購買環境や消費マインドは一時的に下がる傾向にあるため、しばらくは現状維持かやや悪くなるとみられる。
		コンビニ（エリア担当）	・年明けから2か月が経過したが、客の流れに変化はみられない。商品を展開しても動きの鈍い状況が続いており、買物にシビアになっている状況は変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	・期待感が持てない。購買意欲を喚起させるような要因がない。
		自動車備品販売店（店長）	・3月は自動車損害賠償責任保険料の価格変更を控えて良い業績になるが、4月以降については、現在のガソリンの値上がりなどの状況を見る限り良くなるとは思えない。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・先行きが怪しい今日、買物はさらに必要最小限となる。
		高級レストラン（スタッフ）	・北海道フード特区や食クラスター事業など、加工食品の助成事業が広がり、製造企業の動きが活発化している。飲食店も情報収集を進めており、試食会などでの活用を提案することで売上アップを期待している。事業経営者は、政権交代への歓迎ムードが強いが、レストランにまで影響するかどうかは分からない。
		スナック（経営者）	・多少は期待している。
		観光型ホテル（経営者）	・円安効果で海外客は若干の増加が見込めるが、国内の実体経済が回復していないことから、中間所得層の国内旅行が回復するまではまだ時間がかかる。さらに、2～3か月先までは海外旅行の費用に円安効果が反映されないため、駆け込み需要が発生することで国内旅行需要が減少することを懸念している。
		観光型ホテル（スタッフ）	・国内旅行は個人客、団体客ともに堅調だが、近隣アジアからの観光客の利用が不振である。
旅行代理店（従業員）	・販売量の良い月と悪い月が交互に並んでおり、2～3か月後の見込みも、期待に反して伸びない時期と堅調に推移する時期が交錯し、先行きが見通せない状態となっている。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（従業員）	・先行受注の販売額をみると、国内旅行は3月が前年比89.7%、4月が前年比82.1%となっており、海外旅行は3月が前年比116.2%、4月が前年比109.9%となっており、厳しい状況が続いている。
		旅行代理店（従業員）	・現状のやや上向きの状況が継続する。景気対策への期待感を含めて、消費マインドは上昇傾向にある。
		タクシー運転手	・例年のことではあるが、3月までの冬期間はタクシーの利用があるが、4月以降は極端に利用客が少なくなる。
		タクシー運転手	・政治の動きとして、新政権の経済対策の連動による上昇傾向という動きがみられるが、当業界においては、直接連動するような動きは何も出てきていない。今後も新政権の経済政策の効果がでてくるのはまだまだ先のことである。現状と変わらない状況が続く。
		タクシー運転手	・同業他社の状況を確認したところ、予約の状況があまり良くないとのことであった。当社においても予約の件数は前年並みであり、景気が良くなる要素が思い当たらない。
		パチンコ店（役員）	・原油や野菜などの単価上昇により、利益率を下げるか単価を上げるしかない中で、どちらを選択しても来客数の増加にはつながらない。
		住宅販売会社（従業員）	・現在の状況は良好であり、これ以上大きく改善されることはない。最近では客からの無理な注文や値引き要請もなく、分譲マンション企業間の過当競争もみられない。消費税が上がるまでは、分譲マンション市場は比較的安定して推移する。
	やや悪くなる	スーパー（店長）	・単純に新政権の経済政策が景気回復の打ち出の小づちになるとは思えない。また、円安のメリットよりも、ガソリンや灯油等の身の回りの必需品の原価上昇による価格高騰の方が生活を直撃している。
		スーパー（企画担当）	・所得、労働環境の好転よりも、輸入価格、燃料価格等の上昇が先行しているため、家計へのマイナスの影響は当面続く。
		スーパー（役員）	・株値の値上がりなど、景気が良くなる気配はあるが、小麦粉や電気代の値上がりなど、消費のマイナス要因も多く、簡単に実体経済が良くなるとは思えない。
		その他専門店〔造花〕（店長）	・食料やガソリン等の生活必需品の価格が上昇している。
		タクシー運転手	・物価や石油製品の価格が上がり始めてから、タクシーの乗り控えがみられる。これからインフレになり、所得が上がらなければ、タクシーの乗り控えが進み、やや悪くなる。
	悪くなる	○	○
	企業動向関連 (北海道)	良くなる	輸送業（支店長）
やや良くなる		家具製造業（経営者）	・大都市圏を中心に高額品の動きが良くなってきた。消費税増税前の駆け込み需要が早くも始まっている場面がみられる。
		金属製品製造業（経営者）	・見積の件数が多くなってきた。
		金属製品製造業（役員）	・消費税増税前の駆け込み需要が増えることになる。
		建設業（経営者）	・補正予算での公共工事の発注が進み、工事が動き始めることになる。民間建築工事についても受注が積み上がり、工事が本格化する。ただし、人手不足と資材単価のアップが見込まれるため、採算面で不安がある。
		建設業（従業員）	・大型補正予算の成立により、建設関連の公共事業のみならず、民間事業でも前倒し発注の動きが出ている。
		通信業（営業担当）	・まだ楽観視はできないが、自民党の立案する政策によって、社会全般に成長への期待感が大きくなっている。この1か月、それによる実需も伴ってきたと感じており、この先の景況感はやや良くなる。
		金融業（企画担当）	・雪解け後、大型補正予算による公共工事の本格的な執行が見込まれるため、基幹産業である建設業の業況が上向き、地域経済にも波及してくる。春の観光は円安で外国人観光客が増加する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コピーサービス業（従業員）	・公共事業はこれから少しずつ伸びることになる。ただし、同じことの繰り返しを恐れ、あくまで少しずつの増加で推移する。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・悪くなる要因は特に見当たらない。そろそろ控えていた大型投資が始まるのではないかと期待している。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・道内の鉄骨案件は、4月～6月にかけて製作加工が集中するため、景気上昇にけん引される。
	変わらない	食料品製造業（役員）	・現状以上に悪くなる感じはないが、取引先の荷動きの悪い状況が続きそうである。
		輸送業（営業担当）	・年度末を迎えて、ビート糖、でん粉、粉乳等の農産品の本州への輸送オーダーが出始めている。また、太陽光発電のソーラーパネルの輸入が増加しており、今後も2か所の施設建設が決定している。
		司法書士	・冬期間は北海道特有の問題から期待できない面があるが、今後は徐々に回復局面に入ることになる。
		司法書士	・補正予算など色々と手を尽くしているようだが、これだけで景気が回復することにはならない。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・円安のデメリットが先行しており、実体経済の回復には今しばらくの時間を要する。
		やや悪くなる	司法書士
	悪くなる	—	—
雇用 関連 (北海道)	良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・業種に偏りがなく、ほぼすべての業種で求人件数が伸びている。前年の件数を下回っているのはごく一部の業種にとどまっており、総体的に求人意欲が高まっている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・新政権の経済政策の効果が具体的に出てきている。個人消費の堅調さも先行きの明るさが後押ししている。しばらくは明るいムードが続く。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・ここ数か月の景気回復の予想から、経営者のマインドも少し明るさを取り戻してきたようで、売上拡大に向け人員の調達を増やす企業が増えてきている。また、新たな事業の立ち上げの好機とみる経営者も増えており、今後しばらくは求人ニーズが増加傾向で推移する。
		人材派遣会社（社員）	・年度が変わるタイミングであるため、求人数が一時的に増加する。ただし、その動きが継続するかは分からない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・サービス業等の非正規の求人倍率が高くなってきている。ただし、正社員の求人件数にあまり伸びがみられないのが気がかりである。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・短期的には新政権の経済政策の効果により、景気の浮揚感が高まる。ただし、中長期的な効果に関しては不透明である。
	変わらない	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・公共事業に予算がシフトしたことを受け、地元の建設、土木、運輸等の雇用への波及効果を期待できる。
		職業安定所（職員）	・管内の有効求人倍率は32か月連続して前年を上回り、新規求職者は減少傾向が続いている。
		職業安定所（職員）	・高校生の就職内定率が20年ぶりの高水準となった。これは求人数の増加によるところが大きく、学卒者への採用意欲が戻ってきているが、この採用意欲が一般求人提出へと広がるかはまだ判断できない。
		職業安定所（職員）	・就職件数は前年比で0.3%の減少となった。
学校〔大学〕（就職担当）		・良くなる材料が見当たらない。	
やや悪くなる	—	—	
悪くなる	—	—	

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	百貨店（経営者）	・米国の大手金融機関の破たん以降低迷が続いた株価が回復基調にあり、家計の塩漬け金融資産が回復してきている。今後、資産効果が働いて景気は良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(東北)		コンビニ (店長)	・雪も解けて人の動きが良くなる。また円安や株価の上昇によって景気の回復が期待できる。
		衣料品専門店 (店長)	・これからは春の準備をする人の需要が高まってくるが、客や周りから今年は県内の就職定着率が非常に高いと聞いている。買いそろえをする人も就職率も例年より良いので、客が春の準備をしっかりしてもらえると、私どもにも波及があると読んでいる。景気は上向いてくるのではないかと期待している。
		その他専門店 [白衣・ユニフォーム] (営業担当)	・政権交代による期待感とともに、実際の円安傾向で少しずつではあるが業績が上向いているところもある。また、震災復興に伴う需要が高まるなかで、まだまだ良くなる可能性がある。
		高級レストラン (支配人)	・客や友人の計画を聞くと、春を迎えて観光や出張など、ゴールデンウィークを見据えた動きや計画も活発になっている。迎える側としても観光や出張などが活発に動く時期を迎え、活気が出てくると予想される。
		タクシー運転手	・雪が降ると乗客は増えるが、雪がやめばこれまでどおりの状況である。現在、悪くなる状況がないのでこのまま良くなるとみられる。
やや良くなる		商店街 (代表者)	・苦戦が続くなか、震災後空地だった所に店舗が再建され花屋が開店した。さらに、同じく震災後空き店舗となった所に物販店の入居予定もあり、遅いながらもやっと春が近づきつつあるかと期待される。
		商店街 (代表者)	・イベントの企画がある。
		一般小売店 [医薬品] (経営者)	・天気も良くなり、春になればまたそれなりに商品が動くものが出てくるほか、客を見ても、最近では買い控えているという様子もなくなっている。必要な物は必ず買うという傾向にあるので良くなる。
		一般小売店 [寝具] (経営者)	・打ち返し等の布団作りの注文は来ているので、それに伴う二次製品の受注も期待が持てる。
		百貨店 (総務担当)	・いわゆるアベノミクスで全体的に景気マインドが上がり、消費者の購買行動が多少なりとも変化することを期待している。
		百貨店 (企画担当)	・低気温のなかでも、春物やギフト需要は徐々にではあるが活発になってきている。先月に引き続き、消費者の景気への期待感もあり、プラスに転じていくとみている。また、中心部の人口も微増となっており、入店客数にもプラスの影響が出ているが、まだ購買にはつながらない下見段階の客も多くなっている。
		百貨店 (営業担当)	・景気自体は引き続き堅調な動きを見せるとみている。ただし、政府による経済対策が具現化されていくなかで、その進捗状況によっては予断を許さない状況ともいえる。全体的に上向きではないか。
		百貨店 (売場担当)	・前年との比較という点では、前年が苦戦していたため、売上は伸長すると思われ、百貨店のクリアランスセールが前年の7月1日から18日に後ろ倒しになるとすると、客の買い方にも変化は生じるはずである。初夏物や盛夏物の動きが活発になり、企画提案により売上を伸ばす要素はまだある。
		スーパー (店長)	・時期的に新入学、入社という部分で消費が発生するので、今後2、3か月についてはやや期待できる。
		スーパー (総務担当)	・以前よりも夜間の客が増えてきているように見受けられる。買上点数も多くなっており、経済的にも活動的になってきているようである。
		コンビニ (経営者)	・1、2月と厳しいなかで、前年より買上点数及び客単価が伸びていることは明るい材料であり、今後期待が持てる。
		コンビニ (経営者)	・競合店出店の影響が一段落して、来客数も戻ってくるとみている。
		コンビニ (エリア担当)	・出店数も順調に増えている。また、既存店のハード面の強化やテレビCMの投入も実施しており、今後来店数の増加が考えられる。
		コンビニ (エリア担当)	・高付加価値商品の開発速度を高めており、政権交代の期待と合わせて単価向上を期待している。
		コンビニ (エリア担当)	・震災から2年を迎えることで復興への意識が再度高まることが予測される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（経営者）	・暖かくなれば、客足も伸びるであろう。
		衣料品専門店（店長）	・以前よりも比較的単価の高い商品を購入する消費者が増えている。特に入卒、セレモニー用途での購入が顕著に現れている。
		衣料品専門店（店長）	・天候も良くなり、出かけたくなる気分になるため、来客数も増えると予想される。
		家電量販店（店長）	・政治が安定してきている。
		家電量販店（店長）	・家電のテレビを中心とした冷え込みが既に底を迎えているので、これから白物家電及びタブレット関係のパソコンの伸びが期待でき、景気はやや持ち直すことが見込まれる。
		乗用車販売店（従業員）	・暖かくなれば、今まで買い控えていた客も販売に結び付くのではないかと期待している。
		住関連専門店（経営者）	・株高、円安など何となく期待感がある。
		住関連専門店（経営者）	・来月は彼岸もくるし、季節的に仏壇仏具の販売が上向く可能性はある。一般ユーザーの目が仏具に向いてくるので期待している。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・天候も徐々に良くなる時期なので、今よりは人も物も動くと思っている。政府の景気対策が少しずつでも一般消費者に感じられるようになってほしい。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	・春物商品のスタートが遅れているので、3月以降の売上が例年より良くなると見込まれる。
		高級レストラン（経営者）	・今の景気は大型の投資に対する期待感から、しばらく続くのではないかとみている。
		高級レストラン（支配人）	・総収入が前年と同じでも、働くスタッフ数が減り続ければ取り分は増えるはず。ただし、職場の環境はかなりいびつで精神的にも厳しい。タフな人だけが生き残れるのかもしれない。
		一般レストラン（経営者）	・アベノミクスにより株も上がってきたので、やや良くなるのではないかと。
		一般レストラン（経営者）	・消費行動というのは心理意識が非常に影響される。少し株価が上がってきているとか、政権が代わったということで、何となく期待感が出ている。よって、2、3か月後には少し上向くことを期待している。
		一般レストラン（経営者）	・例年だと3月の雪解けあたりは暖かくなって忙しくなる。予約状況はあまり良くないが、例年どおりであれば良くなるのではないかと。
		一般レストラン（経営者）	・今月が悪すぎるので、これ以上悪くなることはない。
		スナック（経営者）	・3、4月と歓送迎会の季節に入るので、団体様が飲む機会も増えるし、今より多少は売上が上がると期待している。
		観光型ホテル（スタッフ）	・報道等により消費者の心理が良い方向に向いている。今まで短期的な予約が多かったが、先々の長いスパンの予約も少しずつが入っているので、多少は良くなる。
		観光型旅館（スタッフ）	・春になり客が動きやすい時期となる。大きな自然災害等や事件が無ければ、ゴールデンウィークなど大型連休も控えているので期待が持てる。ただし、単価の下落傾向は続いており、販売単価をどこまで上げられるかが課題となっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・厳寒の冬であるが、来月以降になれば雪解けする。また、3月16日に新型こまちの運転が開始され、4月からは秋田デスティネーションキャンペーンイヤーとしていろいろな行事が行われる予定である。客の行き来が多くなって、必然的に買物をしたり、宿泊をしたりという色々な動機が付加されて、まちが動いてくるのではないかと。
		都市型ホテル（スタッフ）	・大雪極寒のため暖房費はかなり痛手ではあるが、出控えの反動で雪解けとともに活発になる。また、震災以来閉めていた名所が今年は解放されるのは大きい。
		旅行代理店（店長）	・周辺金融機関の預金残高は依然高い状況が続いており、消費能力に伴う個人消費はこれからも継続すると予測する。また、政権交代から円安局面に入り、企業業績の好転が期待できる。
		タクシー運転手	・政権交代により円も安くなってきている。その影響が出てくるというような話を聞く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（営業担当）	・東日本大震災から約2年だが、被災地以外の方々は風化傾向にあり、被災地の方もあきらめ感があり、高齢弱者の方が被災地に残り、若手は被災地を離れている。経済格差が発生するため景況感は地域で異なり、被災地以外の地域の景気は良くなるのではないかと。
		通信会社（営業担当）	・携帯電話についてはこれから需要期である。今年はかなり需要が見込めると判断して、前向きにとらえて市場に売っていきこうと考えている。雰囲気も非常に良くなってきており、一時期を脱しつつあるようである。
		通信会社（営業担当）	・繁忙期を迎える。
		通信会社（営業担当）	・全体的に景気が上向いているため、その勢いに引っ張られるように少しずつ新規の加入者も増加していく。その勢いに新年度スタートの効果も重なって、これまで経費節約で解約していた客も財布が緩んできたのか少しずつ戻り始めている。
		テーマパーク（職員）	・現在は卒業旅行シーズンで学生が多く利用しているが、単価が上昇中である。3月は春休み、その後のゴールデンウィークと大型連休が控えており、景好感のなかで推移すると予想される。
		観光名所（職員）	・予約状況は前年と変わらないが、フリー客が若干増えているようである。あとは客を迎えるこちら側の体制作りである。
		観光名所（職員）	・冬期間はどうしても来客が少ないが、桜やゴールデンウィークに合わせイベントも開催し、来客数は増える見込みである。
		遊園地（経営者）	・ガソリン価格の上昇などの懸念はあるが、政府の経済対策により、消費者心理には多少上向きの期待が持てる。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・電力料金やガソリン、燃料の値上がりの懸念はあるものの、全体として客の反応が好感触なので、販売単価や販売額も増加するとの期待感がある。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・円安、株高による業績改善が進む企業の数が増える。
変わらない		商店街（代表者）	・周りの経済指標はすべてプラスに出ている。ただし、飲食関係はマイナス気味であり、いわゆる外食をしない内食傾向が強くなったようである。
		商店街（代表者）	・少しずつ前進していくであろうが、物価上昇が少し心配である。物価上昇したが収入は増えないようでは困る。消費者の反動は怖い。デフレ退治は消費者の収入増と一体でやらなければ本当の景気回復にはならない。もう少し様子を見たい。
		商店街（代表者）	・現在のような雪の状況が続けば、来客数及び人の交流が減少し、3月一杯は現在の状況は変わらないと予想される。4月以降、天候が回復し降雪が無ければ、人出もあり、売上増にもつながるのではないかと期待している。
		商店街（代表者）	・円安から暖房用灯油、ガソリンが先行値上げしており、家計収入が引き上げられる前に物価が上がるなど、目に見えて消費の拡大が現れていない。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・アベノミクス効果がどこまで地方に反映されるのかがまだ不透明である。大型の購買については消費税にかかわる潜在的な購買動向は更に続くと思われる。しかし、一般消費については相変わらず厳しい局面が続いており、低単価志向が続いているため、基本的には地方都市は分からない。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・政府の経済政策で円安ドル高となっており、金融業界は非常に活発な動きを始めているが、一般消費者にはその良さが伝わってきていないのが現状で、街には何ら活気が出ていない。今後3か月もそのような状態が続くのではないかと。震災後は特需があり、活発な消費活動があったが、現在はそれがすっかり終わっており、今後は震災前の年と同じ悪い状態が続く見通しである。
		百貨店（売場主任）	・消費マインドが下がっていないことから、今後の様々な動きによっては良くなる可能性もあるが、今のところは要因に確信が持てない状況である。
		百貨店（買付担当）	・株価高騰、円安などのプラス要素はあるものの、東北地方を含めて、消費者の財布に反映されるまでには時間が掛かる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（経営者）	・現経済状況をみても更に二極化が進むと予想される。大多数を占める中間層が買い求める商品群やプライスの商品が厳しい。
		スーパー（経営者）	・株式市場は堅調で輸出企業は良いようだが、消費は変わらない。
		スーパー（経営者）	・3月は円安も一段落し、株価も1万1千円前半台で上下して落ち着き気味になるのではないかと。一時的に輸出業界や一部の所得層は潤っているようである。国の大型補正予算が成立、執行されるので、景気への好影響や波及効果の拡大を期待している。企業の成長源の投資拡大など、实体经济への反映には時間を要するが、消費環境はガソリンや小麦、電気やガス料金などの価格上昇、公務員の給与削減などの負の要因もはっきりしているため、その影響が出ないことを期待したい。しばらくは今のままだとみられる。
		スーパー（店長）	・灯油、ガソリン等の生活物資の値上げに比較して、所得は減少傾向にあり、節約志向は続いている。価格に対する客の意識も今までより高く、厳しさは増しているようである。この状況からはなかなか脱却できそうにない。
		スーパー（店長）	・商圏内競合店数が現状と変わらず、業績横ばいが続く。
		スーパー（店長）	・景気が上向くとされているが、現在の客の購買行動を見ると、すぐに変化があるとは思えない。
		スーパー（物流担当）	・円安が進んでも製造業の景気が良くなるには時間が掛かる。給与等の現金収入が増えなければ小売全体の消費も上向かず、現在と状況が変わる要素が無い。
		コンビニ（経営者）	・変わらないを選んだが、どちらかという何とも言えないというのが正直なところである。来月に人の流出がどれだけの見当がつかない。
		コンビニ（エリア担当）	・大きな環境変化が無い。
		コンビニ（店長）	・アベノミクス効果で円安が進み、株価も上がってきているが、同時に原油価格が高騰している。今のところ所得も変わらないのに原油が値上がりし、今後は電気代が上がってくるということで、心理的にはマイナス傾向ではないか。とはいえ、アベノミクス効果で上がってきていることから、しばらくは横ばいで推移するとみている。
		コンビニ（店長）	・3か月後に自分の店の身の回りの状況で変化が起こることは考えられない。近隣の製造工場は3月一杯で雇用を打ち切るという話も出ており、3か月後に景気が回復することは見込めない。ただ、当店の隣に新たな工場が建つ予定もあるので、そういった点からすると状況が特に大きく変わることはないかもしれない。
		衣料品専門店（経営者）	・公共投資の具体的な見通しや予算の早期可決で地方を早く元気にしてもらいたい。
		衣料品専門店（総務担当）	・自民党政権での経済対策に期待したいが、その効果は2～3か月先では表れない。
		家電量販店（店長）	・家電業界ではエコポイントや地デジ化といったこれまでの経済対策の反動がまだ続くため、近々に良くなるという感触はない。しかし、アベノミクスといわれる経済対策の効果への期待感や客の会話のなかからもうかがえる。また、タブレットといわれている新しいジャンルの販売は好調で、こちらが良い材料になると期待している。
		乗用車販売店（経営者）	・新卒需要、社会移動需要の発生が鈍い。また、新型の低燃費、低価格車を中心となって売れ筋が一段と片寄る傾向にある。そして、前年はエコカー補助金もあったため、状況が上向くにはしばらく時間が掛かる。現状の20%前後の前年割れが続くのではないかと。
		乗用車販売店（経営者）	・4月以降、自動車損害賠償責任保険の値上げなど不安材料もあるが、継続するエコカー減税を追い風に低燃費車の販売は堅調に推移するとみられる。
		乗用車販売店（経営者）	・拡販施策も的中し、6月ごろまでは好調が続くのではと考える。
		乗用車販売店（店長）	・ここ数か月新型車の予定も無く話題性は乏しい。直近売上状況を踏まえると3月商戦も苦戦が予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（店長）	・3月は決算時期ということもあり販売量の増加が見込めるが、その反動もあり2か月後は現在と同じ販売量が予想される。
		自動車備品販売店（経営者）	・今後繁忙期に入るが、過去のエコカー減税でサイクルが変わってしまったので、見通しが全くたたない。
		住関連専門店（経営者）	・新しい年を迎えて、新築も少しずつ前年と比べれば件数も伸びているので、耐久消費財も建築と併せて少し伸びてきているようである。今後2、3か月は現状をある程度維持しながら進むのだろうし、新生活を迎える方の需要も取り込んでいきたいと考えている。しかし、現状とさほど変わらないとみている。
		その他専門店〔パソコン〕（経営者）	・季節の変化や年度替りによる客の動きに期待しているが、現在、客の問い合わせが控え気味なことから、急激な変化は期待できない。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・電力料金の値上げが始まり、家計がますます厳しくなるので、食費も抑えられるのではないかと。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・石油関連商品は3月に入れば気温の上昇とともに減少していく。新年度予算が執行されるまでの期間、公共投資が進まず、6月あたりまで低調な需要が予想される。当県の場合、復興のための需要がどの程度出るかで大きく景気が左右されるため、先読みは困難であり、目先の設備投資関連の動きは鈍く、需要は現状維持で推移しそうである。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・燃料油は原油高、円安の影響で値上げが続いている。価格が高くなりすぎて、消費者の節約志向が高まっている。今後大幅な伸びは期待できない。
		一般レストラン（経営者）	・社会全体の景気に対する不安材料は、政治を始めまだまだあるが、歓送迎会や新社会人、新学期と明るい要素も出てくるタイミングなので、トータルでは変化無しではないかと。
		観光型ホテル（経営者）	・4、5月はデスティネーションキャンペーンや学生などのオリエンテーションなどがある。低価格でも積極的に受け入れており、入込数においては前年を多少上回っている。6月以降は震災後3年目に入り復興支援も少なくなっているため、入込は前年を大きく下回っている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・法人需要に関しても、総体的に規模が縮小しているので、数をこなさなければならない。世間では円安株高とマインド的には良くなっているとされているが、実際にホテル関係における消費という局面はまだまだ動きが少ない。特にこれから年度末にかけてどういう動きになるか注目しなければならない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・被災地の特需で、宿泊、レストラン、会合等すべての部門で来客数が増加していた状況が落ち着き、今年に入ってから来客数は前年を下回り始めているが、売上自体は極端な落ち込みはなく、来月以降の予約状況も前年に近い状況で推移している。
		旅行代理店（経営者）	・円安の関係で海外旅行が少なくなり、その分が国内に回るとはならないかとみているので、総合的には変わらないと推移していくと予想する。
		通信会社（営業担当）	・経済対策で景気押し上げ効果を期待したい。首都圏と地方では差があるのではないかと。
		通信会社（営業担当）	・経済政策が打たれても景気改善の効果が表れるまでには約1年を見込んでいる。
		通信会社（営業担当）	・短期的には円安がプラスに動くかもしれないが、一時的なものと考えられる。
		通信会社（営業担当）	・全国レベルでは上向きだが、地場に限定すればそれほどではない。ただ、悪くなる方向ではなく、現状維持が続くものと予想している。
		競艇場（職員）	・今月は天候などの影響により客の動きが悪い。それを考慮すれば、今後2、3か月先に客の動きが良くなったとしても、景気が良くなったからだとはいえない。
		美容室（経営者）	・現実的に先行き自体がまだよく見えてこないという部分が多いので、平常どおりのままでしばらくは続くのかなというふうにもみている。
		美容室（経営者）	・旅行に行くのでセットされる方や気分転換にエステに来る方が増えつつあるが、ごく少数で、多くはまだ儉約している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	住宅販売会社（経営者）	・増税前の駆け込みで受注量は増える予定だが、客単価が下がっているため、受注額としての伸びはあまり期待できない。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・一部の客からは、震災による家賃補助が残すところ1年になり、先々どうやって暮らしていけば良いか分からないという不安の声を聞いた。景気改善の影響は一部に止まっており、多くはぎりぎりのやりくりをしているようである。足元では、ガソリンや灯油の価格が上昇しており、消費がぎりぎりの必需品購入に回されているのではないか。当店の客層は年金生活の人が多く、このような悪影響は避けられない。
		百貨店（経営者）	・今後2、3か月のなかで、複数の大型商業施設の改装があり、以降も駅前地区再開発ビル跡地のオープンと続くため、当地区のパイの奪い合いがますます激化する。
		スーパー（経営者）	・アベノミクスにより株高円安が進行しているが、輸入品における食品の割合は非常に高く、円安傾向により原価の高騰が徐々に始まっている。賃金ベースへの還元はまだ先になる。
		スーパー（店長）	・商品の単価が落ち込むことが予想される。
		スーパー（店長）	・ガソリン価格が高騰しており、給料は上がらない状態なので、生活はますます厳しくなる。
		コンビニ（エリア担当）	・同業他社の出店強化で、1店舗当たりのシェアが小さくなる。
		衣料品専門店（経営者）	・政府の景気対策の効果はまだ先になるであろう。近々の問題として円安による物価の上昇が消費マインドを低下させるのではないかと心配している。
		その他専門店〔酒〕（営業担当）	・今月は落ち込みが大きかったが、今後も地元を含めて選挙が多いため、地元の飲食店は苦しい状況が続くとみられる。5月ごろには少し持ち直すのではと期待している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・天候、特に降雪や積雪の状況により来客数は大きく変動する。今年度は低温による積雪量の増加もあって、来客数が大きくダウンする日が多いため、この天候が続けば景気はやや下振れすることが予想される。
		観光型旅館（経営者）	・ネットの予約サイトや自社HPへのアクセス数が落ちてきており、この先の宿泊を伴う旅行マインドが低い。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊部門で若干の上向き傾向が見られるが、それ以外の部門は全く動きが鈍く、レストラン部門は再編成も視野に入れている。景気回復を期待したい。
		旅行代理店（従業員）	・2010年度及び2011年度比の取扱高が2か月連続で下回っている。
		タクシー運転手	・電気、ガス、ガソリンの価格上昇が家計に響いているのか、乗り控えが非常に多くなっている。
			悪くなる
建設業（従業員）	・新年度に入って早々に防潮堤の災害復旧、復興まちづくり、復興道路の早期整備、新エネルギー関連施設整備など、幅広い分野での工事及び業務発注が見込まれている。		
企業動向関連 (東北)	良くなる	その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・政権が代わってから、売上は前年を10%前後上回っており、見通しも非常に明るくなっている。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・料飲店、観光ホテル等、4月からのデスティネーションキャンペーンに期待が高まっている。前回のキャンペーン時も酒類の出荷に大きな影響があった経験があるので、十分に対応準備をして臨みたい。
	やや良くなる	農林水産業（従業者）	・東京電力福島第一原子力発電所事故により価格が下落した果樹全般について、自営全体で賠償金の請求をしているので、震災前と同程度の収入になるくらいの賠償金が入るものとみられる。
		繊維工業（経営者）	・円安になり、製造業にとっては期待も持てるが、不況が長引いたため、実際に注文が入り実数で売上が上がるまでは分からない。
		木材木製品製造業（経営者）	・住宅着工が着実に増える動きをしており、販売量も期待できる。
		土石製品製造販売（従業員）	・消費税増税前のマンション新築工事や、新築物件の建設事業が多々ありそうな状況であり、発注も増えると思込んでいる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（企画担当）	・当社の電子部品関連の業績は回復しており、徐々に給与や賞与などにも反映されてくるが見込まれる。身の回りでも、アベノミクス効果で公共事業関連が活発化しており、会社の業績アップから個人への好影響が少しずつ現れてくると予想される。
		輸送業（営業担当）	・燃料の高騰などで厳しい面もあるが、客の出荷状況等を総合的に考えると景気は好転に向かっている。
		広告業協会（役員）	・今後は震災3周年記念復興イベントやスポーツイベント、宮城・仙台地区におけるデスティネーションキャンペーンなどが控えており、広告界は好調に推移するものとみられる。
		広告代理店（経営者）	・あくまでアベノミクス等々の期待感によるものである。そんななかで、Web系の仕事が増えてきている。ネット選挙解禁をにらみ、そのあたりの整備が進んでいるようである。
		広告代理店（経営者）	・メディアの発注量も増加している。
		経営コンサルタント	・新政府の経済政策の本気度に期待が高まる。
		司法書士	・春を迎えて住宅着工が本格的になると予想される。
		コピーサービス業（経営者）	・建設業の決算状況が以前に比べかなり良くなっている。また、建設業関連会社との取引高も近年は増えてきているような状況である。
		その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	・原発による仮設住宅の期限が3年から4年になり、今後、住宅関連の会社が上向きになることが予想される。
		変わらない	食料品製造業（経営者）
	食料品製造業（総務担当）		・もっと長期で判断すればやや良くなるが、2、3か月後は今の受注量から見て横ばいと考ええる。
	出版・印刷・同関連産業（経理担当）		・東日本大震災関係の特需が一段落しており、先行きも大きく伸びることは予想できない。
	一般機械器具製造業（経営者）		・自動車部品については、輸出は比較的堅調に推移するものと予測している。為替もやや円安に動けば、なお業績に寄与するものと予想している。ただ、国内向けの需要がやや減少すると、スモールカー中心になることによる影響が出てくるとみている。
	建設業（経営者）		・気候も良くなり客も外に出る機会が増えるとみられる。そうすると、展示場や他人の家を見る機会が増え、建築の意欲も上昇するのではないかと。しかし、景気動向にもよるが、資材等の高騰、職人不足の影響が出ることも予想される。
	建設業（企画担当）		・技術者不足と労務者不足が懸念される。
	輸送業（経営者）		・現状の状態に大きな変化は期待できない。業界では厳しい環境が続くと予想される。
	輸送業（従業員）		・貨物増加が期待できる情報が無い。
	通信業（営業担当）		・受注量の減少は続くともみられ、これをカバーするような案件に期待するしかない状況である。
	通信業（営業担当）		・一時的な円安による好転はあるものの、根本的な解決にはまだ時間がかかるのではないかと。震災からの復興及び雇用問題などは改善が見られない。
	通信業（営業担当）		・政治次第である。景気対策を実行しなければ何も変わらない。
	金融業（営業担当）	・特に大きな変化要因はない。	
金融業（広報担当）	・緊急経済対策等による景気浮揚効果は期待されるものの、今冬の大雪の影響もあり、地方への浸透には時間を要する。		
公認会計士	・沿岸部の本格的復興が始まれば、建設業を中心に景気が上向くとみられるが、まだその兆候はみられない。		
その他企業〔企画業〕（経営者）	・資材供給や職人の不足はこの先まだ続くとも予想されることから、現状からの好転は望めない。		
金属工業協同組合（職員）	・震災復興関連にかかわる事業分野は忙しくなるが、海外向け、特に半導体関連が底から浮上するにはかなりの時間を要する。内需向け新規開拓がなかなか難しい。		
やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・TPPへの参加が、米の取引価格に少なからず影響する。	
	電気機械器具製造業（営業担当）	・現状では3月以降の受注が見えないところが非常に多い。ものづくり企業にとって景気が上向きというのは別世界の話しに聞こえるというのが現状である。	
悪くなる		—	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
雇用 関連 (東北)	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・これまで求人をストックしていたが新卒採用を始める企業が増えてきている。
		人材派遣会社（社員）	・取引先の経済対策への期待感が大きく、実態として効果が出始めれば上向きの確度は大きくなる。一方、高齢者雇用安定法の施行により、若年者を主とする新規雇用の創出効果は若干と予測する。
		人材派遣会社（社員）	・新政権に代わり、その効果が前倒しで出てくることに期待している。
		アウトソーシング企業（社員）	・前年3月と比べ既に仕事の依頼が増えている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新政権の経済政策はまだ何もなされていないが、マインドは良い。
		民間職業紹介機関（職員）	・若干であるが求人数も増加傾向にある。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・求職者の動きは徐々に鈍化しており、一時の勢いは見られなくなっている。市場は二分化しており、正規、非正規での働き方でそれぞれ固定されてきている。求人だけが多くなってきて、求職者が少なくなっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・3月決算の企業などからの駆け込み出稿が期待されるが、それでも前年と同程度の出稿になるような勢いは見られない。このままであれば前年比80%台まで落ち込むことも予想される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・3月は年度内の駆け込み需要に対する動きは見えるが、新年度ではまだ様子見などところがある。
職業安定所（職員）		・新規求人数は引き続き前年同月より増加するものとみるが、介護関係の求人は増えていて製造関係は減少しているなど、業種に偏りがある。	
職業安定所（職員）		・製造業の回復次第とみるが、特に回復の兆しはみられないため、当分同様の状況ではないか。	
職業安定所（職員）		・今後も企業整備等の予定もあり、求職者は増加するとみられるため状況が良くなるとは考えにくい。一方で新規開業の小売店、介護施設などもあることから求人数も高水準で推移すると予想される。	
職業安定所（職員）		・まだまだ復興が続いていく状況のなか、年度替わりにおける要素もあり不透明なところはあるが、現在の状況が劇的に変化する要素には乏しい。	
職業安定所（職員）		・求人数の前年比増加傾向は続いているものの、業種別の温度差が顕著である。	
職業安定所（職員）		・企業に円安の影響を聞いてみると、今までの差益損が一部改善されたのみで、まだ景気は上向いていないようである。また、2月以降、周辺企業で大規模なリストラが予定されており、今後求職者の増加が考えられる。	
やや悪くなる		人材派遣会社（社員）	・現在、登録者を増やす種々の方策を進めているが効果が出ない。案件と就労希望者のアンバランスが2、3か月先も続く。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・3月は3年目を迎える節目となり、それに合わせて全国的に注目も高まるとみられるが既に風化は始まっており、一方、風評被害はますます強まることが懸念されている。いかにそれに立ち向かっていけるかである。被災地の真価が問われる正念場を迎えることになる。	
	職業安定所（職員）	・新年度からの受注減が予想されるとのことで、企業からの休業などの雇用調整の相談が増加している。	
	職業安定所（職員）	・有効求人倍率は24年5月から24年12月まで8か月連続で増加したが、25年1月は9か月ぶりに低下している。また、3月末には未確認ながら、従業員約30人のホテル及び従業員約20人のサービス業の事業所で閉鎖が予定されている。	
悪くなる	—	—	

4. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
----	----------	-------	----------------

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北関東)	良くなる	コンビニ（経営者）	・やはり、春になって暖かくなることが、来客数、売上の増加につながると期待している。ただし、1つ懸念としては、競合店の進出などがあり、そのため、若干相殺されることは考えられる。
		スナック（経営者）	・確かに良くなってきている様子であるため、このまま伸びてもらいたい。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・当店の取引先は官庁、学校が多く、店での小売は客が大型店に行ってしまう、どうしても大型店に対抗できない。1年で一番の繁忙期である新学期、また、入学すると子どもたちが各クラブに入り、運動のクラブ活動が始まるため、良くなってもらわないと困るし、良くなることを期待する。
商店街（代表者）		・期待をしている。暖かくなれば人の動きも活発になり、自然と何かを買い求めると思う。今月の冬の祭りの売出しでも、人出があれば多少なりとも品物は売れ、買上の数字は上がっている。	
商店街（代表者）		・桜が咲き、祭りやゴールデンウィークにかけてにぎわうことを期待する。	
百貨店（営業担当）		・株価が上がり基調になっているため、期待感により消費マインドが若干上がってくるのではないかと。	
百貨店（店長）		・購買ムードは高まっているため、春になり気温が上がってくれば、動きが活発になってくると考えている。	
コンビニ（経営者）		・天気の良い日の来客数増と、若干だが単価が上がってきていることが少しずつ目立ってきている。3月に入り春めいてくれば、もう少し良くなってくる。	
コンビニ（経営者）		・2、3か月後は気温も上がり、土日に家族連れの客が増えるためである。	
コンビニ（経営者）		・現在、客単価が非常に低くなっているが、今後は幾分高くなるのではないかと。	
コンビニ（店長）		・先月末に近隣に同じチェーンの加盟店が新規オープンしたため、今月はかなりの影響を受けたが、2か月後はある程度元に戻ると期待している。	
衣料品専門店（統括）		・期待を込めて良くなってほしいと思っている。今年は例年になく寒い日が続く、客の出足が悪い。早く暖かくなり、購買意欲が増すようになってもらいたい。	
住関連専門店（経営者）		・当社でも、中堅から若手を中心に前年度よりも昇給幅を厚くしようと考えている。モチベーションアップもあるが、所属する商工会でも同様のようである。建築、土木、工業等では、わずかながら受注量が増加しており、人材の流出防止のためでもある。収入の増加による地方景気の回復は遅いかもしれないが、前向きにとらえている企業が増えてきている。	
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（従業員）		・公共事業など建設関係は忙しいと思われる。	
一般レストラン（経営者）		・少なからず、海外に依存していた鉱物が国内でかなりの量が見つかるなど、明るい要素が出てきている。	
観光型ホテル（営業担当）		・オフシーズンも終盤となり、数か月先の予約状況に動きが出始めている。来客数の動きも悪くない。	
都市型ホテル（スタッフ）		・公共投資が非常に多くなってきているため、今後、建設業やそれに関連して景気はやや上向いていくのではないかと。民間の企業もこういったところで埋め合わせと思う。そのため、やや良くなるのではないかと。	
旅行代理店（経営者）		・気候が良くなって、来客数の動きも活発になってきている。契約する客もかなり増えてきている。新政権になり、皆が明るい気持ちになりつつあると思う。	
旅行代理店（所長）		・為替相場や株価が現状は良い方向に向かっており、当座は良いのではないだろうか。ただし、円安による海外旅行代金の値上がりが想定され、消費税増税も購買力低下を促進する可能性があるため、長くは継続しないのではないかと。	
タクシー運転手	・3、4月は歓送迎会の時期であるため、少しは動くと思うが、これが過ぎるとまた悪くなるのではないかと。		
遊園地（職員）	・景気回復への期待感が高まっており、2、3か月先の景気は今月と比較してやや良くなると推測される。		
ゴルフ場（支配人）	・2月期の反動で、春を待つプレーヤーからの予約が土日を中心に入ってきている。暖かさとともに予約が増える状況だが、前月をカバーできる組数ではない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他レジヤ施設 [アミューズメント] (職員)	・株価の問題を含めて全体的に上向き傾向が強いせいもあり、求人をかけても人があまり集まらない。やはり、労働条件があまり良くないところに関しては一般の人の応募も少ない。より良い職種を選んでおり、景気が良くなりつつある発端のような感じがしている。
		設計事務所(所長)	・今月は何件かの問い合わせがあったため、今後は少し上向きになる可能性を信じて、やや良くなる。
	変わらない	商店街(代表者)	・行楽時期の天候にもよると思うが、高齢者が外出する機会が増えることで消費がなされるのではないかと。
		一般小売店[精肉] (経営者)	・大分暖かくなるという予想である。このままいけば幾分良くなる気はするが、変わらない。
		一般小売店[家電] (経営者)	・太陽光発電の電力買取価格が新年度から下がり、今の勢いが止まってしまうことを心配している。そのために、それほど良くなるとは思わない。
		一般小売店[家電] (経営者)	・生活に精一杯の様子が全般にみられ、生活用品の購入にも慎重さがみられる。
		一般小売店[乳業] (経営者)	・今年に入ってからの消費の落ち込みが激しく、まだ回復の兆しはみえない。
		一般小売店[青果] (店長)	・世間は株高などで、雰囲気的に景気が良いようだが、当地域は、大企業が7月に合併し消滅することが間違いないため、雰囲気的にも悪く、各工場、中小企業の工業関係なども全く良くなっていない。
		百貨店(販売促進担当)	・これから入進学の実需を迎えるが、年々縮小傾向にある。また、季節の変わり目だが春物衣料の動きが鈍い。今後も引き続き購入への意欲はシビアであると思う。
		百貨店(販売促進担当)	・円安、株高との報道が目立つが、それに連動しての給与増は見込めないため、個人消費の改善には至らない。
		百貨店(販売担当)	・大きな改装などを仕掛けないと、新しい客を取り込むことが難しい。
		百貨店(店長)	・現状も良くないが、新政権の政策の効果がもし出るとしても、まだ先であると思う。
		スーパー(店長)	・曜日ごとの客数は、数か月間変化がない。
		スーパー(総務担当)	・マスコミ等で景気が回復傾向と言われているが、来店客の収入が増えなければ購入には結びつかない。また、多少の収入増では節約志向を変えることはできないと思う。消費が回復するにはまだまだ時間がかかると思う。
		スーパー(統括)	・県内製造業の業況があまり思わしくなく、生産水準の低下で従業員の所得が減っていることが、県内の個人消費の鈍化につながっているとみられ、本格的な景気回復がまだみえない。
		スーパー(経営企画担当)	・株価上昇などはみられるが、給与所得が上らなければ、末端の小売まではすぐには良くならない。
		コンビニ(経営者)	・円安、株高で上向き気味だが、一般消費者の財布のひもが緩むような景気にはならず、先行き不安材料は多い。アルバイトは学生に加え社会人も相変わらず多い。20時から4時の勤務は、半数が社会人によるダブルワーカーである。しかも、女性、主婦もいる。
		コンビニ(店長)	・このところの極端な天候の変化などが、大分影響している。客単価は若干だが上がってきているため、あとは来客数だけ元に戻れば何とかかなと思う。今後はあまり変化はないだろう。
		衣料品専門店(販売担当)	・天候頼みや催事的なものを除けば、今と同様に客の動きは鈍いまま推移していく気がする。しかし、年齢が高い当店の客層を考えると、春になり暖かくなれば動きは良くなると期待しているが、今とあまり変わらない状況が今後も続くのではないかと悪い予感がしている。
		家電量販店(店長)	・地上デジタル放送化特需の先食いの影響が終了する4月からは、テレビの前年比は回復すると予測できる。ただし、金額的には現状のままである。大きな金額構成比を持つ商品が出ない限り厳しさが続く。
		家電量販店(営業担当)	・太陽光発電事業を計画している企業、個人は多い。しかし、売電価格が未確定のため、動きが停滞している。
		乗用車販売店(経営者)	・政府の経済政策で景気が上向けば、例年3月以降は販売量が減少するが、それが緩和されると思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（販売担当）	・現在、前年を上回る空前の売行きである。しかし、今以上に売れるとは思わないし、このままの状態が続くのではないかと思う。
		乗用車販売店（営業担当）	・例年だと、この時期は自動車の具体的な商談が発生したが、今のところ件数が少なく、車検の予約等もあまり増えておらず、不安でいっぱいである。
		乗用車販売店（販売担当）	・ここ何か月もずっと同じような中古車の販売台数と新車販売の落ち込みで、とにかく良くなる要素が見当たらない。当店は生き残るためにミニ展示会を実施したり、とにかくいろいろ努力はしているが、相変わらず新車や輸入車の新車の伸びがなく、中古車がほどんどしか売れない。この状態が昨年の暮れからずっと続いている。何か良くなる要素が特別あればいいのだが、景気はそれほど変わらないと思う。
		自動車備品販売店（経営者）	・特に良くなる要因などは、まだ手応えとして感じないため、現在と変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・政権が変わり、アベノミクス効果で円安や株価上昇が続いているが、その影響を受けているのは一部のことで、なかなか我々末端のほうにまでは、その影響が及んでこない。
		一般レストラン（経営者）	・政府の景気対策が、我々飲食業界へ影響している実感はまだない。
		スナック（経営者）	・変わらないと答えたが、この悪い状況が変わらないということ、決して良いほうの回答ではない。本当に何か向こうが見えないような気がする。新内閣になったが、末端までくるには、まだ程遠いような気がする。
		観光型ホテル（経営者）	・今年は短期的な施策が非常に立てにくい。為替の乱高下、参議院選挙等、世の中が落ち着かないため、思ったより景気は冷え込むとみている。
		観光型旅館（経営者）	・短期的な顧客増加の動きと、長期的な需要減少とのバランスで考えると、昨年と変わらない。
		都市型ホテル（支配人）	・3月以降の予約は、大体例年どおりのペースで入ってきている。
		旅行代理店（従業員）	・為替、原油など、まだまだ不安定なためである。
		旅行代理店（営業担当）	・景気が上向きのような雰囲気はマスコミの報道ばかりで、現実的に身の回りでは景気が上向き要素がない。
		旅行代理店（副支店長）	・春先から夏に向けて、ほぼ前年並みの受注ではある。東日本大震災等の影響は薄れてきており、復興支援のための旅行も多い。しかし、海外旅行は燃料価格、為替の変動が安定しないため受注に波があり、先が読めない。
		タクシー運転手	・売上金額の前年比が、ここ3、4か月ほぼ同じである。
		通信会社（経営者）	・ガソリンや灯油や生活必需品の値上がり、重荷になっている。
		通信会社（局長）	・政権交代とともに景気回復への期待感は大きかったが所得拡大などの具体的な変化までには至らず、景気回復に対する実感はなく、期待が過大であったという声が多く聞かれる。
		通信会社（総務担当）	・現在、企業としては持ち直してはいるが、消費者に反映されていない。景気対策が消費者に反映されるまでには、まだ時間がかかりそうである。
		テーマパーク（職員）	・来園者数は増えつつあるが、東日本大震災後の諸問題が影響し、良くなる材料が乏しい。
		ゴルフ場（業務担当）	・2月については、史上最高の入場者を記録することができたが、単価が下落しているため、売上はそう出ていない。客のニーズについては、プレー回数はシニア層を含めて年々増えており、特に富裕層の増加は顕著に見込まれる。プレー費が安いとプレー回数も多くなるが、良いプラン、料金の安いところに客が集中する傾向にあるため、業績、収支がプラスになるのはなかなか難しい。
		競輪場（職員）	・全国発売の記念競輪の売上が、ほぼ横ばいである。
		美容室（経営者）	・来月から卒業式等のイベントがあるが、消費者は出費をする状況であり、ガソリン、灯油等が上昇しているため固定経費が増加し、良い方向に向いていない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美容室（経営者）	・悪い状態で変わらない。地方の街では、打つ手がないと思えるほど景気は冷えきっている。そういったなかで景気の回復などとニュースなどで聞いても、それは都会での話なのだろうと思える。この街でも助成金などを受けながらテナントショップなどを作っている市民の動きもあるが、店内はいつも閑散としている。自己資本なら決して続けられないし、また、人の流れも回復できなかつたとして既に撤退しているだろう。地方と中央はあまりにも違いすぎる。
		その他サービス〔清掃〕（所長）	・景気が良くなる期待感はあるが、すぐに給料等の上昇は期待できないため、大きな変化は望めない。
		その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	・政府の景気対策への期待感から来客数は増えてはいるが、売上等に関しては買い控えが顕著に起きているため、変わらない。
		設計事務所（経営者）	・仕事量からすると、しばらく忙しくなりそうである。
		設計事務所（所長）	・来月は決算のため、追い込まれて忙しいとは思いますが、受注の貯金がないためかなり厳しい。
		住宅販売会社（従業員）	・別荘滞在客が高齢化しており、若年層は別荘所有よりリゾートホテル志向が強い。
		住宅販売会社（経営者）	・消費税増税が実施されるかどうかには特需が生じるかが掛かっている。当業種は、景気が上向きになっている実感がないと良くならないため、変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・受注は好調に推移しているが、職人が不足しており、施工が予定工期に収まらない事例が散見される。東日本大震災の復興に人手が取られている間は売上が頭打ちとなり、原価も厳しくなることが想定される。
	やや悪くなる	スーパー（商品部担当）	・円安で輸入品の価格高騰による影響が出てくる兆しがある。
		乗用車販売店（従業員）	・燃料費の高騰が今後も続くと思われるため、大きく増加することはなく、また、少子高齢化により減少傾向になっていくと思う。
		乗用車販売店（統括）	・4月からは取扱商品に特に目新しいものがないためである。
		高級レストラン（店長）	・近隣の個人商店が、近いうちに数店舗閉店する話を聞いており、まだまだ状況が悪化すると思われる。
		スナック（経営者）	・3、4月の異動時期の予約が、今のところ非常に少ない。
		タクシー（経営者）	・昼も夜も客の動きが悪く、この先もまだ悪いと思う。
通信会社（経営者）		・当面は円安による仕入価格高騰で利益がひっ迫する状況が続く。	
悪くなる	一般小売店〔衣料〕（経営者）	・当地域で地震が起きており、観光地であるため、再び地震が発生すると経済的にも大変だと思う。そういったことを考えると、景気が良くなることはありえない。	
	スーパー（経営者）	・出店ラッシュが更に続くため、悪くなる。	
	衣料品専門店（経営者）	・新政権になってから、政府の発表どおりの景気の良さは、地方の商店街では全くみられない。	
	通信会社（経営者）	・行政や外郭団体までもが緊急雇用でデザインや広報を内製してしまえば、それだけ企業に流れる仕事は減少する。企業にお金が流れなければ、一般でお金が流通するはずもない。この負のループはいつまで続くのか。	
	企業動向関連 (北関東)	食料品製造業（営業統括）	・円安、株価上昇と政府の景気回復政策も良い方向に進んでおり、比較的回復の遅いし好品であるワインへ良い影響が出てくると考えられる。
やや良くなる	その他製造業〔環境機器〕（経営者）	・現在太陽光の42円買取制度に合わせて高圧太陽光発電が動き出す予定である。	
	窯業・土石製品製造業（総務担当）	・デフレ脱却に期待している。	
	一般機械器具製造業（経営者）	・中国向けの油圧ショベルの仕事が若干回復し、受注が入ってきている。また、自動車の開発関係を中心に、新規案件の話も引き続き出てきている。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	・様々な業種で、何となく良い方向に向かっている感じがする。	
	輸送用機械器具製造業（経営者）	・取引先、競争相手等もしばらく低迷していたため、これ以上低迷しそうもなく、若干でも良くなると思う。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・大手自動車メーカーからの生産の3か月見通しからは、3月がピークになり、4、5月になると1月ごろにきた生産見通しからみて8%ほど生産計画が上振れしており、全体的に国内も少し好調になってきている。ただし、その反動で6、7月には減産計画が立っているが、全体的には徐々に持ち直してきている状況である。	
		建設業（総務担当）	・補正予算も成立し、発注量の増加が予測される。	
		金融業（調査担当）	・国の政策対応により、先行きのマインド面は改善する見通しである。	
		不動産業（管理担当）	・大きな管理先は失ったが、比較的大きな建物の管理の話が新たに増えてきている。価格競争も一服した様子であるため、今後の収益の見通しが、少しではあるが期待できる。	
		広告代理店（営業担当）	・新年度の販売促進予算は、前年より1割以上多くとっているようである。期中に増える可能性もあるとの声を聞くので、多少は良くなる。	
		経営コンサルタント	・新年度に向けた景気浮揚への期待感はある。ただし、イタリアに発した世界経済への影響、為替変動、原油価格の高値推移などが懸念され、地域企業の先行きに対する期待感は乏しい。	
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・価格は相変わらず厳しいが、引き合い、受注量共に増加傾向にある。	
	変わらない		化学工業（経営者）	・4月からの新年度で、製品を購入したいとの話が東北地方から入ってきている。東日本大震災の復興が本格的に進み始めたと感じる。
			窯業・土石製品製造業（経営者）	・新商品投入に期待感はあるものの、すぐ数字となって現れるとは思えず、現状のまま推移する。
			金属製品製造業（経営者）	・取引先である換気扇部品製造の会社から、3か月先には仕事が多くなると言われているが、今まで同様あまり当てにならない。また、全体的にどの取引先からも仕事量が少なくなってきた。
			電気機械器具製造業（経営者）	・仕事確保のため、あらゆるつてをたどって営業をしている。仕事の単価は下がるが、賃金を上げると言っており、中小零細企業はますます身を切らねばやっていけなくなる。あらゆる努力をして、現状以上を確保していきたい。
			電気機械器具製造業（営業担当）	・民間工場の設備投資が非常に少ない。景気回復にはまだまだ時間が掛かりそうである。
			その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・4月以降、春めいて暖かくなれば動きは出てくると期待している。ただし、昨今の地金を含む材料費の高騰で、商品単価が上がることによるジュエリー離れが懸念される。
			輸送業（営業担当）	・新生活向けに引越依頼の予約やそれに関連する白物家電、インテリア雑貨などの物量の確保は前年並みになりそうである。しかし、円安傾向により、原油高による燃料高が今後も続きそうであるため、利益確保は難しい。
通信業（経営者）			・景気が上向き期待感の割りに、上向きの実感は得られない。まだまだ時間が掛かりそうである。	
金融業（経営企画担当）			・観光業は、春の観光シーズンに向かうため期待感はあるものの、製造業は抜本的な景気対策も見出せず、先行き不透明な状況が続くと思われる。	
金融業（役員）			・アベノミクスの浸透はこれからと予想しているため、現状ではまだ変わらない。	
新聞販売店〔広告〕（総務担当）			・食糧品店、飲食店での話では、消費者は必要最小限のものしか求めない。ホームセンターでは、1人当たりの買物点数が1.5個減少している。円安でガソリン、灯油が値上がりし、今後輸入品に頼る商品では価格転嫁など経営面で頭が痛いと話している。	
司法書士			・ややムードが先行している部分があって、明るさは取り戻しているが、補正予算の効果も当地域まではまだ届いていない気がする。	
社会保険労務士			・円安等の恩恵を受けるであろう製造業でまだ変化が見られない。しばらくは今の状況が続くと思う。	
やや悪くなる				出版・印刷・同関連産業（営業担当）
	一般機械器具製造業（経営者）	・受注は底を打ち、今より悪くなるとは考えられないが、当分上昇の兆しは見えず、非常に不安を感じている。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（経営者）	・恐らくアベノミクスの効果が我々のところに回ってくるのは、半年か遅ければ1年後になると思う。安定的な政権ならば十分我々のような中小企業にも影響があると思うが、状況としては、かなり厳しい。やはり生産の海外移転が止まらず、製造業としてはかなり苦しい状況が続く。
		不動産業（経営者）	・周囲には、正規、非正規を問わず雇用そのもの、あるいは労働条件で困難を抱えている人々が増えているため、やや悪くなる。
	悪くなる	食料品製造業（製造担当）	・原油価格が高騰し、灯油も100円になりつつある。デフレ下でこの状態が続くと収支が非常に厳しい。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月、資金繰りが本当に大変である。
		電気機械器具製造業（経営者） 建設業（開発担当）	・4月から、当社が生産している電話送受話器の半数が海外生産に移行する予定であるため、受注量が減少する。 ・公共工事は現在、施工がピークであるが、3月以降9月までは補正予算が計上されるため期待したい。ただし、施工の速い工種に発注が集中しそうで、工種的に恩恵を受けるのは難しいかもしれない。今後は営業に力を注ぎ、特に民間工事受注が大事である。
雇用 関連 (北関東)	良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・デフレ脱却、成長への期待感が高い。政策の効果に対する期待感が強い。
	やや良くなる	人材派遣会社（管理担当）	・携帯電話関連で短期の派遣契約が増える予定である。
		職業安定所（職員）	・企業から、底を打った、先が見えてきた等の声が聞こえてきた。各データにはすぐには反映されないと思うが、上昇傾向になってくる。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・何か景気が良くなる感じはしているが、現場ではまだ景気が全く動かず、先行きは分からない。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・周辺企業の景気上昇はまだ大分先になる見通しである。
		職業安定所（職員）	・東北の復興に関わる建設業関係の新規求人数は、前年比31.8%増となっている。特に、中小個人事業主の新規登録からの提出が多い。また、運輸業においても建設業の動きに合わせて東北関連の流通が活発化しており、求人数も増加している。ただし、製造業においては円安で動きはあるものの、雇用につながるまでには至らず、職種間の雇用の受け皿にばらつきが目立つ。
		職業安定所（職員）	・企業からの求人申込みが若干増加の様子をみせているが、派遣求人等の正社員以外での求人が目立ち、採用への意欲の高まりは全体的にまだない。
		民間職業紹介機関（経営者） 学校〔専門学校〕（副校長）	・景気への期待感は上がっているが、実態にどう反映されるか慎重に考えている企業が多い。 ・正規採用の採用基準が非常に高い状況が続いている。高卒の採用枠も少なく、資格などスキル面なども重要な要素であるが、人間性が重点的に見られているように感じる。
	やや悪くなる	人材派遣会社（経営者）	・販売では、衣料品や食品関係のパート募集はあるが、今後は新学期や卒業を迎えた人の再就職なり新卒者が出てくるため、パート等の募集は非常に少なくなると思う。また、製造関係は非常に少ない状態であるが、幾分増えていくという期待を持っている。しかし、今のところ少ない状況であるため何ともいえない。
		職業安定所（職員）	・2月の新規求人数は、ほとんどの産業で減少しており、前年同月比10.3%減と大きく減少している。また、管内企業の現況について、訪問したり窓口で聞くと、内容的には先月同様、仕事量は変わらないが、コスト面では価格競争が厳しい状況であるという。また、親会社側が取引先と4月以降の契約が厳しい状況であるなどの声もあった。また、現時点では、25年3月くらいまでは仕事はあるものの、その後ははっきりしない面もあり、管内企業におけるの合併や事業統合などの影響から、仕事量的にも今後厳しいという説明なども多いことから判断した。
	悪くなる	—	—

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない)			
分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)	良くなる	コンビニ (経営者)	・政府の対策が良いためか、仕事に就く人が多くなった感じがする。またホームレスが非常に少なくなっているような感じがする。
		乗用車販売店 (販売担当)	・新政権の圧勝と、アベノミクスへの期待感が日常に相当出ていると思う。また復興予算が実施され、景気の底上げということで建設関係のダンプカー、ミキサー車、クレーン車が増えてきており、景気が徐々に良くなってきているように思う。ただし、これは期待感であり、このあと数か月間様子をみないと何とも言えないが、このまま上昇気流に乗れば、トラック関係も少しは呼び戻せるのではないか。
		その他小売 [雑貨卸] (経営者)	・総理の方針が、明確に連続して発信されているからである。
		一般レストラン (経営者)	・1年を通じて2月が一番悪く、売上の少ない時期のため、おのずから2、3か月先の売上は良くなる。加えて、景気にプラスの動きが出てくれば、今よりはかなり良くなるのではないか。
		観光名所 (職員)	・2月は1年間で一番の閑散時期である。3か月後になると春のゴールデンウィークを控えているため、今よりはかなり良い数字になると期待している。
	やや良くなる	商店街 (代表者)	・政治に対する安心感が戻ってきたことと、それに伴う消費者マインドが少し改善していることが挙げられる。特に株価好調は、当地域のような富裕層の街には、好影響をもたらす。資産の価値が上がり、消費マインドを好転させているように思う。
		商店街 (代表者)	・商店街や地域を担当する特別区の担当課が、国の補助金を用いて観光客を誘致する事業を策定しつつあり、実現すれば、いくばくかの地域活性化につながると期待できる。
		商店街 (代表者)	・マスコミで景気が非常に良くなると言っており、政治状況も変わってきたため、客の反応も多少明るくなっている。また、桜が咲いてくると心がうきうきしてくると思う。そのため、期待しており、多少は良くなってくるのではないか。
		一般小売店 [家電] (経理担当)	・省エネ、防犯商品の買換えを勧めており、少しずつ売れてきているため、品物が動いてきそうである。
		一般小売店 [家電] (経営者)	・新政権になり、いくつかの対策のうち、1つや2つは効果があるのではないかと期待している。
		一般小売店 [祭用品] (経営者)	・アベノミクスの影響で、円安等の影響のないところでも動き出した気配を感じる。
		一般小売店 [文房具] (経営者)	・来月、最寄り駅が地下化される。南口、北口の交互通行が踏切がなく円滑にできるため、非常に人通りが増えるのではないかと思う。しかし、当商店街は道路計画に入っているため、店舗が飛び地で非常に商店が少なくなっていることが心配である。
		百貨店 (総務担当)	・百貨店のため、個人消費が伸びていかないと会社の景気は良くなるが、客の景気が本当に良くなるのは、2、3か月後ではなく、来年度下期ぐらいではないか。それまでは景気は本当に緩やかに推移し、大きな変化が出てくるのは夏の賞与以降であると予想される。その頃になれば、我々小売業にも明るい兆しが見えてくる可能性があるのではないか。
		百貨店 (営業担当)	・アベノミクスをマスコミが流布しているため、一般消費者も景気回復を期待して、春先に購買が伸びる可能性がある。
		百貨店 (営業企画担当)	・円安や株価上昇による企業収益の回復が個人消費を刺激すると思う。
		百貨店 (管理担当)	・デフレ脱却と経済再生を目指すアベノミクスにより、円高是正、株価回復などの結果が出ている。
		百貨店 (営業企画担当)	・40周年の記念企画や、優待などの特別対策を行うことで、来客数、販売量の上昇を狙う。
		百貨店 (店長)	・現在の状態が続けば、消費税増税までは好調に推移するのではないか。
		スーパー (店長)	・季節も冬から春へと移り、政治に対しての期待感や、生活仕事も多くあるため、多少良い方向へいくと思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・政府のアベノミクスの政策、経済対策次第だと思うが、現在の客の雰囲気や行動は、将来にある程度展望が見えてきているような感じを受け、今後もそのような客の気持ちが続けば、今よりはやや良くなっていくのではないかと。
		スーパー（営業担当）	・このまま円安、株高基調が続けば、景気の上向きは相当期待できるのではないかと。
		コンビニ（経営者）	・季節的な要因として、暖かくなっていくことは良いことだと思う。また、アベノミクスによって、ムード的にいくらか良くなっていくのではないかと。
		コンビニ（エリア担当）	・円安や株価上昇による輸出拡大など、連日の消費マインド改善ニュースもあり、期待ができる。
		コンビニ（商品開発担当）	・アベノミクスによる消費意欲拡大に、少しだけ期待したい。
		衣料品専門店（店長）	・購買意欲が高く、この状態が急激に変化するとは考えられない。
		衣料品専門店（店長）	・例年より寒い冬ということを除いても、来客数が昨年を超える傾向が続いてきており、単価も微増してきていることから、大きく伸びるとまではいかなくても少し良くなると思う。
		家電量販店（営業統括）	・新社会人、新入学生などの新生活関連の商材がピークを迎える。また、桜の観光シーズンが始まり、花見を目的に訪日する観光客は毎年増加している。
		乗用車販売店（経営者）	・日本全体がアベノミクスの影響で購買意欲が高まり、景気回復の兆しがみえる。消費税増税までは、このまま順調に景気が上向くと思う。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備と販売をしており、整備は順調に入っている。販売は先月まであまり良くなかったが、来年度から消費税が上がるということで、今月から駆け込み需要で注文が増えてきている。
		乗用車販売店（経営者）	・ひと月の間にも、購買意欲に波があるように感じる。高止まりしても、現状よりやや良くなる程度だと思う。
		乗用車販売店（販売担当）	・ここにきてガソリン高騰のせい、ハイブリッドや低燃費車両を中心に売れており、また景気上昇のムードで客の反応も少しずつ良くなっており、販売台数も伸びている。
		乗用車販売店（営業担当）	・消費税増税の雰囲気だけで、上がる前に買ってしまおうという声は最近が多いように感じる。自動車取得税が廃止になるのは浸透していないようである。国民性なのか、せっかちな年配者が多いようである。
		乗用車販売店（渉外担当）	・ハイブリッド車を中心に前年並みに推移している。楽観視できないが、今後もガソリン高騰の要因もあって小型ハイブリッド車の好調が続く、新型車も高く評価されているため、やや良い状況が続く。
		高級レストラン（店長）	・宴会予約の推移から判断し、やや良くなると思う。
		一般レストラン（経営者）	・今の段階で政権交代が景気面ではプラスに作用しているようである。寒さの割に客足が少し戻ってきている。
		一般レストラン（経営者）	・民間の企業では、不動産や建築、物流といった分野が伸びているようである。客の宴会もその方面はかなり増えている。逆に公共事業で入札をしている企業はかなり厳しい状況で、当地域でも大手企業2社が2月に倒産した。
		一般レストラン（経営者）	・今月の前年比の最終結果予想は売上95%になると思う。少しずつ100%に近づいているため、2、3か月後は前年比で100%を超えてほしい。早く良くなるとそれまで耐えられるか心配である。
		一般レストラン（経営者）	・飲食店、サービス業等に影響が出てくるのはまだ先のような気もするが、株価も1万円台になっており、アベノミクスの影響で少し景気が良くなるように期待をしている。
		一般レストラン（スタッフ）	・やや良くなるというのは希望的観測だが、やはり皆が明るく思わなければ良くなる。まだまだ時間がかかると思うが、良くなってもらわないと困るし、良くなると思う。
		都市型ホテル（スタッフ）	・婚礼の受注が進んでおり、法人の宴席予約は、件数、人数共に前年をオーバーしている。宿泊も近隣のイベント数に大きな変化はなく、レストランも工夫次第で高単価商品が売れるため、良くなると思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（従業員）	・国内団体旅行の予約率は同週比40%と低迷しているが、1日平均80件程度の見積件数が100件を超えるようになってきており、回復傾向にある。
		旅行代理店（支店長）	・2、3か月後は春になる。円安傾向から海外からの来訪客があり、スカイツリーへのインバウンドが良くなる。また、新年度を迎え、報奨などのツアーが伸び出すため、その点もプラス材料と考えている。
		タクシー運転手	・会社からの無線オーダーが増えている。客の話にも仕事に関する話題が多く、以前に比べ愚痴や悩み事の話が少ない。このまま夜間の客数増へと流れがあれば良い。
		タクシー運転手	・中国、韓国との領有権の問題はくすぶっているが、多少落ち着いてきたようである。アベノミクス効果で経済が上向きになる。
		タクシー運転手	・新政権に変わったことにより、これから良くなっていくのではないかと。
		通信会社（経営者）	・アベノミクス効果や、TPP参加に見通しがついたためである。
		通信会社（経営者）	・新政権の政策が実現され、デフレ脱却することを期待する。
		通信会社（経営者）	・昨年末に販売開始された商品の専売にて、テレビ、インターネットの需要喚起が期待できる。また、セット販売による電話の付帯も期待できる。
		通信会社（営業担当）	・政権が変わり、インフレの政策が実現されるように感じる人も多く、数か月後には景気が良くなると感じている顧客は多い。
		通信会社（営業担当）	・今後、消費者のニーズを的確にとらえたサービスを提供できれば、単価が若干上がっても受け入れられる地合ができていくように思う。
		通信会社（局長）	・2、3か月限定でいえば、通信業界特有の繁忙期特需が見込める。固定通信とスマートフォン、インターネットの連携で特需が受けられる一部の通信会社は好調であり、期待できる。
		通信会社（管理担当）	・一つ一つ施策を遂行しているため、このまま施策どおり進めば回復傾向になる。デフレ懸念も取り下げられた。
		ゴルフ場（支配人）	・3、4月の予約数が予想以上に確保できている。
		その他レジャー施設 [スポーツ施設]（支配人）	・ファミリーを中心に来場数が増加傾向にある。消費単価も若干ではあるが高くなってきており、緩やかではあるが右肩上がりで推移していくと思う。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（支配人）	・アベノミクスの効果が感じられ、消費者マインドも上向きになってきた。1人当たりのゲーム料が上がっている。今後は円安による輸入品の値上げで水を差されることも想定されるが、上向きでしばらく推移していくのではないかと。
		その他レジャー施設 （経営企画担当）	・催事の予約が堅調に推移している。個人消費の回復も期待される。
		美容室（経営者）	・政権交代により、皆の動きが良くなった。
		その他サービス [福祉 輸送]（経営者）	・現在受注している新型大型車の納期が、2～3か月掛かるため、新車が実際に登録をされ、売上になる3か月後は景気が若干上向くと感じている。
		設計事務所（所長）	・耐震改修等のコンサルタント業務が、設計業務とつながっていくのではないかと。
		住宅販売会社（経営者）	・やや良くなることに期待している。新政権が変わってから数々の景気対策が打たれているが、その効果がいつ出てくるのか分からない。即効性のある景気対策を期待している。今年中に明らかに景気を回復させないと、来年4月1日より消費税を上げることができなくなってしまうのではないかと。
		住宅販売会社（従業員）	・先行指標である展示場への来場数が増えているため、今後景気は良くなると思う。
		住宅販売会社（従業員）	・現状は販売が好調でこのまま続いていくと思う。しかし、在庫が減り、仕入に苦労している。売主がこれからもっと景気が良くなると思ってか、強気な感じが取れる。仕入、在庫の確保が今後の展開に大きく影響してくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		住宅販売会社（従業員）	・政権交代し、ニュース等でも景気回復への期待感が言われており、客がそろそろ動こうという気持ちになってきていると感じる。住宅の新築、建て替えを考えている客は建築に時間が掛かるため、9月末までに請負契約を締結して消費税5%を確保しようとしており、具体的な商談が増えてきている。今後は少しずつ景気が良くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・これだけ政策に対する期待が高まっているのは、近年では珍しいのではないかと感じる。期待を込めて景気はやや良くなると思いたい、期待外れに終わって消費税などの負担増だけを取りざたされるようになれば、かなり冷え込むだろうという危機感がある。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・消費税増税前の駆け込み需要が見込まれる。
		商店街（代表者）	・最近の客の様子だが、予算について真剣に考え、非常に慎重であり、できるだけお金を出したくないという感じがしている。そういった状況のなかで、今後どうやっていけばいいか大変不安である。そうした不安が今後もまだまだ続くのではないかと感じている。
		商店街（代表者）	・現在の社会的な状況からみて、とにかくすぐ良くなるとは思えない。天候が良くなり、暖かくなれば少し状況が変わってくると思う。この寒さが続くと、そう簡単に上向くとは思えないため、暖かくなることを心待ちにしている。
		一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・3、4、5月と様々な季節の行事があるため、購買意欲が出てくると予想される。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・これから消費税増税等があり、その前に購入しようという客がやや増えてくるのではないかと感じる。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・政権交代し、景気が良くなるとは言っているが、急激な速度での変化はないと思う。また、ある一部の業種に対しての景気浮揚はあるかもしれないが、末端まで景気が良くなったと感じるには、相当時間がかかるのではないかと感じる。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	・法人客の案件数も安定してきており、現在、件数が結構あるため、これ以上増えることはあまりないと思う。また、1件当たりの単価が上がるよう努力はしているが、客は予算が限られているため、これ以上急激に上がることはあまりないのではないかと感じる。景気が若干良くなっている状況が、このまま維持されるのではないかと感じる。ただし、個人客の財布に関してはあまり変化はなく、かえって単価が下がっているため、来客数を増やす努力をして、何とか補っている。
		百貨店（売場主任）	・円安、株高の傾向も不安定なものに思われ、春のセレモニー終了後の春物の消費には、まだまだ結びついていかない状況だと思う。
		百貨店（総務担当）	・大きく状況が変わるとは言い難い。しばらくはこの状況が続くと思う。食料品の強化等の取組をしながら、季節商材などをどのようにアピールしていくかを考え、客目線で品揃えや戦略を行う必要がある。
		百貨店（広報担当）	・夏の参議院選挙までは、何とかアベノミクス効果が持続され、小売業も現状維持かやや良くなるように思う。反面、政府から円安などによる小麦の輸入価格引上げが発表されるなど、円安による製品価格への上乗せが景気へ悪影響を与えることも予想される。ここ2～3か月で顧客の購買行動に出てくる可能性もあり、楽観視はできない。
		百貨店（営業担当）	・先行きが読みにくい状況は続くと考えている。一部富裕層については、円安、株価上昇は購買意欲を増進する効果はあると思うが、一般消費者への波及はこれからといったところである。しばらくの間は、大きな環境の変化はないと推察される。
百貨店（営業担当）	・良くはならない。衣料品関係にとって円安は大きな問題であると同時に、原油の値上がりなどの影響で価格に反映されることは必至であり、景気は良くなると感じるが、婦人服にとっては追い風にはならない。		
百貨店（販売促進担当）	・現在の景気対策への期待を込めて良くなると思いたいところだが、2、3か月では身の回りの景気は変わらないと思う。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売管理担当）	・政権交代により、景気のプラス基調が強固になったため、消費意欲の上昇が期待できるが、すぐに給与に反映されるわけではないことから、いままの時期は、現在と状況が大きく変わることはないと思う。
		スーパー（経営者）	・良くない状態がまだ今後2～3か月同じように続くと思うため、変わらない。今年は天候が安定していないため、非常に左右されている。また、12月の景気は良かったが1月から元に戻っており、なかなか世間の景気に追いついていかない感じがする。根本的に競合店が新しくできているため、影響を受けている。
		スーパー（店長）	・本来ならば、やや良くなると回答したいが、3月に当店から徒歩1、2分の所にまた競合店が出店する。3か月先は、今の現状維持の数字でいってほしいという期待から、変わらない。
		スーパー（店員）	・景気が上向き傾向であり、また、そのような雰囲気は消費動向にもみえるが、実際の買上内容、買上点数からみると、まだまだ必要な物、必要な分だけということや、買い回り傾向が見受けられる。実感として、身の回りの所得改善など、まだ肌で感じられないのが現状だと思う。
		スーパー（総務担当）	・円安になって株価が上がり、景気が非常に良くなるようなニュースがあるが、小売業としては、最終的に給与に跳ね返り、客が買物をするのはまだまだ先のように思う。可処分所得がまだ行き渡っていない状況のなかで、下げ止まったまま景気動向は良くない状況が続く。
		スーパー（仕入担当）	・インフレに振れてくると1品単価が上がり売上はアップするが、輸入品は円安で仕入価格が上がる傾向にあり、利益が圧迫されてくる。
		スーパー（仕入担当）	・競合各社との価格競争はより厳しくなり、体力消耗戦の様相を呈している。客の来店頻度は変わらなくても、買上点数や一品単価の下落が避けられない状況である。
		コンビニ（経営者）	・良質な商品へのウェイトの高まりはあるが、安価なセール品への需要も多く、景気の変化は期待できない。
		コンビニ（経営者）	・これといって上向きな要素が見当たらない。
		コンビニ（経営者）	・客の様子、近隣の様子を聞いても変わらない。
		コンビニ（経営者）	・客数が増えてきている。
		コンビニ（経営者）	・毎朝来店する社員の常連客が、このところ何人も退職あるいは異動で残念ながら会えなくなっているケースが多々ある。また、必ず朝買物をしてきたが、駅の近くに競合店ができ、そちらのほうが便利のため利用しているという客が大勢いる。また、夕方から夜にかけても競合店のビルにカラオケボックス、居酒屋など飲食店ビルとしてオープンしている。
		コンビニ（経営者）	・客数減の幅がだんだん短くなってきており、憶測だが、5、6月ぐらいにはプラスに転じるかもしれない。
		コンビニ（店長）	・世の中の状況や、春に向かうことにより、客の動きが若干良くなる。落ちるということはなく、まず変わらない。その次にやや良くなる。
		コンビニ（商品開発担当）	・競争環境は一層厳しさを増しており、来客数の大幅な増加が期待できない。
		衣料品専門店（経営者）	・新政権の景気対策は評価できるが、中小零細企業や一般消費者が良くなるまでには、まだまだ時間が掛かるものの、今より少しは良くなるという期待の声が聞こえるようになってきている。
		衣料品専門店（経営者）	・アベノミクスにより雰囲気は良くなっているが、末端の収入が増えるまでには時間も掛かり、なかなか行き届かないと思う。また、天候次第で買上が増える場合もあるため、あまり変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・3、4月は入学シーズンで売上は一番高い月になる。しかし、生徒数が減少し、また、リサイクルが多いため、年々前年比で落ちているため、あまり期待できない。
		衣料品専門店（経営者）	・変わらないというより、実際は分からないといったほうが正確である。政権交代し、アベノミクスということで市場では歓迎ムードであるが、末端の実体経済、また我々の周りでは、そういった動きはまだなく、円安による値上がりのほうが気になる。今後どうなるか分からない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（経営者）	・前年より良くも悪くもなる条件はない。顧客中心に春物を来月より大きく展開するが、一般の動きは実需型になり、温度に左右されることが多い。商材的にも大きくリードするアイテムは見当たらない。
		衣料品専門店（営業担当）	・景気は良い方向へ向かっているが、今後の経済は急には良くなる見えない。
		家電量販店（店員）	・現状において特に景気の流れが不透明な部分があり、コメントしづらい。
		家電量販店（統括）	・金融政策が実行され、その効果が消費に現れるには時間のずれがある。
		乗用車販売店（総務担当）	・ここ数か月は現状維持の傾向で推移している。円安傾向、株価上昇の度合いによっては、車の売行きが上昇すると思うが、さほど期待はできない。
		住関連専門店（統括）	・円安になったが、まだまだ効力を発揮する状態ではないと思う。2、3か月はこの状態が続くのではないかと。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・景気回復の期待感だけではなく、最終消費者の懐具合、実収入の増加が実現できるまでに時間がかかりそうである。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・1月14日の大雪以降、売上が苦戦している。景気回復の期待感も一服し、実際に家計所得が増加しているわけでもなく、生活に大きな変化がみられない現状から、消費が停滞することを危惧している。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・今後の円相場や様々な要素が絡みそうなので、はっきりしたことは言えない。
		高級レストラン（支配人）	・この先の受注状況は前年よりやや良い程度で、大きく改善している感はない。各企業は様子見しているのではないかと。
		一般レストラン（店長）	・とにかく客が全く来ない。ビルにも人がいない状況であり、3か月先は近隣のビルの閉鎖も決まっているため、良くなるというよりは、更に悪くならなければいいと思う。
		都市型ホテル（スタッフ）	・雰囲気だけではなく、実体経済がどうなるかで今後の景気が変わってくる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・先々の予約も動きが鈍く、不透明な状況である。直近の動きに期待をしたい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・富士山の世界遺産登録など、観光機運の盛り上がり期待したい。
		旅行代理店（経営者）	・今はインターネットで直接宿を取ってしまうことが多すぎる。団体に関してもインターネットでの取引のほうが多いため、個別に当店のような中小企業に足を運んでくれる客数は少なくなってきた。
		旅行代理店（従業員）	・これ以上悪くはならないのではないかと。世間の空気、思惑によって気分だけでも景気が良くなり、新規の受注状況にも変化が出ることを期待したい。
		タクシー運転手	・例年2月はあまり良くない月ではあるが、今月は景気が一層落ち込んでいるような感じがする。マスコミ等で騒いでいるアベノミクスとは関係ない感じがする。
		タクシー運転手	・円安による値上がり結構尾を引いており、その影響を心配している。また、客が増えないことへの影響が心配である。
		タクシー（団体役員）	・現在の利用客の状況から2～3か月後にすぐ良くなるとは思えず、しばらくは変わらない。
		通信会社（社員）	・現状との変動要素は見当たらない。安定した加入を想定している。
		通信会社（局長）	・将来の希望がみえて、社員の給与が上がれば購買意欲につながると思うが、デフレが長く続いた影響もあり、また、スマートフォンも一定量購入が進んだなかでは、更に景気上昇につながる要素があまり考えにくい。
		通信会社（営業担当）	・現状では、良くなる材料が見当たらない。
		通信会社（営業担当）	・全体的に景気の好転の影響が出るのは、もう少し先になってからだと思う。
		通信会社（総務担当）	・日本の景気が悪すぎる。回復を目指し公共事業等に力を入れる政策に戻ってはきたが、東日本大震災の影響もあり、ここまで落ちたものは、すぐには回復しないと思う。
		ゴルフ場（従業員）	・新政権への期待を込めて、回答を悪くなるから変わらないとした。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		パチンコ店（経営者）	・当店もライバル店も集客を凶っているが、さほど上下がない。また、先行きを考えて特別悪くなる要素も、良くなる要素もないため、現状のまま推移するのではないかと。
		その他レジャー施設 [アミューズメント] (店長)	・直近2か月は安定状況にあるものの、その反面、母体の動向は悪化しており、ここから更に伸びる要素が見られない。
		その他サービス [保険 代理店]（経営者）	・今の状況を維持できれば、景気が変わらなくても増収が見込める。このまま大きな変動がない状態を期待する。
		その他サービス [立体 駐車場]（経営者）	・大都市は景気が良くなってきているようだが、地方の小規模企業ではまだまだ時間が掛かると思う。
		その他サービス [学習 塾]（経営者）	・現在、生徒の入れ替わりの時期のため、次々に中学3年生が辞めて売上は下がっていく状態である。4月以降にならないと人数が多く入ってくるか分からないため、景気の判断が難しい。4月以降に新入生が多く入ってくれば良くなっていくと思うが、今の段階では横ばいの状態である。
		設計事務所（経営者）	・行政のPRがあり、民間の建物の耐震診断の情報が数多く流れている。しかし競争相手も多く、民間の耐震診断を受注することも非常に困難となっている。今までの実績等を踏まえ、そして当社としてのPRも踏まえ、頑張っているが新しい仕事に結びつくのは難しい状況である。4月に向かって、新しい年度としての行政の仕事の発注がどのようになるかも分からない状態であり、友人、近隣、情報を探りながら新しい仕事への形を整えていくことを考えている。
		設計事務所（職員）	・建築業界には、東日本大震災の復興需要の本格化及び、潜在的な労務不足が工事発注時の不調や、設計段階での見積り高騰となり、影響が顕在化してきている。建築工事では1年前に比べ少なくとも10~20%高騰していると思われ、更に消費税増税により景気好調となるかは疑問である。
やや悪くなる		住宅販売会社（従業員）	・駆け込み需要で契約は上がっても、売上にはまだ貢献してこないため変わらない。
		商店街（代表者）	・良くなることを期待しているが、悪い状況が少し続くように思う。早く良くなって欲しい。
		一般小売店 [茶]（経営者）	・消費税増税や電気料金の値上げなど、消費者の買い控えが高まる一方、販売単価の低下により、小売店の経営はますます厳しくなると思う。
		一般小売店 [家電] (経理担当)	・移動や進学などがあり、商品の動きのある時期になる。リフォームなども、声かけをすると案内需要があると感じる。細かいことから勧めていくと、話を聞いてくれて仕事につながる。
		一般小売店 [茶]（営業担当）	・企業の福利厚生費はカットされ続けて、欲しい飲み物は各自で負担するという自動販売機等が根付いてきている。
		衣料品専門店（営業担当）	・これから本当に厳しい時代がやってくる。資金力があるところだけが生き残り、中小企業はどんどん倒産するだろう。銀行の貸し渋りも原因であり、政治が一番守らなければいけないところを履き違えていると思う。
		その他専門店 [ドラッグ ストア]（経営者）	・競合店がまた増えることが決定しているため、客の取り合いになるのが目に見える。
		その他小売 [ゲーム] (開発戦略担当)	・当面は大型タイトルの発売次第の状況が続き、市場の低迷は続くと思う。
		旅行代理店（従業員）	・アベノミクスにより円安に振れて海外旅行の価格が高くなり、旅行者の割安感がなくなる。
		設計事務所（所長）	・全体的に景気が上向きというが、予断を許さないと思う。東日本大震災の復興で資材が高騰したり、人出が非常に足りないのが現状である。やはり各下請業者は仕事がなくどんどん閉店しているのが現状である。したがって、これから景気が良くなっていくということはなく、足元がしっかり固められていないうちに、ただ上っ面だけ滑っているのは、なかなか厳しい状況が続くのではないかと。
悪くなる		一般小売店 [家電] (経営者)	・アベノミクスで株価が上がっているというニュースがあるが、中小企業の工場、また設備投資等の話は全くきいていない。インターネット等で安い商品等が出ており、対抗はどうしてもできないため、見積りも合わなくなっている。電化製品等はずっとデフレになっていくような気がする。
		一般小売店 [食料雑 貨]（経営者）	・オーバーストアのため、前年より売上を上げるのは難しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔靴・履物〕（店長）	・当店の客をみると、これから資源価格が上がるということで、給与所得者はその値上げ前に、また消費税増税前に買上げることもあるだろう。しかし、年金生活者は防衛に移っており、安い物でなるべく出費を少なくするような感じが出てくるため、悪くなるのではないかと心配している。
企業 動向 関連 (南関東)	良くなる	輸送業（経営者）	・良くなるという保障はないが、この景気が続いたら我々中小企業は終わりに終わってしまうのではないかと心配から、そうなってほしいとの願いである。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・株価上昇によるマインドが大きい。
	やや良くなる	食料品製造業（経営者）	・新しい販路が開拓できたためである。
出版・印刷・同関連産業（経営者）		・時期的に取引先の需要が期待できそうである。ただし、新規事業の受注は未定のため、様子見の感がある。	
出版・印刷・同関連産業（営業担当）		・個人客で、象牙の実印を8万5千円で注文した客がいた。1万円前後の実印は良い物であり、当店では象牙でも3万円以内で売っているが、思い切ってこの際だから購入しようという客や、他にも少し高めの物を注文する個人客が現場で出てきている。	
金属製品製造業（経営者）		・円安傾向もあり、国内生産量が増える可能性がある。	
電気機械器具製造業（経営者）		・株価が更に上がり、国の予算が施行されれば我々にも多少なりとも仕事が回ってくると思う。その前に、中小企業金融円滑化法が終了し、その影響がどの程度出るのか不透明で先が読みにくい。	
精密機械器具製造業（経営者）		・株価上昇、アベノミクスで期待感があり、補正予算も出たが、いまだ製造業では効果が出ていない。大企業のみで中小企業には効果が出るまでに時間がかかると考える。	
建設業（経営者）		・官庁関係も補正予算での発注が期待されることと、設備投資が動き出したようである。	
建設業（経営者）		・とりあえず1年は続きそうである。	
建設業（営業担当）		・最近、景気対策による企業の設備投資傾向や、消費税増税前の駆け込み需要による発注案件が増えている。しかし、顧客との会話では一時的なものと考えられる。また、請負側としては物資単価の上昇に伴い、契約時との差があると採算割れを起こす懸念があるため、不用意には請負えない状況である。	
建設業（経理担当）		・なかなか受注価格にまで反映しそうにはないが、確実に工事案件の数は増えている。消費税増税や株式相場の上昇で、計画していた客が動き出してきているようである。	
輸送業（経営者）		・3か月後に景気が良くなるということではなく、何か月後になるか分からないが、補正予算が通ったため、財政と融資が非常に活発化されると思う。景気への影響度は高いと思っている。	
通信業（広報担当）		・アベノミクスの効果で今月よりは上向くと思う。	
金融業（統括）		・円安、株高により、少しずつ景気が上がっていきそうである。	
金融業（役員）		・消費に対するマインドが変化してきた。今が買い時という気持ちが強くなってきているように思う。	
金融業（支店長）		・ねじれ国会を解消するためには、参議院選挙まではアベノミクス効果を期待する傾向が強い。しばらく良い環境が続くのではないか。	
不動産業（従業員）		・法人、個人共に注文が増加している。	
不動産業（総務担当）		・入居希望テナントの問い合わせが増えてきているため、今後空室率の改善が見込める。入居希望テナントのなかには、直接当社の営業部に問い合わせるテナントもあり、その場合、仲介手数料やフリーレント期間も短縮できるため助かる。	
広告代理店（営業担当）		・クライアントより、来年度は予算が若干増えると聞いている。ただし、業種による。エンターテインメント業界はユーザーの接触方法が変わっているだけに、先が読めないのが現状である。	
税理士		・今後の政策に期待して消費は活発になると思う。	
経営コンサルタント		・季節変化なども影響する。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		税理士	・北米での日本製品の売行きが、やや良くなってきている。米国の景気が少し回復してきていることや、また円安によって日本車が売れていく。ただし、新興国は中国が停滞しているため弱まっている。もう一つの大きな要因は、国内の政治である。政権交代して、様々な積極的な政策をしていることで、内政が活性化してきており、すべてを引っ張っていつているため、少し良くなっていくのではない。
		経営コンサルタント	・希望的観測だが、輸出企業が円安の恩恵を受けて、その余波が中小製造業にも近々くるものと想定される。
		その他サービス業 [映像制作] (経営者)	・現在、取引先からの問い合わせがきているが、実際に受注できれば、やや良くなると思う。
		その他サービス業 [情報サービス] (従業員)	・光回線開通数が着実に伸びてきていることから、当面、この傾向が継続すると思う。
		繊維工業 (従業員)	・世間では円安で輸出産業の経済効果を強調しているが、国内の製造業にとっては、輸入品が高くなるといっても国内回帰は期待できず、安価な商品に向かう今の状況が続くと思う。
		出版・印刷・同関連産業 (所長)	・依然価格の見直しや、部数削減等の販売促進費の圧縮傾向はまだ続きそうである。
		出版・印刷・同関連産業 (総務担当)	・一部の業種のみ業績が上がっても、景気が良くなってきたとはいえない。新政権に期待はするが、中小企業まで景気回復が浸透し、実感できるまでかなりの時間を必要とするはずである。実際のところ待っている余裕もない。
		化学工業 (従業員)	・景気が良くなると言われているが、その割に荷動きは良くない。円安によって原材料の値上げの打診があり、景気が良くなるとは思えない。
		プラスチック製品製造業 (経営者)	・輸出関連部品に改善の兆しは見えるが、足元の内需関連部品は停滞状況で、顧客の投資意欲も低く、厳しい状況がまだ続く。
		プラスチック製品製造業 (経営者)	・アベノミクスの成果は、少し出てくるかもしれないが、3か月後ぐらいでは大きな変化はまだない。
		金属製品製造業 (経営者)	・政策による景気の上向きに期待は持てるが、現状は変わらず低調である。材料費など値上がり傾向が気にかかる。
		金属製品製造業 (経営者)	・零細企業では、電気料金、ガソリン等の値上げの分を上乗せできるようになるには当分時間がかかると思う。社員の給料を上げるようにと政府も声をかけているが、その状態になるにはまだまだ時間がかかる。ただし、救われるのは仕事量が少し多くなってきていることである。
		一般機械器具製造業 (経営者)	・景気の回復に大変期待しているため、よろしくお願ひしたい。
		電気機械器具製造業 (経営者)	・景気が良くなる期待感是非常におう盛だが、現実に当業界に景気が良くなる動きが出てくるのは、おそらく予算執行後である。末端にまで及んでくるのはまだ先であり、建設復興とは違って緩やかに良くなっていくのではないかと考えている。
		輸送用機械器具製造業 (経営者)	・仕事の絶対量が少ない。政権交代により、皆が少し良くなるのではないかという表情だったため、先月やや良くなるだろうと報告したが、ここへきてイタリアの選挙、スペインの問題等があり、再びリーマンショックのような状況がきたら、日本ではもうものづくりはできなくなってしまい、我々も皆倒産してしまうだろう。そういったことで見通しが立たなくなってきた。
その他製造業 [靴] (経営者)	・政権交代し、株価や様々な意味でかなり上向きのようだが、我々のところまで良くなっているということではないため、当面はこのままの状態が続くと思う。		
建設業 (経営者)	・新しい政策が実施されない限り、変わらないと思う。		
輸送業 (経営者)	・新年度、新学期を間近に迎え、取扱量の増加が見込まれるが、燃料価格が毎月上昇し続けており、かなり経営を圧迫してきている。また、人手不足等の不安材料を加味すると、好材料が相殺されてしまう。		
金融業 (従業員)	・円高の修正や株価の上昇によって、景気回復への期待感が出ているものの、中小企業金融円滑化法が期限切れを迎えた後の影響も明確ではなく、消費税増税による影響も不透明である。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		金融業（渉外・預金担当）	・短期での改善は見込めないとの見方が強い。	
		金融業（支店長）	・根本的に中小企業の客は、売上増加はまず見込めない。また、今後も消費税増税等で様々な経費が増えていくことへの不安感等がある。できれば公共事業等、仕事が出るような政策を早めに打ってもらいたい、まだまだ見えていない。また、利子の延滞も変わらず増加していることを鑑みると、2、3か月先はそれほど景気が良くなり、変わらないのではないかと。	
		不動産業（経営者）	・全般的に賃貸市場もまだまだ低調である。客が少なくなっている。	
		広告代理店（従業員）	・新政権になってからも、当社に限り、販売量が増える様子はみられない。	
		社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない。	
		経営コンサルタント	・政権交代による期待は大きい、成果が出るのは少し先である。目の前の円安は、輸入比率の高い食料品を直撃しそうで家計への影響は早い。また、この先に控えている消費税増税への対応について、店主たちは頭を抱えている。	
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・顧客の値下げ要請のみならず、原油が上がって輸送トラックや機械の燃料、原材料への値上げが始まってきており、更に利益が圧迫されることが予想される。	
		やや悪くなる	一般機械器具製造業（経営者）	・客の話を聞くと、総体的に良くない。また、生産の見通しでも良くないということで、今後良くなるわけがないと思う。
			その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・円安に歯止めが掛かったためである。
			その他サービス業〔警備〕（経営者）	・4月に入ると受注残が減るため、落ち込む。
	悪くなる	輸送業（総務担当）	・荷主の出荷量は、年度末までは増加計画であったが、下回る見込みである。また、今月に入って燃料価格が大幅に値上がりし、採算のとれない運賃となってきた。新年度は確実に採算割れする見込みである。	
		広告代理店（経営者）	・来期予算は軒並み削減という声しか聞こえてこないため、景気という面では悪くなるとしか想定できない。	
雇用 関連 (南関東)	良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・年度替わりということで、効果が確実に表れている。予定で15～16社と大きい募集をもらっている。相当期待できている。	
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・円安が輸出企業に追い風となっている。輸出関連企業、特に自動車を中心とした業績回復が明るみとなっている。欧州の信用不安と不透明感はあるが、生産の増加に伴う雇用の維持、拡大が期待できる。	
		人材派遣会社（社員）	・顧客の状況として、しばらく活発な需要が続くとみられる。	
		人材派遣会社（支店長）	・政権交代により、求人企業に活気が出てきたようである。実際、求人数も3か月前と比べると、上昇傾向にある。	
		人材派遣会社（営業担当）	・契約終了に対して採用数が微増で推移している。新政権になってからの景気回復への期待感がこのまま継続してほしい。	
		求人情報誌製作会社（編集者）	・合同会社説明会への参加企業が増えると予想される。特に中堅、中小企業に動きがある。	
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・求人を出す企業がやや増えてきているため、今後にも期待したい。	
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・広告に関する問い合わせが増えている。4月以降の案件も多く、このまま順調にいけば求人件数も増えるだろう。	
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・特に新規の取引が増えているため、その流れが続けば総数が伸びると思う。	
		職業安定所（職員）	・これから円安、株価上昇により、どのような影響が出るかわからないが、現在、製造業、食品加工の求人が出ているため、少し期待している。	
		民間職業紹介機関（経営者）	・採用まで時間がかかっている状況は変わらないが、国内景気回復期待から求人が増えている。	
		民間職業紹介機関（経営者）	・国内での景気回復感が、最近の販売状況から期待されている感じだが、実感としてはまだ時間がかかりそうである。求職者は安定企業志向が強い。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・景気は回復傾向にあるが、取引先企業の様子も以前に比べると明るく、この状況が続くそうである。
		人材派遣会社（営業担当）	・年度替わりの時期にて人員体制の見直し、派遣期間満了終了、後任採用の中止等が見込まれ、派遣労働者数が減少する。
		人材派遣会社（営業担当）	・求人、求職者はあまり増えていないが、離職率が下がり、仕事を選んでいると仕事に就けなくなる傾向がますます強くなるようである。
		人材派遣会社（支店長）	・派遣依頼数が増えているが期間限定が多く、長期安定的な業績にはつながらない。
		職業安定所（所長）	・求職者は減少、求人は増加を続けており、悪い方向には進んでいない。アベノミクスも滑り出しは順調に見える。しかし、物価は上がるが賃金は上がらないのではないかと不安や、日銀の独立性への懸念、さらにイタリア選挙の影響で円高に転じるなど、景気の先行きは不透明である。
		職業安定所（職員）	・人手不足のIT、医療、サービス業は、求人数の増加も見込まれるが、新規採用について経済動向の様子を見している中小企業も多い。
		職業安定所（職員）	・今後製造業の業績が回復しても、投資先は海外へ向かってしまい、なかなか国内の雇用増にはつながらにくい。
		職業安定所（職員）	・採用者数は減っている状況であり、変化はない。
		職業安定所（職員）	・新規求人の増加により求人受取窓口は混雑が見られるなど明るい兆しもある一方、以前に希望退職募集の相談に来所した事業所が、回避すべく努めたが実施せざるを得なくなったと再来するなど依然として求職者増加の懸念がみられる。
		民間職業紹介機関（職員）	・上昇局面に入ってきているとは感じるが、今と比較して良くなるかどうかは、まだはっきりしたものは見えていない。
		民間職業紹介機関（職員）	・医療業界の求人増加傾向が継続するものなのか、一時的なものなのか、現時点では判断できない。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・求人、採用依頼を兼ねて企業訪問をしているが、採用予定のある企業は、前年並みの人数で採用を予定しているとのことである。まだ採用するかどうか未定である企業も多い。
		学校〔専修学校〕（就職担当）	・来年度学生向け求人の採用予定状況を確認しているが、前年との比較で大きな伸びは見られず、求人数の大幅な増加は見込めていない。
	やや悪くなる	—	—
	悪くなる	—	—

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (東海)	良くなる	商店街（代表者）	・まだまだ2～3か月間は好調が続くと思う。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・いよいよ、遷宮に向けての盛り上がりが増速していく。
		コンビニ（店長）	・年度末、年度初め、新学期等を迎え、暖かくなり、人の動きも活発化して、かなり良い状態になるのではないかと。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・客の購買意欲等を見ると、良くなるように思える。また、社会の景気も良くなる傾向にあるため、売上も増えてくるのではないかと。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・メディア関係の取材も多くなって、これから盛り上がることは必至である。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・消費税増税前にと考えるのか、街の人の動きや車の流れは多くなってきている。人が動けば、飲食業界に携わるものとしては期待ができる。ただし、現在元気のある飲食店は、丁寧な本物の仕事をしており、価格も手頃感がある店である。客のお金の使い方はまだまだシビアであり、新しい提案ができる業界にならない限り、来客数は安定的に増えない。
		一般小売店〔自然食品〕（経営者）	・客に何かきっかけがあれば、購入につながる様子が見える。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	・政権が変わり、特に小売店にとっては、非常に期待が大きい。もうしばらく時間が掛かることは分かっているが、期待も込めて、前政権の時よりは良くなると思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場主任）	・これから、春・夏物の新作が出来てくる。新しいブランドも増える。当地は新しい物好きが多いため、売上は少し増えると思う。例年と違って、卒業式・入学式で子供に靴を買う客は減っているが、自分の靴を買う40～50代の購買意欲はある。今後も売上は良くなる。
		百貨店（経理担当）	・政府の景気対策による円安、株高効果が続く限り、上向きの景気が続く。
		百貨店（販売担当）	・企業業績が従業員に還元されることが前提であるが、購買動機の向上により、物や人の動きは活発になる可能性がある。原材料価格の高騰により、生活必需品の購買を控える可能性はあるものの、高額品を中心に、来年4月の消費税増税に向けて、一時的に購買額は増える。ただし、根拠のある力強さはなく、不安定な状態は続く。
		百貨店（販売担当）	・消費税増税までは、今の状況が続くのではないかと。
		百貨店（営業企画担当）	・4月に大型ショッピングセンターの開店があるため、一時的に消費は増えると思う。ただし、全体のパイは変わらないと思われ、今後の競争激化は必至である。
		百貨店（経営企画担当）	・政府の経済対策や株高の影響などにより、消費者マインドの改善、消費税増税や円安に伴う各種商品の値上がり前の需要が、一定程度見込まれる。
		スーパー（経営者）	・デフレ脱却が相当進み、円安は輸出産業も含めた大きな利益に貢献する。特にアメリカに対する輸出効果は大きく、貢献度も高くなっていくと思う。公共投資、民間投資が増えて、不動産は忙しくなり、雇用も増えてくる。問題は、年金を受け取る人が増え、医療費も増え、個人が消費できる金額が少なくなっている。3か月先の景気も徐々に良くなるが、個人が良くなる実感は、まだまだつかめないと思う。
		スーパー（店長）	・厳しい寒さが続き、購買意欲が少し削がれた感があるが、気温が上昇するに従って、景気は少しずつ上昇していくと思われる。
		スーパー（総務担当）	・節分の催物の各種関連商品の売上が、前年同月比で10%以上伸びている。
		スーパー（営業担当）	・政権交代後は景気が浮揚する兆しがあり、消費者マインドも良好な状況にあると見受けられることから、良くなる傾向にあると思う。
		スーパー（営業企画）	・政治が安定してきており、新政権に対する期待に伴う経済効果が、まだあると思う。
		スーパー（支店長）	・アベノミクスに期待する。
		スーパー（商品開発担当）	・イベントのある日を中心に、売上に回復傾向が出てきている。まだ少しではあるが、少しずつ下げ止まった感じが出てきている。
		コンビニ（店長）	・株高や円高で景気回復感があり、これが早く個人消費に回って欲しいという願望を込める。
		コンビニ（商品開発担当）	・補正予算の通過により、公共事業が増加し、客単価の上昇が見込める。
		衣料品専門店（販売企画担当）	・環境が上向きになってくると、販売量も自ずと増えてくる。
		家電量販店（店員）	・希望的観測と季節的な要因もあるが、3か月先には暑くなり、季節商材の売上も増えることが見込まれる。日本経済は、4月以降は回復基調になって欲しいという思いもあって、やや良くなる。
		家電量販店（店員）	・新政権の公共投資を中心とした予算編成が、ある程度けん引していくのではないかと。海外に関する不安要素はあるが、若干良くなる気がする。
		乗用車販売店（営業担当）	・客の物に対する購買意欲は、上がってきている。
		住関連専門店（営業担当）	・新築住宅、リフォーム、民間企業の設備投資など、消費税増税前に工事をしようという動きが出始めているため、販売量は増加傾向になる。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・政権交代により、経済の上昇機運が高まり、消費者マインドも上向きになりそうである。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（営業担当）	・卒入学など新生活でライフスタイルが変化するタイミングであり、消費の活発化が期待できる時期である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（スタッフ）	・イベントに対する客の反応が改善してきたことや、客単価が上昇していることから、売上は前年水準にまで回復している。先行きの楽観は許されないが、景気は底入れしたように感じられる。
		一般レストラン（従業員）	・政権交代して、新政権の景気対策に期待している。
		スナック（経営者）	・寒波から解放され、客からは株の配当が久しぶりに出た等の喜ばしい話題も聞かれ、期待も持てる。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・このままの雰囲気が続けばもう少し上向くが、増税の言葉が踊りだせば、元通りになる。
		都市型ホテル（営業担当）	・製造業を中心に円安の影響で景気が良く、ホテルの宴会場利用も増えてきている。
		旅行代理店（経営者）	・政治が安定し、東日本大震災から2年が過ぎて社会情勢もかなり落ち着いてきたため、景気も少しは良くなると思う。
		旅行代理店（経営者）	・給料の増加が見込めれば、旅行などの余力も回復してくると思う。大型連休に期待したい。
		タクシー運転手	・この先の歓送迎会の時期は、毎年上昇している。自動車業界と、それに関わる企業の動きが良くなってきていることが、この先に期待を感じさせる。
		通信会社（企画担当）	・景気対策への期待感が広がりつつあり、実体経済にまでは波及しないまでも、雰囲気は良くなってきているのではないかと。
		テーマパーク（職員）	・家族など身近な人への投資は積極的になっていると感じるので、消費が上向いてくる要素になると思う。
		テーマパーク（経営企画担当）	・予約状況が、少しではあるが上向きである。
		ゴルフ場（企画担当）	・今後の来場者の予約数は、相変わらず順調に推移している。これからは、天候の影響をあまり受けないと思うので、来場者数は増えて、やや良くなると思っている。
		美顔美容室（経営者）	・もうすぐキープキャンペーンが始まるため、新規客が増えると思う。
		美容室（経営者）	・今は寒くて雪が多く、パーマに出てくる客は少ないが、3～5月になれば、気温も高くなり、出やすくなることから、パーマの客は増えると思う。
		美容室（経営者）	・行事が多くなるため、来店回数が増える。新生活に向けて来店する人が多いため、少しは良くなる気がする。
		住宅販売会社（従業員）	・輸入部材の価格が上昇傾向にあり、消費税増税よりも早く決断しないと、販売価格が上がってしまうと考えてくれるようになった。
	変わらない	商店街（代表者）	・良くなる材料は見当たらない。
	変わらない	商店街（代表者）	・個人消費はもちろんだが、客単価が高い仕事関係で購入する客も少ないため、売上の減少につながっている。
	変わらない	商店街（代表者）	・今の状況は、当面維持されるのではないかと。ただし、法人需要が多少伸びることに期待する。
	変わらない	商店街（代表者）	・商店街の状況を考えると、相変わらず好転するとは思えない。当店で、成長エンジンとなりうる商品がなかなか見つからないと感じている。
	変わらない	一般小売店〔結納品〕（経営者）	・全体では景気が良いらしいが、ガソリンや小麦の値上げ等もあり、個人消費が上向くのはまだまだ先だと思う。
	変わらない	一般小売店〔時計〕（経営者）	・景気対策に多少の期待は持てるが、輸出企業にはメリットでも、一般庶民にはまだ回ってこない。増税の影響もあり、財布のひもは固くなる傾向にある。
	変わらない	一般小売店〔生花〕（経営者）	・3か月先に良くなっているとは思えない。
	変わらない	一般小売店〔薬局〕（経営者）	・アベノミクスで、株価などは持ち直している。このお金が世の中に回り、景気が良くなって欲しいが、薬業界に回ってくるには時間が掛かりそうである。調剤部門は安定している。花粉症の流行で関連商品の動きが良くなることを期待する。
	変わらない	一般小売店〔食品〕（経営者）	・一部の企業では、業績改善や経済対策の決定を受けた動きはあるが、消費者にとっては当面物価が上がらないようにと思っていることが一番だと思う。消費者が経済対策の恩恵にあずかり、景気が上向くのは、まだまだ何か月も先の話だと考えている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔贈答品〕 (経営者)	・今後3か月間を考えると、あまり変わらない。増えている会社と減っている会社がある。パイは同じだから、取り合いをしている。全体的なパイが増えない限り、取り合いしている感じであり、変わらない状況が続いている。
		一般小売店〔果物〕 (店員)	・3か月ほどでは変わらない。
		百貨店(売場主任)	・買い控えが当たり前のようになっており、買わなくても過ごせるという傾向は続くと思う。
		百貨店(企画担当)	・政権交代による円安効果によって輸出産業の業績が上向き、株価が上昇するなど、景気が上向き兆しは見えているものの、まだまだ給料増加が行き渡っているわけではない。一方、燃料価格の高騰を始め、日常生活にはマイナスの影響が出始めている。そうした中で、尖閣問題で団体客が減少している中国以外のアジア系外国人による高額品の買物が、円安によってやや目立つようになっている点は、プラス要素である。
		百貨店(経理担当)	・美術や貴金属等の高額品に動きは見られるが、その他の商品については、景気回復の様子は全くうかがえない。
		百貨店(経理担当)	・このまま円安、株高の状態が継続されれば、良くなっていくと思うが、先行きはまだ不透明である。
		百貨店(販売促進担当)	・欧州を中心に、海外情勢の不安など、先行き不透明な要素がある。また、参議院選挙を控えて、結果が織り込まれるまでは、上下どちらにも離れないと感じる。
		百貨店(販売担当)	・バレンタインデーの来客数は増加したが、アパレル商品への流れにはつながっていない。
		スーパー(経営者)	・政府の景気対策に期待する。
		スーパー(経営者)	・悪い状態がずっと続いているため、季節的には良くなる方向かもしれないが、中小企業は今の悪い状態から抜け出せないと思う。
		スーパー(店長)	・第3のビールなど特売の低価格品は売れているが、価格が戻ると売れない。好みのメーカーというよりは、価格が下がったものだけが売れるという傾向で、単価上昇を図れない状況が続く。政権交代による景気回復は、食品関係では見られない。
		スーパー(店長)	・景気の先行きは、非常に不透明である。円高も戻りつつあるが、どこまでいくのか明確になっておらず、先は全く見えていない。少しずつ円安に向かうことによって、ガソリン価格が高くなることによる影響が、各所に出てくると感じる。景気が良くなる兆しは見受けられない。
		スーパー(店員)	・良くも悪くもない状況が続いている。先を見たとしても、良くなる要素がないため、今の状態が繰り返していくと思う。
		スーパー(販売促進担当)	・円が安くなったり、株価が上がったりはしているが、一般消費者の財布のひもはまだ固い。
		スーパー(販売担当)	・来客数の動向を見ても、良くなる理由は見当たらない。
		コンビニ(企画担当)	・業績好調な企業は一時金の形で賃金を増やすと思うが、雇用を増やすかどうかは不透明である。また、いつまで円安が続くかも不透明である。輸出企業が来期の為替レートを、どれほどの水準で見積もるのか、現状の水準で見積もるのであれば、気持ち的に好転するが、多くは楽観視していないと思う。
		コンビニ(エリア担当)	・当面は、今月と同様に必需品以外の買い控え傾向は継続すると思う。
		コンビニ(エリア担当)	・現在のところ、景気が良くなる要素や話題はない、また、好景気になる要素があっても、業界にすぐに影響を及ぼすことは少なく、少し時間を要するので、良くなっても2か月後以降であろう。
		コンビニ(店長)	・気候が良くなるとともに、来客数は増えると思うが、基本的に無駄な物は買わないという傾向は続くと思う。
		衣料品専門店(経営者)	・来客数は春に向かって増えるため、売上の増加が予測できる。
		家電量販店(店員)	・テレビなど売れなくなった商品もあるが、タブレットやスマートフォン、LED照明は好評であり、差し引きすると平凡な状態である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（経営者）	・好転するとしても、一部の企業や個人にとどまり、全体的には大きく変わらないと思われる。
		乗用車販売店（経営者）	・3月までは、決算時期も重なり、例年通り動きは活発になるものと予想される。
		乗用車販売店（従業員）	・今のそこそこ良い状況は、変わらないと思う。しかし、大きな出来事が起きずに、今のまま順調に進んでいけば、という前提である。
		乗用車販売店（従業員）	・今は良くなっているが、このまま一本調子でいくかどうかはわからない。経済情勢に何が起きるかわからないため、そうは上がらないと思う。
		乗用車販売店（従業員）	・全体的に、先行きに対する具体的な不安はないが、好材料もない。一部の予想では、自動車は動き出したという話を聞く。オークション相場も、特別安いわけではない。2～3か月先には、少し売れてくる可能性もあるが、今は分からない。
		乗用車販売店（従業員）	・年度末の決算に向けた活動となるが、そうした意味で、あまり市況が良くなっていくとは感じられない。世間では景気回復に向けて動き出していると言われているが、客との会話の中では、そうした実感はない。まだ、市場が活性化してきたとも言えない。
		乗用車販売店（販売担当）	・クリーンディーゼルエンジンは非常に人気があるが、補助金が不透明なため、何とも言えない。
		乗用車販売店（総務担当）	・雇用者所得の伸びがない限り、更なる景気上昇は望めないと思う。
		乗用車販売店（経理担当）	・マスコミ等が円高、株高の報道をしていることもあり、企業業績の回復に期待感もあるが、輸出企業ではない企業に関しては、それほどの回復感はない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	・売上は、前年同月比0.2%減少している。来客数は、同1.8%減少している。
		スナック（経営者）	・アベノミクスの影響もあり期待はしているが、企業が良くなり、消費者マインドの改善にまで達するには、時間が掛かる。財布のひもは固いままであり、繁華街の人出が増えるにはしばらく掛かると思うため、売上は上がらない。
		観光型ホテル（販売担当）	・現時点での2、3か月後の予約状況は、件数、人数共に前年並みではあるが、そのなかで目立つのが、仮物件の多さである。これらが成約に結び付くかどうか、気掛かりである。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数は変わらない。
		都市型ホテル（経営者）	・強力な経済政策によって、少し明るさが増したが、まだまだ先行きは分からない。
		都市型ホテル（支配人）	・景気が上向く気配はあるが、コストの上昇もあり、ホテルの法人需要が伸びる余地は限られる。
		都市型ホテル（経理担当）	・客1人当たり単価は伸び悩む。
		旅行代理店（経営者）	・アベノミクスがどこまで経済効果をもたらすのかが、まだはっきりしていない。受注や客の動向は比較的良さそうであるが、不安要素もある。
		旅行代理店（経営者）	・円安が政治状況で円高になったりと不安定要素も多く、国内旅行の実需が安近短になったり、格安航空会社で遠くまで行くことに伴い旅行業者はIT化されることによって、収益は取れなくなっている。
		旅行代理店（従業員）	・4月には市長選があり、企業や組織団体は旅行やイベントを控える。新学期や新年度のスタート時期は、旅行需要は低調であるため、プラス要素は考えにくい。現状がそのまま推移すると考える。
		旅行代理店（従業員）	・円安を受けて、東京では海外からの駆け込み需要が増えていくと聞いているが、地方にはまだまだその影響はきていない。地方にも駆け込み需要が見込めればと思う。
		タクシー運転手	・客の会話によると、良くなったと話す人よりも、変わらないまたは良くなっていないと話す人のほうが多い。夜の繁華街、飲食店街は静かであり、財布のひもが緩む状態ではない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・今の景気はやや良いと思っているが、これより急に良くなることはない。
		タクシー運転手	・そろそろ春闘であるが、ニュースを見ていると賃金を上げる動きが出ている。給料が増えれば、全体的に雰囲気は良くなると思うが、まだ判断はできない。このままとっている。
		通信会社（サービス担当）	・引っ越しシーズンに伴い、新規申込が増えると思うので、今よりも良くなると思う。
		通信会社（営業担当）	・円安イコール景気回復とは思わないが、新政権の各種政策に対して、国民の期待と不安と少々の疑問を耳にする今日この頃である。製造業等が多い地域と少ない地域があるなか、今後の政府がどのような舵取りをするのか、不明である。
		美容室（経営者）	・総理大臣が交代し、政権交代し、アベノミクスと言っているが、私たちのところではまだまだ不安で、客も動かない。
		その他サービス〔語学学校〕（経営者）	・規模の縮小によって、マイナス効果になる。
		設計事務所（経営者）	・単価を値切られることが多い。案件数も、増える気配は全くない。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税前の駆け込みまでは、横ばい状態と思われる。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（経営者）	・良くなる期待感が先行しているため、それに便乗したいが、長期的に考える必要がありそうである。
やや悪くなる		商店街（代表者）	・今春開業予定の大型ショッピングセンターに、相当の客を奪われることが予測される。身の回りの景気は、更に冷え込むと思われる。
		百貨店（販売担当）	・円安の影響で値上げになり、物価が上がり、厳しくなっていく。
		スーパー（店長）	・アベノミクスで円安が進んでいる。自店で販売している商品の中にも輸入品は多数あり、今後値上げの見通しと報道されている商品もある。それらを客が知るにつれて、節約意識が働き、余分な物を買わなくなると考えられる。
		スーパー（店員）	・株価の上昇や円安など景気の良くなるニュースが浸透しているが、油、大豆の値上がりで価格転嫁を余儀なくされる局面に来ており、値上げしてからの動向がどうなるか不安である。
		スーパー（店員）	・閉店する競合店が出ても、そこに新たに大型店が出店したりして、店の売上は削られていくと思う。
		コンビニ（エリア担当）	・競合店の出店により、商圏は小さくなる。
		乗用車販売店（経営者）	・ガソリン代の高騰などにより車両に掛ける支出全般が抑えられると予想される。
		乗用車販売店（従業員）	・新車の発表予定は特になく、前年と比較しても補助金がないため、4月以降に大幅減少することは間違いないと思われる。
		乗用車販売店（従業員）	・3月まではこの勢いを維持するかもしれないが、前倒しで注文を受けているところもあるため、4月以降は一気に冷え込むかもしれない。2月後半は来客数が減ってきているため、受注効率が悪くなってきている。収益の柱である自動車保険、車検、点検の単価も下落を続けており、しばらくは厳しいと思う。
		その他専門店〔貴金属〕（店長）	・来客数は若干増えたが、売上にはまだつながらないのが実感であり、景気回復にはまだ時間が掛かる。
		観光型ホテル（経営者）	・4、5月はもともと当ホテルの稼働が上がりやすい時期であるが、このままいくと、やや悪くなる傾向が強まる。アベノミクスで企業業績が良くなり、春の昇給に期待できれば、足元の景況感が良くなり、個人消費や法人消費に繋がる。期待ばかりになるが、今の段階ではやや悪くなるとの懸念が強い。
		通信会社（営業担当）	・円安によって、機器の価格が上昇すれば、やや悪くなると思う。
		理美容室（経営者）	・客との会話によると、灯油やガソリン代がどんどん上がっていくため、生活は苦しくなっていくと思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・介護保険の年度末の駆け込み需要が過ぎた後は、販売量も低調になると想定される。
		設計事務所（職員）	・景気が良くなる雰囲気は伝わってくるが、実際に各自治体がそのような方向に動いているかという点、まだまだである。
		その他住宅〔室内装飾業〕（経営者）	・年度末需要で3月は忙しいが、4月以降の物件の引き合いは減少している。
	悪くなる	コンビニ（店長）	・コンビニの競合店の出現による売上減は、今後も続く。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・近隣に競合店が開業する予定がある。
		一般レストラン（経営者）	・生活不安があり、たとえお金があっても、使うことにはならないと思う。
		旅行代理店（経営者）	・先の受注状況は、前年よりも少ないため、心配である。
		テーマパーク（職員）	・海外からの来客数が少ない。
		観光名所（案内係）	・あまり期待できず、変わらないと思う。
		パチンコ店（経営者）	・大規模店舗の増加で、大量廉価販売形態が優位になってきている。
理容室（経営者）		・景気の良い話は、まだまだ聞かれない。財布のひもは固くなる。	
企業動向 関連 (東海)	良くなる	窯業・土石製品製造業（経理担当）	・新設住宅着工件数が増加している。
	やや良くなる	食料品製造業（経営企画担当）	・円安、株高により業績が好転する企業も多く、全体的な景気は上向くと思われる。個々の業種を見ると、まだまだ期待先行にある。実際は、依然としてデフレ状況から抜け出す気配はなく、急激な改善は見られないと予測される。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・ゴールデンウィークに向けて、若干の上昇期待がある。
		化学工業（企画担当）	・円安、株高の好影響は、3か月後には表面化することが予測される。しかし、欧州経済においては、イタリアの政権の行方によって、景気が下振れする可能性もある。
		化学工業（人事担当）	・過度の期待はできないが、賃上げ率が少し上昇し、景気が少し上向くことが期待される。
		電気機械器具製造業	・計画が実際の投資になり、これに伴う建設関連の受注拡大が見込まれる。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・円高は是正されつつあり、為替差益による業績の改善や、輸出競争力の向上による売上の増加が期待できる。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・円安が定着してくると、海外向けの輸出量が伸びると思う。
		建設業（経営者）	・懸念される事項は多いが、消費者マインドは決して悪くない。今後も少しずつ改善するものと思われる。
		輸送業（経営者）	・客から得ている情報によると、ここ数か月間は増産が見込まれる。
		輸送業（エリア担当）	・輸出貨物では、円安の影響がそろそろ出てくる期待がある。
		輸送業（エリア担当）	・物流が動き出したためか、関東・関西方面からのトラックの入りが悪くなり、車を集めるのが大変になってきている。
		通信会社（法人営業担当）	・前政権下での無策の3年間からの脱却により、現政権への期待感が高まる。円安、株高により、投資意欲が改善する。金融、財政、成長戦略という、3本の矢への期待感がある。政治主導で、今度こそ何かできそうである。経営者のマインドも改善する。
		金融業（法人営業担当）	・最近の円安傾向は、輸出主体の自動車関連メーカーにとって、明るい材料になっている。株高も、個人消費にプラスに働いている。
		不動産業（開発担当）	・株価上昇、円安の動き等で、先行きに対する期待感がある。また、消費税増税の動向も受けて、マンション市況は活発化する。
		企業広告制作業（経営者）	・実質的効果は、今後の課題である。給与のベースが上らなければ、景気回復感は得られない。一方、失業問題は深刻であり、社会は二極化に向かっている。
		行政書士	・年度替わりに向け、少し動きが出てくると考えられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		公認会計士	・中小企業の業績は、依然として厳しい。円高の改善により、株高が期待できる。株高が消費を底上げし、大企業から中小企業まで、良い影響が見られるような兆候がある。
		会計事務所（社会保険労務士）	・自動車関連の製造業では、少しずつ受注量が増えてきている。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・大規模な案件が中部で立ち上がる予定があると、取引先から聞いている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・円安で原材料等の化学業者に動きがあるものの、現在のところ、景気は変わらない。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・円高により、海外製品との競争で有利になってきたが、原料がほとんど輸入であるため、原料の値上がりを危惧している。
		鉄鋼業（経営者）	・国の補正予算などでの受注増を期待していた業者もいるが、中小企業ではまだ、実際の受注にはつながっていない。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・円安による値引き効果で設備を購入しようとするのは、今まで設備投資を抑えてきた規模の小さいユーザーが多く、大手ユーザーの動きはまだ鈍い。円安と値引きの２段階でアピールしないと、購入を決断せず、受注できても利益が薄い状況が続いている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・大きな変動要素は予想されず、現状維持程度と推測される。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・円相場は、まだ不安定であると思われる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・貿易立国の日本にとって、為替変動が一番大きく影響するため、相場が変動している間は、景気回復にはしばらく時間が掛かると思う。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・取引先の生産計画によると、今後しばらくは、今の生産状況が続く。
		建設業（営業担当）	・世帯件数は変わらず、マンションよりも一戸建てが多いため、地方に関して言えば、当社が受ける浄化槽は増えている。都市開発として、下水管がすべて網羅されるまでは、大丈夫と思われる。増減が著しいことはないため、変わらない。
		輸送業（従業員）	・企業は競争力を弱めるような賃上げには慎重であり、政府が見込むような景気の浮揚は難しい。新卒の採用にも慎重であり、失業者は依然として減らないなど、景気浮揚への期待には根拠がない。
		輸送業（エリア担当）	・同業他社の中でも、運賃の改訂に応じられるか否かという状況が、今後も変わらないと思う。政権交代後、景気の改善を期待されるが、それが現実になったとしても、運送業界の運賃、給与は上昇していかない。
		輸送業（エリア担当）	・3月は2月の負けを取り返すため、経費節減で厳しくなる。客からもまだまだ、品質よりも価格重視の傾向が強いように感じられる。
		金融業（企画担当）	・個人投資家の動きは、引き続き活発になっていくと思われる。欧州債務危機が再燃する懸念や、日銀総裁の金融緩和の施策がどのように出てくるか、見極めた上での判断だと思われるため、当面は今のような景気が続くと思う。
		不動産業（管理担当）	・中小企業が対象のため、円安のメリットはまだ享受されていない。円安の効果が出ないと、仲介は上向かない。
		広告代理店（制作担当）	・相変わらず競合会社との比較で、値引き等が引き合いにされるため、多少受注が増えても、全体的に見れば変わらない。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・新聞を購読しない世帯が、徐々に増えている。折り込み広告の回復も、見えてこない。
		会計事務所（職員）	・急激な円安、株高で経済は順調に向かっているようであるが、中小企業や小売店にとっては、まだまだ実感するに至っていない。
	その他サービス業〔広告印刷〕（従業員）	・ほんの少し動きが出てきたが、更に良くなるほどの力強さは感じられない。	
	その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・すべては政府の舵取りにかかっている。うまく円安ムードに持って行き、そのまま1ドル95円程度に安定させられれば経済はうまくいくと思うが、なかなか難しい。経済は思惑通りには進まない。一刻だけでは困難である。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）	・円安と燃料価格の上昇、原材料の値上がりと販売価格の低下傾向から、景気は良くなる状況ではない。
		印刷業（営業担当）	・法人、一般、個人共に財布のひもは固く、まだまだ景気が悪い状態は続く。
		金属製品製造業（経営者）	・量の引き合いもそれほど増えておらず、下降気味である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・取引先の設備投資は8月ごろまでは少ないため、2～3か月先の当社の生産も少なく、景気は悪くなると思う。
		金融業（従業員）	・自動車産業において、現状があまり良くないなか、将来についても目処が立っておらず、仕事量と労働時間も短縮されていく傾向にある。
		悪くなる	不動産業（経営者）
雇用 関連 (東海)	良くなる	職業安定所（職員）	・景気回復の期待から、消費マインドは好転しており、求人意欲も高まっている。
	やや良くなる	人材派遣会社（経営企画）	・期替わりを契機に、客の予算削減傾向は解消すると見込まれる。
		人材派遣会社（社員）	・正社員募集の求人案件が、堅調に推移している。
		人材派遣会社（営業担当）	・引き続き円安が続けば、順調に回復する。また、TPPへの参加が決まれば、多少のマイナス要因はあっても、プラスの恩恵が多いと推察している。
		人材派遣会社（営業担当）	・政権交代に起因する円安、株価上昇を経て、日本経済の活性化を進める動きは強まるように感じられる。
		職業安定所（職員）	・円安が落ち着いた状態になってきて、92～93円程度になっている。輸出関連企業は今後緩やかに良くなって、求人も増加すると思われる。
		職業安定所（職員）	・引き続き、求人は順調に伸びていくと思われるため、景気はやや回復する。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・当地域では、ほとんど動きがない状況である。名古屋、東京、大阪あたりでは動きが出てきている。ただし、ネットで募集しても人が来ない状態であるため、売上は増えていない。
		人材派遣会社（営業担当）	・円安や株高の動きはあるものの、景気回復を実感するまでには、まだまだ時間が掛かりそうであると感じる。
		人材派遣会社（支店長）	・ネット広告媒体における当地域の求人掲載件数は、前年同月比100%強となっているため、前年同月と同水準で推移していくと予想している。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・実感が無い。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・デフレ脱却に対する期待感が高まっているが、中小企業の厳しい状況に変化は見られない。
		職業安定所（所長）	・円安の影響を受け、取引先から生産受注が増加している自動車部品等の製造事業所では、新規求人が期待される。しかし、運輸・輸送関係や食品製造業では、燃料費や原材料等の高騰で新規求人はやや減少すると思われる。
		職業安定所（職員）	・円安、株高等に対する期待感が高まっているが、直接的な効果については、まだ確認できる状況にない。事業縮小・廃止など、中小企業では厳しい状況にある企業がまだ多い。
職業安定所（職員）		・医療・福祉業を除くと、求人増となっている要因が時限的であり、継続的な増加が続くとは、今の時点で判断できない。	
職業安定所（次長）		・求職者数からみると悪化傾向にあるが、求人動向は決して悪くはない。雇用調整の動きも新たなものは見られないため、変わらない。	
民間職業紹介機関（営業担当）		・円安によって、現状では製造業界の売上、利益率が良くなっていると感じるが、一過性のものではないかとの意見もある。	
学校〔専門学校〕（就職担当）	・就職スキルとして、語学力の習得や検定資格の取得を目指す学生は減少している。しかし、社会人の受講は増えてきており、背景に採用控えを感じる。		
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・来月の送別会の予約状況は良いが、その先の予約状況は例年に比べても良くなく、これからの予約に期待したい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		アウトソーシング企業 (エリア担当)	・4月以降の自動車生産台数の目標は前年度よりも少ないため、4月以降はやや悪化傾向に推移すると予想する。
	悪くなる	—	—

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北陸)	良くなる	コンビニ（店長）	・内部の事情のため参考になるかわからないが、3月1日より全面改装を終えリニューアルオープンするため、リニューアルした他店の傾向からも全面改装後の売上は必ず以前よりも上がると考えられる。コンビニ業界全体としてではなく、私の身の回りとの条件が付いた上で景気が良くなると判断している。また、従来のコンビニ店でも入れたてのコーヒーといった新ジャンルに投資しており、結果的にコーヒーの売上が日販1万円上乗せしている店舗も多々出てきている。そういった事を考慮してコンビニ全体として前年よりは良くなると思っている。
	やや良くなる	通信会社（営業担当）	・新商品発売時期となり、販売量も増加すると思われる。
		一般小売店〔精肉〕 （店長）	・乗客数、客単価ともに増加、上昇してきている。この傾向はしばらく続くと感じられる。
		一般小売店〔鮮魚〕 （従業員）	・アベノミクスのおかげかは分からないが、人の気分として上を向き始めているように思える。
		一般小売店〔書籍〕 （従業員）	・客単価も上がり販売数もわずかながら伸びており、今後も期待できそうである。
		百貨店（売場主任）	・平成26年度の消費税率引上げを見据えた顧客が予定を前倒ししての購入を検討し始めており、高額商材の動きが活発になりつつある。
		百貨店（営業担当）	・今までのイエナカ消費から外に出て、旅行などに一般消費者の動きが変化しつつある。今まで抑えられていた分、消費に回るような動きが今後みられるようになると思われる。
		百貨店（売場担当）	・ライフスタイルの変化を迎える時期となり、衣料品を中心に売上は前年同月を超えている。バレンタイン用ギフトは自分へのご褒美用、贈り物用ともに売れており、バレンタインイベントの予算比120%となった。また、美術宝飾など的高額品も低迷を脱出し前年同月比122%と伸びており、この流れは続くと思われる。
		スーパー（店長）	・競合店が閉店した影響が今後しばらくは続くともみている。
		コンビニ（経営者）	・数字面でも、精神面でも1年近く足かせになっていた2号店を2月末で閉店するので、良くなってくるのではと思っている。
		コンビニ（店舗管理）	・当面は政権交代の経済対策を期待し、心理的に明るい状態が広がっていくと思われる。
		家電量販店（店長）	・消費税率の引上げを見込んで、夏場のエアコンは前倒しで販売数量が増加してくると思われる。
		乗用車販売店（経営者）	・期待を込めてになるが、上向きかけた景気と新型車効果の継続により、努力次第では今よりも更に良くなる。
		住関連専門店（店長）	・消費税率の引上げに伴い、確実に需要は伸びると思うが、どの程度伸びるのかは分からない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況はおおむね順調に推移し前年以上に期待ができる。
		旅行代理店（従業員）	・客の動きや経済政策からやや良くなるように思われる。
		通信会社（社員）	・新中学生、新高校生のスマートフォン利用が期待できる。
		通信会社（営業担当）	・月々のランニングコストを気にする客は多いが、それだけを理由にスマートフォンへの機種変更を見合わせる客は減ってきている。必要なもの、欲しいものにはお金をかけるようになってきている。
		美容室（経営者）	・売上は1年前から少しずつ良くなってきており、この傾向が続くそうである。
		住宅販売会社（経営者）	・消費税率の引上げ前の駆け込み需要が期待できる。
		住宅販売会社（従業員）	・資材の高騰はあるものの、確実に増えている客のニーズを注文に反映させることで業績は拡大するとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		住宅販売会社（従業員）	・客の心理的安心感が伝わってくる。住宅投資へのタイミングとして、価格、金利ともに上昇圧力がかかっていることもあり、今まで決断できなかった客が決断する動きになってきている。
		住宅販売会社（従業員）	・今後も、消費税率引上げ前の駆け込み需要が見込まれる。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税率引上げ前の駆け込みにより、今以上に客の活発な動きが予想される。
		商店街（代表者）	・景気が良くなりそうと言われるが、数か月後という短い期間では反映されない。
		商店街（代表者）	・新規出店など、ぼちぼち明るい話題もあるが、従来の店舗では良い話を聞かない。地方では、まだこの状況が少し続きそうだ。
		一般小売店〔事務用品〕（役員）	・4、5月ごろは、年度末の予算消化も終わるため、次の年度に向けて見込みを探す時期である。多くの売上目標を立てることもできず、非常に不透明でまだまだ分からない状況が続く。
		百貨店（営業担当）	・4、5月は婦人服フロアでは母の日がメインとなる。また、行楽シーズンでもあり売上が期待できるが、母の日については年々、物をプレゼントするというよりは、旅行や食事などのプレゼントに移行しているように思われる。そのため、今後3か月後に売上が上がるとは考えにくい。
		スーパー（店長）	・円安の影響は、食品ではあまり還元も少なくまだまだ財布のひもは固いようである。買物の仕方を見ていると安価な商品の品選びは前年同月と同様シビアである。天候上では低温による野菜の高騰も影響している。
		スーパー（総務担当）	・円安のため輸出高は増えているようだが、まだ客にそのような景気の良さは感じられない。
		スーパー（総務担当）	・燃料や小麦などの高騰が見込まれるなか、給与の大幅上昇は一部企業にとどまると考えれば、多くの消費者は当面節約せざるをえないと思われる。
		衣料品専門店（経営者）	・一般客にはまだ景気回復の実感はなく、消費が好転するとは感じられない。
		衣料品専門店（経営者）	・先日、運送会社の社長、酒類販売のチェーン店の社長、アルミ建築材製造販売の社長と座談会に出席したが、一つだけ意見が一致したことがある。1月は良かった、2月になって元に戻ったということである。
		家電量販店（店長）	・話題性のある商品は出ているが主力商品の売上を補うほどの売行きは見込めない。
		家電量販店（管理本部）	・目新しい新製品などの発売が無いとなかなか需要を創造することが困難である。
		乗用車販売店（役員）	・ガソリンの高騰が懸念されるところである。新型車効果が当面持続するように販売促進に努めていきたい。
		自動車備品販売店（従業員）	・用品販売での見通しは明るい兆しも無く、景気の上昇は期待できない。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・アベノミクスで景気が良くなっているといわれているが、末端までに波及するには1、2年かかると思っている。ここしばらくは、まだまだ辛抱しなければならない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・株などの動きは良いように見えるが、一般消費者の購入する商品の単価は値上がり傾向にあり、景気は良くなるとは思われない。
		その他専門店〔医薬品〕（総務担当）	・健康食品やダイエット関連商品は横ばい状態であり、化粧品は低価格商品が動き、高額品の動きは鈍い。節約志向は変わらず、しばらくはこの状況で推移すると思われる。
		高級レストラン（スタッフ）	・中小企業の際際費非課税枠が拡大される方向で検討されているのがわずかな光明だが、まだまだ法人接待利用による受注は例年より多くない。
スナック（経営者）	・ものの値上げが軒並み見え隠れしているなかで、ますます生活が厳しくなっていく気配では当店にとってもいい結果にはつながらないと感じられる。		
観光型旅館（経営者）	・客の動きが北陸地区には向いていないように思われる。特に関西圏からの集客が悪く、前年同月比10%程度来客数が落ちている。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型旅館（スタッフ）	・予約状況は2月以降前年同月比95%前後、6月のみ同80%となっている。近間での予約が伸ばせるかが焦点となる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊部門では、募集团体の催行決定が多くなっているが単価が低い状況が続いている。個人の予約は増えていない。宴会部門の受注状況も増えていない。レストランは、来客数がやや増加傾向にあるが、楽観はできない。
		旅行代理店（従業員）	・景気が良くなって欲しい、良くなるだろうとの期待感はあるが、実態が伴わず、旅行業界の春はまだまだ先である。
		タクシー運転手	・客には景気対策への期待があるが、その効果が表れ、タクシー業界に反映されるにはまだまだ時間がかかりそうである。
		通信会社（職員）	・ガソリン代などの値上がりによる不安が多く聞かれる。
		通信会社（営業担当）	・携帯電話業界の繁忙時期に入るため、例年の推移を保つことができると考える。新機種の販売の予定がありそれに伴って様々なイベントを実施し、販売台数につなげて安定した拡販の定着を図りたい。
		通信会社（役員）	・テレビとネットの融合やモバイルブロードバンドの進展など放送通信業界を取り巻く環境は大きく変化しており、今後の主流商品やサービスの方向性は混沌としている。
		テーマパーク（職員）	・海外からの客は円安傾向もあり堅調に推移するものと思われるが、国内の団体、個人の客はやや動きが鈍い状況にあり、全体としては現状と変わらない動きになる模様である。
	やや悪くなる	スーパー（統括）	・今までは同業者との競争が主流であったが、ここ最近ではコンビニエンスストアやドラッグストアなど異業種で生鮮食品などが販売されており、異業種との競争が激化していくと予想される。
		コンビニ（経営者）	・たばこに関しては売上を回復してきている。また、弁当や調理麺、惣菜などの食事系の商品についてもそこそこの数字を残している。しかし、それ以外のスーパー、ドラッグストアと競合する商品が軒並み売上を落としており、この傾向はしばらく続く。
衣料品専門店（総括）		・円安の影響でガソリンなど一部の物価が上がっている。必要経費が増える分、その他の買物にお金が回せなくなり、買い渋りの傾向が見られる。	
乗用車販売店（経営者）		・3月までは良い状況が続くと予測できるが、4月より自動車損害賠償責任保険の値上がりも予定されているため販売台数は少なくなる。	
一般レストラン（スタッフ）		・円安でガソリン代が高騰しており、小麦など輸入食材の値上げも徐々に食生活の支出に影響してくる。新規雇用を増やす代わりに、勤続年数が長い女性やパートタイマーが労働契約法改正前に契約打ち切りなど人件費削減の対象になっており、女性の収入減が消費にも影響してくる。	
タクシー運転手		・前月はこれから良くなると期待したが、実際は収入が増えていないので期待ができなくなった。	
競輪場（職員）		・2月は年金支給月であった上に、今年初のビッグレースが開催されるなど、好条件がそろったが、翌月以降はこれといった目新しさもなく、例年どおり推移すると思われる。	
その他レジャー施設（職員）		・A重油、ガソリンなどの燃料費の値上がり幅が大きく、今後も値上がりが続くそうである。	
悪くなる		—	—
企業 動向 関連 (北陸)	良くなる	—	—
	やや良くなる	繊維工業（経営者）	・円高是正もあり、輸出関連ではやや動きがみられるとともに先行きに期待もてる。一方、重油や電力関係のコストアップが心配である。
		繊維工業（経営者）	・1～3月に仮需として受注していた商品が受け渡しの時期になる。また、次のシーズンの生産も計画され、上向くと思われる。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・円安や株高により消費者のマインドが改善されつつあるように感じる。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・新政権のデフレ脱却政策により消費が伸びれば、設備投資も必要になるので大いに期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		精密機械器具製造業（経営者）	・国内の商談における顧客からの感触は、以前から見れば多少良くなっているもののまだ厳しいものが多い。海外販売についても物量自体にはまだ大きな変化は生じていないが、今の為替の状況が今後の計画においてプラス側に作用しているのは間違いない。
		建設業（経営者）	・アベノミクスによる補正予算での公共事業の発注が3月から予定されており、さらに設計が簡単な舗装修繕工事が新年度に入って早々4月から発注されるかもしれないという期待もある。
		通信業（営業担当）	・建設会社、ハウスメーカーなどを会社訪問した際に、新築やリフォームの動向を聞くと以前より伸びが出てきたとの話が多い。実際には通信設備などの提案要望も徐々にではあるが増えているように思える。
		金融業（融資担当）	・円相場の円高の修正が進み、日本の株式市場も値を戻している。この状況が政府の政策の後押しによって続くのであれば、やや上向きの傾向が維持できるものと思われる。
		不動産業（経営者）	・周囲の話のなかで、個人客の問い合わせが出ている。法人からも問い合わせや相談が増えているのでやや良くなるのではないかと思われる。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・食品や住宅、衣料など多様な業種を扱う折込広告において、前年同月比で見ると差異はあるが2月現在まで売上はわずかではあるが100%を超えている状況である。今後、消費税率の引上げが控えているため、駆け込み需要が見込まれる。
		税理士（所長）	・期待を込めてのやや良くなるであるが、企業関係の活動が活発になるであろう。ただ、給料のベースアップは難しいであろうが、是非ボーナスを待たずに収益の上があった企業から、特別な一時金でもよいので従業員に払ってもらいたいと思っている。中小企業の客で月次の収益が上がっている企業であれば、一時金の提案をしていきたいと思っている。日本中で給与に反映できれば景気浮揚につながるという期待感がある。
変わらない		プラスチック製品製造業（企画担当）	・住宅市場は消費税率の引上げの影響が出る年末近くにならなければ良くなるとみているので、3か月先ではまだ変わらない。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注の入り具合を見ていると、現状と変化がない。
		輸送業（配車担当）	・円安により、燃料費の高止まりの状況が続くコスト負担は変わらない。
		金融業（融資担当）	・政策変更への期待から一部高級品に動きがみられるが、基本的な耐久消費財や一般食料品については、小麦や燃料の価格高騰、為替の円安反転などもあり、景気の先行きは楽観視できない。
		司法書士	・不動産登記の多くが事業用資金も含め、金利を下げるための借替案件であり、この傾向に変わりはない。また、依然として、会社の解散、廃業も多い。
やや悪くなる		食料品製造業（役員）	・販売価格については変化が見込まれず現状の流れで推移するなか、燃料費などについては、一層の値上がりが見込まれる。
		建設業（総務担当）	・3月末の受注量確保のため、更に激しい価格競争が予想されるとともに、資材価格や労務費の上昇が見込まれ、事業環境の悪化が予想される。
悪くなる		—	—
雇用 関連 (北陸)	良くなる		—
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・政府の景気対策の影響か、業種や職種にもよるが、先行きの景気浮揚への期待が高まっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人広告の件数、新卒の求人ともに3か月前より伸びており、今後も続くように思われる。
		民間職業紹介機関（経営者）	・予算執行がなされて経済対策事業に着手すれば、人材需要も徐々に活性化してくると期待している。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	・企業での新卒採用予定があり、新規の派遣需要の発生は少ない。ただ、行政関連での4月以降の案件は始まっている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・正社員を募集する動きが少ない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・求人数は依然増加傾向にあるものの、100人規模の人員整理もあり、雇用情勢は決して良い状態ではない。
		職業安定所（職員）	・製造業からの求人は足踏み状態で、求人は伸び悩んでいる状態である。先行きの見通しが明るくならない限り、求人状況は改善しないものと思われる。
		職業安定所（職員）	・最近3か月は有効求職、有効求人とも微増となっており、求人倍率は上昇傾向にある。小規模の事業所閉鎖などが若干増加しているが、新規求人数は増加しており、この傾向は変わらない。
	やや悪くなる	—	—
悪くなる	—	—	

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)	良くなる	家電量販店（企画担当）	・政府による2.5%という来年度の成長目標の効果が大きく出てくる。
		通信会社（社員）	・現在の成長率が鈍る気配はあまりみられない。ブロードバンド市場の動きをみても、他社からの乗換えや集合住宅からの申込に顕著な伸びがうかがえる。
		その他レジャー施設 〔球場〕（経理担当）	・プロ野球が開幕し、公式戦が予定されているほか、多くのコンサートや家族向けのイベントが開催されるので、多数の来場者を予想している。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・総選挙の結果や夏のボーナスなどの様子が目にみえてくると良くなる。
		商店街（代表者）	・客の間での口コミが増え、新規客の来店頻度が多くなっている。
		一般小売店〔衣服〕 （経営者）	・当商店街でも政府への期待は大きく、主婦も株価が気になり、店内での会話でも期待の声が増えている。
		一般小売店〔珈琲〕 （経営者）	・消費増税の前には、まとめ買いの需要などが予想されるので、準備をしていきたい。
		一般小売店〔衣服〕 （経営者）	・客をみていると、明るい雰囲気が出てきている。
		一般小売店〔家具〕 （経営者）	・円安や株価の上昇で期待感がある。
		百貨店（売場主任）	・全体的な動きは良くなっているため、今すぐというわけではないが、上向きになる。
		百貨店（企画担当）	・株価の上昇や円安など、景気回復につながりそうな話題が多い。
		百貨店（営業担当）	・婦人服に引っ張られ、ファッション関連や高額品が上向くことを期待している。
		百貨店（営業担当）	・高齢の客が、高額な宝飾品や美術品を買う傾向が強まってきている。
		百貨店（販促担当）	・実感としてはまだであるが、株価の上昇や良いニュースの効果で気分的に明るい兆しが出ているなか、春の訪れと共に購買機運も高まるのではないかと期待している。足元は不安定要素が常にあるとはいえ、機運に乗った商売をいかに展開できるかが重要な時期となっている。
		百貨店（服飾品担当）	・日用品に関しては節約する傾向はまだあるものの、ギフトやこころの買物に関しては、しっかりとお金をかけて、じっくりと商品を選んで買い求める客がよくみられる。今後は気温の上昇とともに、この動きに拍車がかかるほか、母の日や父の日といったモチベーション需要に関する売上は、バレンタインやクリスマスを見る限り、同様に好調な売行きとなる。
百貨店（売場マネージャー）	・アベノミクスにより世間一般は好調ムードである。特に、株価上昇の影響が大きい。		
百貨店（サービス担当）	・来月からは、今年夏の開業を控えた全社を挙げてのクリアランスバーゲンの開催で、来客数の増加が予想されるため、売上の増加が期待できる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（マネージャー）	・これまですっかり冷え込んでいた消費マインドが、抜本的にはないものの、心理的な要因で改善傾向となっている。今後は消費増税前の駆け込み需要などもあり、全体的に改善してくる。ただし、根本的に景気が回復しているわけではなく、今後の動きでは暗い見通しとなる可能性もある。
		百貨店（店長）	・アベノミクスによる経済対策の効果が、市場で徐々に発揮されるのではないかと期待が感じられる。
		スーパー（店長）	・内閣支持率は高めで推移しており、世間の景気対策への期待感もまだ続いている。
		スーパー（経理担当）	・新年度に入り、入学や進級、行楽など、景気の上向きムードが反映されやすい時期を迎える。円安、株高傾向が続けば、日用品にも波及することが期待される。
		スーパー（社員）	・昨年は年間を通して客が消費を抑えていたが、最近は景気回復への期待感から購買意欲が高まっている。今後、気温の上昇と客の来店を喚起する販売促進がうまくかみ合えば、消費は拡大する。
		コンビニ（経営者）	・好況感が功を奏し、プレミアム商品など的高額商品の売上げが増えることが期待できる。
		コンビニ（店員）	・暖かい季節になってくるため、やや良くなる。
		衣料品専門店（販売担当）	・円安の動きで国産商品の売行きが良くなるのではないかと期待している。
		家電量販店（経営者）	・春以降の電気料金値上げを控え、太陽光発電や節電型の高付加価値商品の動きが一層活発化する。
		家電量販店（店長）	・製造元であるメーカーの業績が少しずつであるが回復してきているため、商品販売の状況も少しは改善される。ただし、家電量販店の収益に大きく関わるインターネットの取次サービスで、割引施策に対する国からの指導が入ったことは大きなマイナスになる。家電量販店ではインターネット取次サービスによる収益比率が高い。
		乗用車販売店（経営者）	・円安、株高の流れがアベノミクス効果で持続し、日本経済が徐々に改善へ向かう。また、将来に対する安心感から、消費も刺激されるため、小売、不動産などが動いてくる。
		乗用車販売店（経営者）	・客と会話をしている、ムードが良い。
		乗用車販売店（販売担当）	・地域格差があるものの、来客数は多く、この状態がしばらく続く。
		乗用車販売店（営業担当）	・新車の販売は落ち込んでいるが、車の修理や車検、点検時の重点商品などはよく売れており、それなりに単価は上がってきている。
		乗用車販売店（営業担当）	・来月の決算期に向けて、若干ではあるが来客数や購入が増える動きがある。
		住関連専門店（店長）	・政治、経済の安定感が安心につながり、購買意識にゆとりをもたらす。最近は大きな不安をあおるニュースがないことも良い。
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	・現在の円安、株高傾向が軌道に乗り、2～3か月先にはその成果が出てくる。今後ますます良くなっていくように感じる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・今年は花粉の飛散量が昨年に比べて少し多くなるため、花粉症関連商品の動きが増える。それと同時に、効能の高い新商品が薬局で販売できるようになったため、売上が増加する。
		高級レストラン（スタッフ）	・歓送迎会シーズンに期待したい。
		高級レストラン（支配人）	・季節変動による観光客の増加で、販売量はやや良くなるが、ほかに特別な材料は見当たらない。
		一般レストラン（経営者）	・近くに桜並木があって人通りが増えるため、期待できそうである。
		一般レストラン（スタッフ）	・政権交代によって数字が上向き始めているが、期待が先行しているように感じる。今の動きは、高額な消費は控えても、外食程度は構わないというものである。
		一般レストラン（店員）	・2月が底まで落ちたので、今後は上がっていく。気候などのプラス要因があるほか、近隣の競合店についての問題も解消している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スナック（経営者）	・新年度に向けて、2月は客の仕事や家庭での事情に左右される月であるが、3、4月は世の中の流れに合わせて良くなる。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・消費税率が上がるということで、しばらくは客単価、来客数が上向くと思われるが、その後が心配である。
		観光型ホテル（経営者）	・現在が悪すぎるため、これより悪くなることはないという期待を込めているが、アベノミクスの効果が当業界に表れてくるまでにはかなりタイムラグがある。期待はしているが、はっきりとは分からない。
		観光型旅館（経営者）	・ガソリン価格の高騰や高止まりが懸念されるが、奈良県では災害の復興支援と南部の振興のため、近年は宿泊プレミアム券の発行などで観光客の誘致を図っており、観光や合宿利用の来客が増えている。
		都市型ホテル（支配人）	・政権交代後の景気対策や物価目標の明示が、円安傾向や株価の上昇につながっており、景気の上昇が期待できる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会、会議は製菓会社の講演会や歓送迎会を軸に予約を伸ばしている。宿泊は昨年よりも単価を上げて販売しており、稼働率は若干下がっているものの、収益率が上がっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・アベノミクスで株高や円安が続いており、政権交代時よりも客に期待感が出てきている。根拠はないが、客からも、暖かくなれば人も物も動き出すだろうという声が目立ってきている。
		都市型ホテル（総務担当）	・法人の宴会予約が好調であり、宿泊の予約も増加傾向にある。
		都市型ホテル（マネージャー）	・桜のシーズンを迎え、外国人旅行客の予約も順調に推移しており、客室部門はやや上向きである。ただし、宴会部門の回復にはまだ少し時間がかかりそうな予約状況である。
		都市型ホテル（客室担当）	・国内は春の行楽シーズンを迎え、海外からも円安によって旅行者が増える。
		旅行代理店（経営者）	・アベノミクスの好影響か、富裕層が動き、欧州や米国向けの旅行が動いている。株高が続けば、心理的にも客が動きやすくなる。
		旅行代理店（店長）	・客の様子から、やや良くなる。
		旅行代理店（営業担当）	・株高が続けば、旅行業界にとっては追い風となる。
		旅行代理店（広報担当）	・ゴールデンウィークが中3日を挟んで3連休と4連休ということで、国内旅行は前半と後半に分かれて受注できており、海外旅行もトータルで客が増加している。ここぞという使いどころを見極め、使うときは予算を多めに取る客が増えている。
		タクシー運転手	・経済政策の効果が浸透し、底辺まで忙しくならないと街が潤わない。
		タクシー運転手	・企業の営業活動などでハイヤーの利用が増加しており、なかでも大手ゼネコンが活気付いている。確実に動き出した感がある。
		通信会社（経営者）	・どこまで期待感が続くかが問題で、本格的な回復につながるのかという懸念もあるが、現状では期待感が強い。
		通信会社（企画担当）	・アベノミクスの効果に期待している。
		テーマパーク（職員）	・今のところは政権が安定しており、まずはデフレ脱却を目指す方針も分かりやすくてよい。ただし、領土を巡る周辺諸国との関係は観光業を間違いなく停滞させているので、油断はできない。
		観光名所（経理担当）	・来場者の減少がこのところ止まったようであるが、増加するまでには至っていない。3月に施設のリニューアルオープンを予定しており、最低でも前年比の10%増をねらっていきたい。
		競輪場（職員）	・例年は悪くなる傾向となるが、新政権に代わってアベノミクスが始動している影響で経済が動いている。ただし、ガソリンなどの物価の上昇に賃金が追いついていないので、息切れする可能性もある。
		美容室（店員）	・ショートカットにする客が増え、来店回数が増える可能性があるため、やや良くなる。
		その他サービス〔コインランドリー〕（経営者）	・不景気による過度の節約志向が、若干緩んでくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		その他サービス [マッサー] (スタッフ)	・例年暖かい時期になると、来客数が増加する。
		その他サービス [生命保険] (営業担当)	・景気の先行きに対する期待感が高まっているため、生命保険の加入を検討する客が増える。
		住宅販売会社 (経営者)	・このところは新築と並行してメンテナンスの依頼も増えている。ある程度は消費税の増税前の駆け込みが想定されるが、そればかりではないような期待もある。
		住宅販売会社 (総務担当)	・円安などの問題もあるが、アベノミクスの効果が少しずつ表れてきている。
		その他住宅投資の動向を把握できる者 [不動産仲介] (経営者)	・本質的には変わらないが、景気は少し回復するかもしれないため、4月以降の動向に注目している。
		その他住宅 [展示場] (従業員)	・新築住宅需要については、消費増税前の駆け込み需要の兆候が徐々に出てきており、展示場の来場者は増加傾向にある。
		その他住宅 [情報誌] (編集者)	・分譲マンションにおいては値下げ販売なども非常に少なく、新規発売物件が市場をけん引する状況が続く。価格の先高感が醸成されていくなかで、状況は上向き傾向となる。
		一般小売店 [花] (経営者)	・景気回復といわれているが、生活必需品以外の小売に浸透してくるまでには、まだまだ時間が必要である。
		一般小売店 [時計] (経営者)	・入園や入学、さらにゴールデンウィークと、様々なイベントが集中する時期なので、お金の使い道が決まってくる。また、年配の人には余分な持ち物は増やさないとという傾向が感じられるので、必要な物以外に予算を割いてもらえるとは思えない。最近はガソリン価格の上昇などのマイナス材料も出てきており、新聞でみるような景気回復傾向は、現場では感じられない。
		一般小売店 [鮮魚] (営業担当)	・急に良くなるとは考えられず、ほぼ横ばいとなる。
		一般小売店 [衣服] (経営者)	・政権が変わり、経済に少しずつではあるが動きが出てきたように思える。ただし、実感としてはまだ全くないので、今後の動きを注視する必要がある。
		一般小売店 [雑貨] (店長)	・業界特有の動向で仕方がないともいえるが、景気が良くなる要素は見当たらない。
		一般小売店 [野菜] (店長)	・今の流れが続けば、少しずつ良くなるかもしれない。
		一般小売店 [菓子] (営業担当)	・3月以降は卒業式や入学式など、人が動く時期なので、2月よりも販売量が増加することを期待したい。
		百貨店 (売場主任)	・株価の上昇の影響や、消費増税を前に高額品の需要の伸びが期待できる反面、円安の進行や原油高によるガソリンや輸入食料品の値上げに加え、電気やガス料金の値上げが節約志向を強める懸念がある。
		百貨店 (売場主任)	・政権交代により、景気は従来よりも良くなっているイメージが強いものの、消費者に波及するまでにはまだまだ時間がかかる。消費についてはオーバーストア状態であり、モノが充足しているため、来客数が飛躍的に増えない限り、大きな改善は難しい。
百貨店 (売場主任)	・株価上昇による消費意欲の高まりと、円安による値上がりの影響による買い控えが重なるため、依然として身の回りの景気は良くなる見込みがない。		
百貨店 (外商担当)	・景気が良くなり、業種によっては企業業績がプラスに転じるものの、給与が大きく増えることはない。社会保険料なども増えるため、一般消費者の可処分所得は増えない。		
百貨店 (商品担当)	・新政権では景気対策を優先しているが、所得への波及がないため、現状は消費が活性化するか否かは不透明である。		
百貨店 (外商担当)	・全体的には株高や円安により、雰囲気や消費マインドは良くなると考えられるが、当地区では今後6月に競合店が新しく開店する予定で、競争がかなり激化する。		
スーパー (経営者)	・周辺には競合店が非常に多いので、価格競争が一段と激しくなっていく。		
スーパー (店長)	・業種の特長として為替の恩恵を受けにくいほか、景気の動きが反映されるのも最後となる。慎重過ぎるかもしれないが、2～3か月で良くなるとは判断し難い。		
スーパー (店長)	・株高、円安傾向で景気回復感を感じるが、一般の消費につながるのはまだ先である。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・給料が増えれば、消費も増えるが、円安が進んでいる輸出産業以外に給料を増やす原資はない。逆に、パートの社会保険負担の増加や、電気料金、燃料価格の高騰、消費増税対応などで、人件費を削るしか利益が守れないという企業が多い。
		スーパー（店長）	・現時点では来客数、客単価などの売上構成項目の推移をみる限り、景気の回復基調が顕著とは言い難い状況ではあるが、政策への期待感があることも事実である。
		スーパー（企画担当）	・食品中心のチェーンストアでは、デフレによって他社と競争となる状況に変化はない。
		スーパー（広報担当）	・電気料金の値上げが予定されているほか、円安によって今後は輸入原材料や商品、燃料など、様々な値上げも避けられない状況であり、家計の負担感は強まる可能性が高い。給与所得の増加までにはまだまだ時間がかかると思われるため、日常の消費における節約志向はますます強まる可能性がある。
		スーパー（販売担当）	・当店も含めて、競合店同士で価格競争を行っているのが現状である。客はそれを見て、少しでも安い店で買物を行うため、数量は前年並みでも単価が下がっており、買上金額が昨年を上回らない。
		コンビニ（経営者）	・季節的に良くなると思うが、これといって目玉商品もなく、競合店の出店も激しいので、客が分散する。
		コンビニ（店員）	・近隣の競合店の新装オープンで客が流れる恐れはあるが、新サービスの導入やパンの品種を増やすなどして、来客数が増えることを期待している。
		コンビニ（広告担当）	・まだ、政権交代による効果が出るまでは時間がかかり、実際には2013年度の下半期ごろからとなる。
		衣料品専門店（経営者）	・小泉政権の時と同じで、地方の景気が良くなることは期待できず、今年度補正予算の効果も素早く東京に還流する。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	・ここ2、3年はクールビズの影響で春夏物スーツが低調であり、今年も期待できそうにない。
		家電量販店（店員）	・政権が変わったことで期待はあるが、まだ変わると思えない。
		乗用車販売店（経営者）	・本来ならばこの時期は年度末で忙しくなるはずが、従来の仕事もない。好材料がないことから、今後も厳しくなる。
		乗用車販売店（経営者）	・新車の販売が少し好調であるが、修理、車検等はあまり良くない。
		乗用車販売店（販売担当）	・今後の経済状況が好転するかどうかがかぎである。今の状況が順調に続けばもっと上向きになる。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・今後の動向は天候次第である。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・消費税の引上げ前でも、マンションや自動車のような駆け込み購入は期待できそうにない。
		一般レストラン（経営者）	・新政権の政策による、今後の実体経済への影響がみえてこないため、消費者心理の動きにはつながらない。
		一般レストラン（経営者）	・円高のメリットが還元されなかった仕入単価であるが、今後は円安の問題で値上げされる。少々の景気回復ではあまり変わらない。
		一般レストラン（経理担当）	・このところの円安でガソリンや輸入原材料の価格が上昇する反面、賃金水準は依然として横ばいか低下傾向のままである。政策効果が出るまでには時間がかかるため、数か月間の景気の低迷は避けられない。
		観光型ホテル（経営者）	・円安や株高で街角の景況感間違いなく良くなっていると思われるが、まだまだ実際の予約動向や、客の消費動向には反映されていない。
		観光型ホテル（経営者）	・暖かい季節となり、観光シーズンということもあって冬よりも消費は増えるが、冬のマイナス分を取り返すほどにはならない。
		観光型旅館（団体役員）	・政府の経済政策がどこまで浸透するのか、この業界まで効果が及ぶのか、今のところは見定めにくい。
		タクシー運転手	・これから歓送迎会や飲み会が増えるため、タクシー需要の増加は見込まれるが、近場の店を選ぶため、遠くまで足を延ばす客は限られてくる。忙しくなるまでは、もう少し時間がかかる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（企画担当）	・景気が好転する材料はない。
		観光名所（経理担当）	・今年の2月は雪の降る日は多いが、昨年と比べて積雪が少なく、すぐに溶けるようなありがたい日が続いている。来客数も多く、前年よりも来客数、売上共に25%ほど伸びている。数十年前から続いている近隣の展示会も、昨年よりも入場客数が多い。全体的に昨年と比べて多くの人に来ており、どことなく景気が少し上向いている。
		競艇場（職員）	・12～2月は3か月連続で購買単価は2万円台を保っているが、大幅な単価の上昇は見込めない。
		その他レジャー施設 [イベントホール] （職員）	・景気回復、失業対策、給料アップなど、次々と対策を打ち出しているアベノミクスであるが、実際に企業が動き出すまでには時間がかかる。補助金が出る話もあるが、その財源が心配の種であり、ここ数か月は現状維持となる。
		その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型 施設]（企画担当）	・電気料金等のエネルギーコストの上昇が収支を圧迫してきている可能性がある。国内の個人消費もまだまだどうなるかは不透明である。
		美容室（経営者）	・年金生活の客が多く、株価が上がっても生活には何の恩恵もなく、負担が増えることばかりであるため、財布のひもが固くなっている。スーパーで安い物を買っているため、店販商品が売れなくなっている。
		その他サービス [ビデオ・CDレンタル] （エリア担当）	・レンタルの価格競争に巻き込まれないように、独占タイトル数の増加策を実施する。また、書籍とカフェなどの複合出店も推進している。
	住宅販売会社（従業員）	・為替、株価の動きは、新政権への期待感が先行したものであり、実体経済が活発化するまでにはまだまだ時間がかかる。	
	やや悪くなる	一般小売店 [精肉] （管理担当）	・米国産牛肉の輸入規制の緩和が2月から実施されているほか、飼料価格の上昇で和牛の相場も高騰しているなかで、小売の動きが良くなるとは考えにくい。インフレ傾向が進んだとしても、実際に和牛の販売が現在の環境でどれだけ伸びるか、不安材料が多い。また、中国人客の利用が尖閣問題以来、異常に減少していることも気になる。
		一般小売店 [花]（店長）	・原油価格の高騰、物価の上昇など、何をみてもマイナス材料としか考えられない。
		スーパー（管理担当）	・各業態で賃金交渉も始まるが、軒並み低調な予測である。一気にではないが、緩やかに下降していく可能性が高い。
		スーパー（開発担当）	・ガソリンや小麦の値上がりで物価は上昇するが、一部の企業しか賃上げは行わない。大多数の労働者は賃金が上がらずに物価だけが上がり、デフレからインフレに移行する。
		スーパー（企画）	・政権交代後、株高や円安による輸出産業の好調が伝えられているが、消費市場への影響は、今後マイナス面が大きくなる。原油高のほか、円安による輸入品や原材料価格の上昇で、店頭価格の値上がりが懸念される。また、4月からの電気料金値上げの影響が家庭を直撃するため、来年の消費増税も踏まえると、消費が上向き要素は見当たらない。
		コンビニ（店長）	・しばらくの間は、来客数の変化には期待できない上に、たばこの販売の減少傾向はまだまだ続きそうである。
衣料品専門店（経営者）		・2月の動きが悪いため、今後は春物の動きも悪くなる。	
衣料品専門店（販売担当）	・紳士服店では、購入する周期を長くしたいという客が増えている。		
乗用車販売店（経営者）	・実体のない円安、株高が続くのも、総選挙までである。		
住関連専門店（店員）	・円安が進んでいるほか、消費税率も上がるため、見通しは厳しい。		
ゴルフ場（経営者）	・現状の予約状況や来場状況を考慮すると、悪くなる傾向が続く。		
住宅販売会社（経営者）	・今月の好調は春の特需のため、今後の動向には反映されない。		
住宅販売会社（従業員）	・不動産業界は事業用地及び建築に関する費用が高騰しているにもかかわらず、販売価格への転嫁は厳しい状況にあるため、利益の確保が非常に困難になってくる。		
悪くなる	タクシー運転手	・今後は特別なイベントもない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業 動向 関連 (近畿)	良くなる	金属製品製造業（管理担当）	・太陽光発電関連が今後も好調のため、右肩上がりの予定である。一方、建築、土木関連は今後も低調な推移となり、政権交代に伴う公共事業の増加の影響も、出てくる時期が不透明である。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・12月から購読数が伸びているのは、景況感の改善によるものである。新聞による情報が必要になってきている。
その他非製造業〔民間放送〕（従業員）		・東京オリンピックの招致活動も加速化していき、それに伴う国民の期待感が高まっていくことが予想される。一層の円安、株高が実現すれば、消費意欲ももう一段高まることが期待できる。	
やや良くなる		食料品製造業（従業員）	・春の新製品の定番採用が決まっているところが増えており、少しは上向きになる。ただし、全体的には為替の影響で原材料、資材の一部で値上げが予定されているが、製品価格に反映できないので利益が薄くなり、苦しくなってくる。これから価格交渉に入る原材料、資材もあるが、新製品が売上に貢献してくれることを願っている。
		食料品製造業（営業担当）	・気温の上昇に伴い、飲料水の販売は若干良くなると思うが、小麦粉や石油の値上げが消費者の財布にかなりの悪影響を与える。
		家具及び木材木製品製造業（営業担当）	・配達が忙しくなっている。
		木材木製品製造業（経営者）	・新規事業の計画が始まるため、売上、利益共に増加する予定である。
		出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	・比較的安定している医療業界では、幹細胞による新薬開発やジェネリック業界が好調であるほか、病院による高齢の患者への対応がきめ細かくなっており、地域医療も進んでいる感がある。今後はこれらの業界で販売促進や宣伝が活発になっていく。
		化学工業（経営者）	・4月までの受注はかなり入っているが、5月は問い合わせも含めて、まだあまり動きがみられないため、徐々に落ち着いてくる。
		化学工業（管理担当）	・イタリアの政治不安による円高、株安のほか、電気料金の値上げ、原料価格の上昇などが景気の不安定要素となっている。ただし、金融緩和などのアベノミクスによる政策の効果が上回る。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・数量は減ってきているが、海外生産していた部品が国内生産に戻りつつある。一度崩れた価格を戻すのは難しいが、やり方によっては十分に利益を出すことができる。少しずつではあるが、良い方向へ向かう。
		金属製品製造業（経営者）	・円安や株高、金融緩和により、徐々に荷動きが回復してくる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・ムード的に良いので、近い将来に景気は上向く。
		電気機械器具製造業（経営者）	・ドル建て価格では、新規見積りは10%以上も価格を下げられるため、先行きに期待が持てる。希望は1ドル100円であり、元々技術的には海外よりも優位性のある製品なので、高価格という障害が払しょくされ、ビジネスの海外展開に弾みがつく。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・住宅、店舗関連の新規・改修物件の受注が続いており、4月以降も受注量の確保が見込める。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・今年は花粉の飛散量も多いと予想されており、4～5月には中国からの黄砂やPM2.5の影響もより大きくなるため、空気清浄機の荷動きが更に活発になる。それに伴う家電量販店への集客アップを期待している。
		建設業（経営者）	・アベノミクスと消費増税前の駆け込み需要に期待している。
		建設業（経営者）	・来月以降も、土地の動きは消費税の増税前の取引成立に向けて増えることが予想される。また、太陽光発電も同様に、来年度の買取価格が高止まりする予想であるため、引き続き需要は多い。
		輸送業（商品管理担当）	・3、4月になると、販売量が増えると共に荷物の量も増えるため、配送が混雑する。
		通信業（管理担当）	・アベノミクスの効果や、日本銀行の総裁候補も内閣の考えに近いことから、更に景気は良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		金融業（営業担当）	・新内閣発足後、順調な滑り出しであると思われる。期待は大きいですが、サラリーマン世帯の所得増加の速度が大きくなきとなる。		
		広告代理店（営業担当）	・気温の上がる日が徐々に増えてくれば、春物の動きも出てくる。		
		広告代理店（営業担当）	・ここ3か月の売上は、前年を超えてきている。		
		広告代理店（営業担当）	・円安で年度末に利益の出そうな会社からは、広告出稿が出てきそうである。		
		経営コンサルタント	・リストラなどがある程度進んだ段階で、少し上向いてくる。		
		コピーサービス業（店長）	・不透明な部分も多いが、全体的な雰囲気は悪くない。新年度以降の需要拡大には大いに期待している。		
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・周りの取引先の雰囲気には、景気が良くなりそうな感がある。		
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・株高、円安のなかで、今まで動かなかった工事も今後出てくると思われるため、期待している。		
		その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・アベノミクスの浸透に期待したい。		
		変わらない		食料品製造業（経理担当）	・アベノミクスによって動いているが、賃金などの収入が増えるには程遠い。
繊維工業（団体職員）	・景気の回復と共に需要が増える期待を持っているが、需要の動きはまだ不透明である。				
繊維工業（総務担当）	・新しい経済政策の効果が靴下のような商品に表れるまでには、長い時間がかかる。				
パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・上向きの感はあるが、実態はまだまだ変化がない。				
一般機械器具製造業（設計担当）	・株価などは多少上がると思うが、賃金が増える見込みはない。				
電気機械器具製造業（営業担当）	・まだ、景気が上向いている実感がない。				
輸送用機械器具製造業（経理担当）	・公共事業への投資などを含んだ補正予算は成立したが、その効果がどのような形で表れるかが不透明である。				
その他製造業〔事務用品〕（営業担当）	・例年に比べて、新学期の買換え需要が伸びてきているので、このまま増加する。				
その他製造業〔履物〕（団体職員）	・新政権のアベノミクスの効果により、円安と株価上昇が続いているが、これによって企業業績が改善し、賃金上昇や雇用の安定につながるには、まだまだ時間がかかる。				
建設業（経営者）	・官庁関係は政権交代により仕事量は増えそうであるが、建設資材や工賃の高騰も始まっており、東日本大震災の本格復興が始まれば、より一層の職人不足や建設資材の高騰が予想される。そのため、発注量が増えても、官庁関係は入札不調となることが予想される。				
輸送業（営業担当）	・建設関係の部品工場や倉庫で荷物が増えているが、来月も続くかどうかはまだ分からない。				
輸送業（営業所長）	・年度末で多少の動きはあるだろうが、継続性に欠ける。関西国際空港での輸入貨物の取扱も、中国の旧正月の休みによる影響もあるが、減少している。				
不動産業（営業担当）	・円安、株高により、消費マインドは上向いている。ただし、実需が悪いままであるので、3か月先も景気は変わらない。				
司法書士	・景気対策の効果が出るのはまだ先であるため、当分の間は変わらない。				
その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・政府の政策には一定の期待感が持てるものの、消費者が多少なりとも効果を実感するためには、かなりの時間を要する。ただし、大阪では今春に大型商業施設の開業や、百貨店の部分開業が控えており、局所的には活性化が期待できる。				
やや悪くなる				繊維工業（総務担当）	・受注数量が前年比で20%ダウンしている。取引先ごとに商品をオリジナル化し、価格維持を試みてはいるが、在庫のリスクが増えている。
				化学工業（企画担当）	・円安が進むか定着することにより、原料を輸入に頼っている食品メーカーは販売価格への転嫁が難しいこともあって、景気が悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・ガラス瓶の業界は小さいため、円安と電気料金の値上げが避けようのない経費の増加となり、大変な事態となる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・当社の営業分野では顧客の投資計画に活発さがみられないため、ここしばらくは低調な景況となる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・年度末の受注が終わった後の、次の受注がみえてこない。
	悪くなる	金属製品製造業（営業担当）	・自動車向けの受注の内示は、4月以降は1～3月に比べて減っている。一方、材料価格は4月以降上がるといわれているが、反対に大手自動車向けの鋼材価格はユーザーからの値下げ要求が予想される。板挟み状態となるため、採算割れに陥ることになる。
		輸送業（営業担当）	・円安が進むと、安く販売できなくなるので、売上が減少する。
雇用 関連 (近畿)	良くなる	人材派遣会社（支店長）	・総選挙までの間は、ある程度は景気対策が行われるものの、それ以降は分からない。
	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・年度末までの仕事で忙しいが、手当は済んでいる。4月からの案件は、2月に入って入札や新しい話が出てきているが、公共事業や不動産関係では需給バランスが崩れてきている。
		人材派遣会社（役員）	・年度替わりの状況をみなければ判断できないが、求人数は着実に増えてきている。また、マッチング可能な求職者も増えつつある。
		人材派遣会社（営業担当）	・T P P交渉参加の表明をすれば、海外からの投資も増加する。
		人材派遣会社（支店長）	・求職者は2月中旬から増えてきており、3、4月に向けて受注も増えている。製造業はまだ厳しい状況であるが、物流などは繁忙時期ということもあり、活発になってきている。
		新聞社 [求人広告]（営業担当）	・今後2、3か月も経てば、経済効果も出てくる。
		新聞社 [求人広告]（担当者）	・今後2、3か月の大きな話題は、やはり梅田地区の大型開発の開業である。これによる集客も含めて、出展企業からの広告展開が大きいと期待している。
		新聞社 [求人広告]（管理担当）	・求人数が安定的に増加しているほか、国民が政権に対して安定感を感じており、株価も上昇している。当面、景気は良い状態が続く。
		民間職業紹介機関（大学担当）	・現段階ではアベノミクス効果による景気回復の兆しがあるため、雇用にも早く良い効果が出ることを期待している。
		学校 [大学]（就職担当）	・アベノミクスに期待している。
		学校 [大学]（就職担当）	・アベノミクスの影響で企業の業績が回復しているなど、良くなる要素が多いと感じている。
	変わらない	新聞社 [求人広告]（営業担当）	・新年度以降は、経済状況に対応した求人の動きに期待したい。
		職業安定所（職員）	・新政権は物価を上昇させてデフレ脱却を目指すとしているが、この結果が雇用面に効果があるかどうかは、しばらく様子を見る必要がある。
		職業安定所（職員）	・円安傾向で企業の活性化が進んでいるが、製造業においては雇用調整の情報もあるなど雇用環境に不安を残しており、正社員の求人増が望めない。
職業安定所（職員）		・新規求人の状況には陰りがみられたものの、1月に入って、このところの円安や株価の上昇、新政権による公共事業予算への期待感からか、求人の動きが活発となっている。ただし、採用数は横ばいであり、企業の採用意欲が高まっているという感覚はない。さらに、2月に入って以降、新規求職者数がやや増加傾向に転じており、今後の景気が更に良くなるかは微妙な状況である。	
民間職業紹介機関（職員）		・公共工事の増加で受注が増え、更なる建設日雇いの求人増や就労者の増加につなげるためには、労働者不足が壁となる。その突破は容易ではないというのが、建設下請業者たちの声である。	
民間職業紹介機関（支社長）		・製造業の積極的な動きを期待したいが、求人がおう盛な内需型企業では原料価格の高騰が予想されるため、不透明である。	
		民間職業紹介機関（営業担当）	・まだ先行きがみえにくい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	—	—
	悪くなる	—	—

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (中国)	良くなる	商店街（代表者）	・アベノミクスによる景気高揚感はなく、振る舞い型の予算であるということ客は分かっているため、将来に対する不安が残る。
		自動車備品販売店（経営者） その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（支配人）	・株価が上がって、様々な業界で明るい話が出始めて政治にもこれから期待できそうな感じがしてきた。 ・客の話から今後の景気回復への期待を感じ、それによる消費の増加が望める。
	やや良くなる	商店街（理事）	・株価の動き、政治面で明るい報道があるので期待している。
		商店街（代表者）	・昼時と夕方からの客数が増えてきており、客単価も少しずつではあるが回復しつつある。
		商店街（代表者）	・安定的な政治と経済政策等により、一般家庭の支出が増え、景気が少しずつ良くなる傾向にある。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	・近隣エリアとの競争が激しいので仕入れに一層の努力が必要になるが、ゴールデンウィークには商店街のイベントがあるので売上増加が見込める。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・象牙といった高級印材の注文が増え、良い物には金を使うという傾向が出つつある。
		百貨店（営業担当）	・まだまだ寒くて冬物が売れている。今後については判断が難しいが、売上が前年を上回ってきている状況から、春物も順調に売れると今後期待している。
		百貨店（営業担当）	・「菓子博」の開催により会場付近への流入客の増加が期待できる。
		百貨店（営業担当）	・毎月の売上目標はかなり高く設定されているので目標の達成は厳しいが、前年比は毎月クリアしているので景気は良くなる。
		百貨店（購買担当）	・買いたいという客の意欲が手に取るように分かるほどで、旅行に行く予定もあるという客が多く景気は上向く。
		スーパー（店長）	・桜の開花が例年より1週間程度早まるとの予想が出ていること、花粉量が昨年より大幅に増えること、またPM2.5の飛来など、前年にはない要素が出てきており、それぞれの対策商品の増加などが見込める。
		スーパー（総務担当）	・気候が良くなるとともに、買上点数の増加と季節的歳事での売り込みによる購買意欲の向上を期待している。
		スーパー（販売担当）	・客1人当たりの購入点数、購入単価を見る限りでは少しずつ良くなっている感触は得ている。客数さえ戻れば一気に景気回復を実感できる。
		コンビニ（エリア担当）	・新規開店予定の店舗があり集客が見込まれる。
		コンビニ（地域ブロック長）	・新政権での景気対策に対して一般消費者も期待が高い。円安による原材料高の吸収が課題である。
		衣料品専門店（経営者）	・政権交代により景気が良くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・少しではあるが、客の購買意欲の高まりが感じられる。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・景気が良くなっているという雰囲気、来客数増加が見込める。
家電量販店（企画担当）	・政権交代をして、景気回復への期待を客から聞く機会が増えた。景気が良くなることを期待している。		
乗用車販売店（店長）	・依然として来客数が衰えず、前年を超える勢いが続く。		
乗用車販売店（営業担当）	・株価の影響が経営者などには出ており、よく動いている。一般客も消費税が上がる前にと、少しずつではあるが動いているが、財布が重くなっているわけではないので、購入はかなり迷っている。		
乗用車販売店（店長）	・決算で客の動きもあるが、夏まで現在の状況が続く。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		その他専門店〔海産物〕（経営者）	・今までずっと低調なムードで観光客が増えてくるようには感じられなかったが、少しは良くなってきそうな感触がある。	
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	・3月以降も株価の上昇や金融緩和の実感が継続すれば消費者心理にも明るい兆しが見られ、客単価の上昇が期待できる。	
		その他小売〔ショッピングセンター〕（運営担当）	・急激な円安による為替リスクは若干懸念されるものの、ここ2～3か月の景況感の改善により、今後さらに個人消費が伸びてくる。	
		一般レストラン（経営者）	・景気が良くなる雰囲気があるので、少しずつ良くなる。	
		一般レストラン（経営者）	・マスコミ等の影響で今後給与の上昇が期待できるムードが広がっている。また、新年度にあたって消費せざるを得ない状態も続くので、景気はしばらく良くなる方向に向かう。	
		一般レストラン（外食事業担当）	・アメリカ産牛肉の規制緩和による相場の値下げで需要は伸びる。	
		スナック（経営者）	・希望的観測であるが、景気対策等によりもう少しは景気が良くなって欲しい。	
		観光型ホテル（支配人）	・3月からは地区の大型イベントに加えて、当県への外国人旅行者の誘致に国・県が主体となって取り組む施策を行うため、大幅増が見込める。	
		都市型ホテル（総支配人）	・宿泊の予約状況を見ると、3月以降は前年比で4～5%上回っていることから、やや好転の兆しが見える。	
		旅行代理店（経営者）	・これから政府の施策等が出て、景気回復の期待をしている。	
		タクシー運転手	・チケット枚数や客数は上向きつつある。	
		通信会社（企画担当）	・さまざまな商材のなかで、必ずしも契約1件当たりの月額料金が上昇するという方向ではないが、タブレット端末等、モバイル関連の商材の伸びが堅くなってきている。	
		通信会社（広報担当）	・新商品の発売が一通り終了する。	
		通信会社（工事担当）	・1年で一番の需要期を迎える。	
		ゴルフ場（営業担当）	・景気回復ではないが、前年まで自粛していたコンペ復活など、前向きな話が増えてきた。	
		競艇場（職員）	・4月から関東のスポーツ紙に出走表を掲載することになっており、電話投票の売上が見込める。	
		美容室（経営者）	・消費者が二極化し、必要なものには金をかけ、高価なものでも購入していく客が増える。	
		設計事務所（経営者）	・受注量の増加傾向が見受けられるが、円安傾向のため輸入資材の価格が上昇し、企業自身の収益内容は受注量に比例しない傾向が見受けられる。	
		設計事務所（経営者）	・国は今年度の補正予算で古い建物の耐震・省エネなどの工事に対する補助金を組み込んだので、今後これを使った工事増が見込まれる。	
		設計事務所（経営者）	・消費税増税前に建築するためには、9月までに設計を完了し工事請負契約を締結する必要があるため、これからの2～3か月が設計受注のピークとなる。	
		住宅販売会社（従業員）	・薄日の景気感が客から感じられる。	
		住宅販売会社（営業担当）	・税制制度の大綱が発表され、おおむね先行きが見えてきたので、買い控えていた客の動きに期待したい。	
		変わらない	商店街（代表者）	・公共事業が今後増える予想から景気の良い話は耳に入るが、まだ末端の小売業までその影響が表れてくるような様子はない。
			商店街（代表者）	・4月に市長・市議会議員選挙を控えており、それが済むまで景気が上向くことはない。
			一般小売店〔茶〕（経営者）	・まだまだ悪い状況が続く。
			一般小売店〔酒店〕（経営者）	・商圏の少子高齢化に歯止めがかからなければ、景気は厳しい状況のままである。政府の経済対策に期待する。
一般小売店〔酒店〕（経営者）	・株高や円安で盛り上がっているが、地方経済に反映されるにはもう少し時間がかかる。			
一般小売店〔紙類〕（経営者）	・来客数は観光客のおかげでどうにか減少せずに済んでいるが、今後も続くか不安である。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場担当）	・比較的アクセサリ類の売上は安定しており単価が維持できているが、実需商品を賢く買う節約志向は変わらず、大きな伸びはないと予測する。
		百貨店（売場担当）	・アベノミクスへの期待もひと段落し、これからはどれだけ実現できるかがキーとなる。総じては変化なしと判断する。
		百貨店（電算担当）	・売上は前年と同じで、外商の力が発揮されて呉服や貴金属、美術など、高級品の売上が良い一方、来店客数の減少が影響して食品と婦人服は苦戦する。消費者は二分化、多様化していく。
		百貨店（販売担当）	・景気回復の期待はあるものの、客の様子をみる限りではまだまだ必要最低限の商品のみの購入にとどまっている印象が強い。
		百貨店（営業推進担当）	・これといった政治的な政策が出ておらず、後退局面にはないものの、景気回復を感じるところまではいかない。
		スーパー（店長）	・景気を判断する材料はない。
		スーパー（店長）	・アベノミクスで給与が上昇するのは当分先のことであり、電力料金や石油の高騰が続いて客は生活防衛に走る。
		スーパー（店長）	・地元産業の景気が悪く、回復の兆しが見えない。
		スーパー（店長）	・経済政策で景気が徐々に上向き傾向なのは分かるが、労働者が体感できるのはまだ先に思える。
		スーパー（業務開発担当）	・近隣にコンビニがオープンし、また別に出店予定もあるので、このことは後々ボディブローのように効いてくる。
		スーパー（財務担当）	・収入の増加が見込めないため、景気回復の実感がなく節約が続く。
		スーパー（販売担当）	・客層に変化がない。
		スーパー（管理担当）	・環境に変化がなく、現状維持の状況が続く。
		スーパー（営業システム担当）	・安さが売りのディスカウントストアの出店が相次いでいる。価格での競争は難しいのでサービス面の見直しやイベントなどの販売促進を考えていかなければ、今後の売上増は難しい。
		コンビニ（エリア担当）	・月初めには来客数と売上が前年より6～7%上回っていたが、20日を過ぎるとその割合は3～5%になり、この先の動きが分からない。店近隣の工事現場からの客の動きで左右される。
		コンビニ（エリア担当）	・下げ止まり感を感じるが、横ばいが続く。
		コンビニ（副地域ブロック長）	・アベノミクスの経済効果を期待したいが、小売業者への恩恵は最終段階になる。
		家電量販店（店長）	・太陽光の売電価格の値下げで、太陽光発電システムは更に売りにくくなる。売上に占めるテレビの比重の大きさを痛感する。
		乗用車販売店（副店長）	・新商品の投入予定がなく、決算時期も終了する。
		自動車備品販売店（経営者）	・地元大手企業の業績次第では更に悪化する。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・好影響となる要因が見当たらない。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・輸出型企業には円安が反映しても、国内企業が潤うかどうか疑問である。地方経済は悪くなるような気がする。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・地方では景気回復は半信半疑で、秋以降に期待する。
		高級レストラン（スタッフ）	・先の予約状況は前年にまだ及んでいないが、平日、週末とも客が増えつつある。
		一般レストラン（エリア担当）	・外食を控えている感じで、宴会予約も減ってきている状況は続く。
		都市型ホテル（スタッフ）	・自動車道開通に伴い、山陰からの行動圏が拡大して広島への行楽やビジネスの活性化が期待できる一方で、ガソリン価格の高騰で車の利用に影響が出るのが懸念される。
		都市型ホテル（企画担当）	・春先には人の動きや購買が活発になるが、抜本的な景気対策が今のままでは効果があるとは思えず、全体的な底上げは期待できない。
		タクシー運転手	・これ以上景気が下がることはない。
		タクシー運転手	・3～4月は卒業式、入学式及び企業の人事異動等で人の動きは多いが、それを過ぎると元に戻る。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（社員）	・客からの新規サービス加入などの問い合わせ数に変化がない。
		通信会社（総務担当）	・先行予想が販売量に結び付かない。
		通信会社（営業担当）	・現在は円安であるが、為替が安定しなければ2～3か月先の事は予測できない。
		テーマパーク（業務担当）	・園内売店、飲食施設の客単価は前年に比べ1割以上低下していることから来園者の節約志向がうかがえる。ガソリン価格は昨年末から上昇し続けていることもあり、今後は行楽支出の節約志向が進み、来園者数への影響が懸念される。
		テーマパーク（管理担当）	・マスコミは景気の良い話をしているが、地方に影響が出るにはまだ時間がかかる。
		テーマパーク（広報担当）	・前年に比べると観光客の動きが活発になってきている印象であるが、PR経費を削減せざるを得ない状況もあり、来客数の大きな増加は期待できない。
		その他レジャー施設（アミューズメント）	・春休みに向けて客層の流動性が高い映画公開があるため、娯楽目的で来店される客の伸びは期待ができる。また、地域の自動車産業の景気が少し良くなっている話題を聞くようになり期待をしている。
		美容室（経営者）	・景気が良くなると言われているが、周囲はそれほどでもなく、消費税増税後の不安が大きい。
		美容室（経営者）	・短期間では状況が変わることはなく、このままだと徐々に悪くなるか、現状維持が精一杯である。
		その他サービス〔介護サービス〕（介護サービス担当）	・ここ半年以上身の回りで景気の変化が見られないことから考えても、何かよほどのことがない限り、今後2～3か月で景気の変化が見られるとは思えない。
設計事務所（経営者）	・大手企業の景況感だけが注目を浴びているが、地方経済に明るい兆しはない。		
やや悪くなる		百貨店（販売促進担当）	・春物商戦が本格化してくるが、1か月後には高速道路が全面開通となる。これにより京阪神地区への利便性が更に良くなり、消費の域外流出が懸念材料となる。また、地域消費の低迷に加え、大手企業の業容縮小で新たなマイナス要因が生じつつある。
		スーパー（店長）	・ディスカウントショップや大手企業の小型店の出店ペースが激しく、商圏の奪い合いが一層激しくなる。また、円安の影響が原料高騰につながり、デフレのなかで著しく価格の上がる商品が現れ、買い控えが予想される。
		家電量販店（店長）	・入進学シーズンを迎えるが、新生活需要の商品は年々単価が下がっている。家電商品においてはこれといった起爆剤となる商品が乏しい。
		家電量販店（店長）	・3～4月は卒入学関係の商品が動き始めるが、それを過ぎれば景気は悪くなる。
		乗用車販売店（統括）	・エコカー補助金終了による影響が続く。
		乗用車販売店（業務担当）	・3月までは大増販月でしばらくは好調が続くが、4月以降はその反動が来る。
		都市型ホテル（企画担当）	・円安の影響で燃料費等が値上がり傾向のため、消費が冷え込んでくる。
		通信会社（通信事業担当）	・異動に伴う解約は例年並みであるが、それ以上のペースで通常の解約が多く発生している。
悪くなる		商店街（代表者）	・近隣で大型ショッピングセンターの開店があるので、その影響は避けられない。
		住関連専門店（営業担当）	・来客数、客単価どちらも下がる。
		通信会社（営業担当）	・最大の新生活需要がある2～3月が終わり、6月以降の夏モデル登場までの間は販売が落ち込む。
企業動向関連 (中国)	良くなる	木材木製品製造業（経理担当）	・景気回復ムードの高まりにより消費増になる。
		建設業（総務担当）	・仕事は増え、技術者の稼働率も良い状態がこの先しばらく続くように感じている一方で、深刻な職人不足で工期面とコスト面での懸念がある。
	やや良くなる	繊維工業（統括担当）	・現内閣が前向きに動き始め、いい方向に行くことを期待する。
		化学工業（経営者）	・金融緩和策の影響で市場金利が大幅に低下しており、設備投資の増加等により景気浮揚を期待している。
		化学工業（総務担当）	・公共投資等の追い風に期待する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		鉄鋼業（総務担当）	・アベノミクス効果に期待しており、心理的には好転している。
		鉄鋼業（総務担当）	・為替是正、公共投資増により、一時的には景気は上向くと考えられる。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・円安基調及び大型補正予算、公共工事の安定した発注等をみれば、今後好調に推移する。商談においても前向きな発言もあって期待できる。
		建設業（総務担当）	・耐震工事や消費税増税前の発注増への期待がある。
		輸送業（業務担当）	・今後2～3か月後には荷動きが良くなることを期待しており、景気はやや良くなる。
		通信業（営業企画担当）	・情報系アウトソーシングを主体とした新サービスを客が前向きに検討しており、来期に向けての継続した提案が実施できている。
		金融業（自動車担当）	・為替の円安基調はしばらく継続するとみられ、輸出比率の高い自動車産業では高い操業度が続く。
		金融業（営業担当）	・最近の株高等で経営者の心理状態は以前と比べて明るさが出てきている。ただ、この株高等が継続するかについては疑心暗鬼の面もあり、積極的な投資にまで至っていない。現状の円安、株高が数か月継続するようであれば前向きな投資が増えて景気が良くなってくる。
		不動産業（総務担当）	・賃貸不動産の需要時期になる。
		広告代理店（営業担当）	・本格的な販売促進シーズンに突入するなかで、広告業界としては稼ぎ時でもあり、社会活動も活発になってくる。販売促進PRでの売上げが見込める。
変わらない		食料品製造業（総務担当）	・3～4月の販売に向けてダイレクトメールを出すのが、その反響が心配である。おそらく前年並みである。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・焼却場の工事予定、新規引き合いもなく一部加工品（製品の2次加工での納入品）の注文は確定しているが、生産量は現在の水準が続く見込みである。
		非鉄金属製造業（経理担当）	・過度の円高に修正が入り追い風となっているが、エネルギーコスト上昇等の下方リスクも依然存在する。
		金属製品製造業（総務担当）	・造船各社からは4月からの値下げ要請を受けており、その対応に苦慮している。前年に比べて仕事量も少なく、量と単価の両方が下がって厳しさが増す見込みである。工作機械等の他業界でカバーすべく動いているが、現状と変わらず好転する兆しはまだ見えていない。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きに変化がみられない。
		一般機械器具製造業（経理財務担当）	・国内需要に動きがみられない。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・新機種の立ち上がりがあり、売上げが見込める。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・直近の客からの発注内示は安定したボリュームで推移している。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・受注量の減少傾向と販売量の伸び悩み傾向で推移する。
		建設業（経営者）	・公共投資の見直しにより期待はあるが、この地域でどのようなことになるのか分からない。デパートの閉鎖で失業者も出て、悪い状況のまま推移する。
		通信業（営業担当）	・本来なら1～2月で年度末見込み受注案件が見えるところであるが、駆け込み需要も少なく期待できない。通信機器関係も壊れるまで使用するという客が多い。クラウド系ビジネスへの移行も伸び悩む。
		会計事務所（職員）	・景気に対する若干の上げ潮ムードの影響を受けて、雰囲気的には良くなる傾向があるが、具体的に数字で出て来ていない。また受注状況も相変わらずシビアであることに変わりはない。
		コピーサービス業（管理担当）	・複写機に関して景気が良くなる要素はない。
やや悪くなる		農林水産業（従業者）	・イカ釣りが好スタートを切っており、このまま続くことを希望する。
		食料品製造業（総務担当）	・今から円安が続けば原材料の高騰が考えられるが、客から値下げ要請が激化しているなか、値上げ交渉ができる状況ではない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・原油や電気料金の値上げ、消費税増税と相次いで値上げが見込まれる。
		輸送業（総務担当）	・取引先企業の明るい話題がない。
	悪くなる	—	—
雇用 関連 (中国)	良くなる やや良くなる	—	—
		求人情報誌製作会社（採用支援担当）	・本格的に景気が回復すれば、景況感に比例して人材需要は増加する。ただし、新卒採用は中途採用ほど大きな動きをしない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・景気が良くなったとする事業所はないが、株高で経営者の表情が極めて明るくなっている。事業投資意欲の高まりにつながる期待もある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・円安基調は輸出企業の収益を改善させるので景気にはプラスに働く。また、1月の百貨店の販売が前年を上まわり、明るい兆しが見え始めている。
		民間職業紹介機関（職員）	・円安による輸出産業の黒字化や大幅利益増など、今のところアベノミクスの成果が出ている。金融緩和が当面継続すると仮定すれば、株式時価総額上昇の資金をもって設備投資に動く。
		民間職業紹介機関（人材紹介担当）	・アベノミクスの影響が徐々に表面化してくると期待する。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・2～3か月後に対し現時点でプラス材料もマイナス材料もないため、採用活動は例年どおり推移する。
		人材派遣会社（営業担当）	・マーケットではまとまった単位の増員計画などの話が聞こえてくることもなく、求人数も横ばいで推移することが予想される。
		人材派遣会社（営業担当）	・期待感は大いだが、実際は見通しが立たない。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・今後も状況が大きく変動することはないが、どちらかと言うとやや右肩下がりになるような状況にある。
		職業安定所（雇用開発担当）	・求人数は増加しているが、パートや期間雇用の求人の伸びが正社員求人の伸びより高いため景気は変わらない。
職業安定所（産業雇用情報担当）		・製造業は依然として雇用調整を行っているところが多く、円安による好影響が期待できるのもまだ先の話となる。	
学校〔短期大学〕（学生支援担当）		・良くなって欲しい期待はあるが、どう良くなっていくのかわ見えてこない。	
	その他雇用の動向を把握できる者〔労働機関〕（職員）	・今春の新規学卒求人が件数では前年を上回ったものの、募集人数が絞られているため低水準で推移している。新たな企業誘致の大量採用の話も複数あるが、来年以降のものもあり、今現在の求人増加には結び付かない。	
やや悪くなる	職業安定所（産業雇用情報担当）	・管内事業所が2月末で店舗を閉鎖するため、今後求職者が増加する。	
悪くなる	—	—	

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (四国)	良くなる やや良くなる	—	—
		商店街（代表者）	・量販店や食品スーパーの過当競争が更に厳しくなる。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・今が悪すぎるため、今よりは良くなるのではないかと思う。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・予約商品の単価が例年並み、あるいは少し低い程度で安定している。注文数も昨年と同じくらいになると予想している。
		百貨店（営業担当）	・駐車場が整備されるなど店舗周辺の環境が良くなったため、これから来客数や購入動向も変わってくると思う。
		百貨店（営業推進）	・政府の景気対策の効果が現れて、これから景気が良くなると思う。
		コンビニ（店長）	・建設業関係者は客単価が高いので売上が増加している。それに伴って、好循環で回り始めるのではないかと期待している。
		コンビニ（商品担当）	・政府の経済対策が小売業にまで及ぶのは半年程度遅れると思われるが、少しは消費者の財布のひもは緩んでくると思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・景気は良くなると思うが、ガソリン価格の高騰や電気料金の値上げなどの物価上昇が足を引っ張らないでほしい。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・春から夏にかけては一番よく売れる時期である。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・引き続き、わずかながら売上増加を見込んでいる。
		タクシー運転手	・これから企業の歓送迎会や新入学生などの利用が増えると思う。
		通信会社（企画）	・例年に比べて高額商品への関心が高くなってきている。
		観光名所（職員）	・円安の影響によって、海外旅行から国内旅行へシフトすることが予想される。
		競艇場（職員）	・引き続き堅調に推移するものと思われる。大きなレースも控えており、盛り上がり期待できる。
		設計事務所（所長）	・中心部の遊休地に、建物が建ちはじめた。
		設計事務所（職員）	・今年度の残業務と次年度にかけての2か年継続の業務量が相当あり、年度が変わっても相当量の仕事を抱えられそうである。例年は年度明けから売上が低下していくが、新年度は低下することなく横ばいからやや増える程度になると予想している。
		変わらない	
商店街（事務局長）	・株高や円安による企業業績の改善が一般消費者の消費行動とは結びついていない。消費税増税前の駆け込みが起きるまでは、大きな消費行動に移行することはないように思う。		
一般小売店〔酒〕（販売担当）	・景気回復の兆しはあるが、まだまだ消費者の財布のひもは緩んでいない。小売業は本当に厳しい。		
一般小売店〔菓子〕（総務担当）	・生活費や遊興費などの個人消費を後押しする景気材料が見当たらない。		
百貨店（総務担当）	・婦人・紳士衣料など身の回り品の需要が低調であるため。		
スーパー（店長）	・景気が好転する要素が見当たらない。		
スーパー（企画担当）	・3月には業界トップのコンビニチェーンが四国に初進出するなど、スーパー・コンビニ・ドラッグストア等による厳しい競争が更に過熱しそうである。		
スーパー（人事）	・政府の経済政策で、見た目の景気は回復しつつあるが、消費者の生活に反映されるには1年はかかるだろうと予想する。		
コンビニ（総務）	・天候や気温に左右されるが、身の回り品の動向が先行き不透明なため今後も変わらない。		
衣料品専門店（経営者）	・3月中旬までは気温の低い日が多く春物衣料は厳しいと思う。3月下旬から、4月にかけてに期待したい。		
衣料品専門店（総務担当）	・消費マインドの低下が年末から顕著になっており、今年に入ってより強くなっている。景気が本格的に回復するとは思えない。		
家電量販店（店員）	・乗客数が増減する要因が無いため、ほぼ変わらないと思う。		
乗用車販売店（従業員）	・エコカー補助金の反動で、売上は前年比約70%だが、車の受注は増えている。良くもならないが、悪くもならないと思う。		
乗用車販売店（従業員）	・トータルの新車販売台数は減少するが、燃費の良い車の販売比率の高まりは今後も続くと思われ、ハイブリッド車の販売台数が減ることは少ないと思う。		
乗用車販売店（役員）	・新型車効果などによって現在より良くなっていくと思うが、自動車業界は今年は前年比で2割落ち込むという話もある。政府の経済対策に期待したい。		
住関連専門店（経営者）	・株価上昇と円安により、将来的に少し期待している。		
観光型旅館（経営者）	・2～3か月先の予約状況はあまり良くない。時期的要因もあるが、まだ国内旅行は増えていない。		
都市型ホテル（経営者）	・これから先の予約状況は、良くもなく悪くもないという状況であり、あまり変わらないと思う。		
旅行代理店（支店長）	・円安の影響で海外旅行は落ち込むと思われるが、景気回復への期待が増せば、国内旅行に期待できる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		ゴルフ場（従業員）	・これからゴルフシーズンに入るが、3か月先までの予約状況は厳しい。また、単価も下落しており、現在とあまり変わらない悪い状況ではないかと思う。
		美容室（経営者）	・公共料金やガソリン等の値上げが消費マインドにどのような影響を及ぼすか懸念される。
		美容室（経営者）	・スタッフの補充をする余裕はないため、現状より良くなることは難しい。
		住宅販売会社（従業員）	・景気が良くなって、所得が増えないと、住宅ローンの審査が通りにくいため、販売量増加にはつながらない。
	やや悪くなる	スーパー（統括担当）	・株価は上昇しているが、消費者の購入単価が下落している状況が続いており、今後も変化があるとは思えない。
		スーパー（財務担当）	・円安による原材料や仕入れ商品の値上がり分を、販売価格に反映させることで、消費行動に悪い影響が出ると思う。
		乗用車販売店（営業担当）	・2～3月の最需要期を過ぎると、良くなる要素が全く無い。
		通信会社（営業担当）	・年間最大の商戦期である3月が終わると、例年同様に落ち込むと予想する。
	悪くなる	スーパー（店長）	・電気料金が値上がりすると、消費者は買い控えに動くのではないかと思う。
		衣料品専門店（経営者）	・原油価格の高騰や電気料金の値上げ、また政府のインフレ誘導で物価が上がっていくことが予想されるため、所得が増えない現状では悪くなる要素しかない。
企業 動向 関連 (四国)	良くなる	食料品製造業（商品統括）	・円安・株高によって、景気が上向き実感が湧きつつある。
	やや良くなる	繊維工業（経営者）	・高額なインテリアを扱うセレクトショップといった新規取引先が増加している。市場にも低価格商品を求める傾向がある一方、高価格でも顧客満足度の高い商品を求める傾向も高まっている。これはこだわりのモノ作りを追求する製造業にとって力強い傾向であり、今後、海外市場を含めて明るい材料である。
		木材木製品製造業（経営者）	・季節要因もあるが4～6月にかけて前年比プラスの良い状態が続くと思う。
		鉄鋼業（総務部長）	・年末からの円安効果が当社に波及するのは早くても秋以降になると予測する。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・円安が継続・定着すれば期待できるが、現状は期待先行の面があり、揺り戻しの動きが懸念される。
		輸送業（経営者）	・雰囲気の良いを感じるため。
		通信業（部長）	・円安が直接需要に結びつくにはまだ時間はかかると思うが、政府の金融政策全般への期待度も高まっており、徐々に良くなる傾向を感じている。
		金融業（融資担当）	・急激な改善はないとしても、景気回復の影響が少しずつ現れてくると予想するため。
		不動産業（経営者）	・これからも政府の政策や税制等の改正が見込まれており、今以上に需要が増えていくと思う。
		公認会計士	・政府の経済政策で、株価も上昇し、経営者の気分が少し上向いている。将来的には不動産等の価格も上昇するのではという話も経営者から出ており、経営者の考え方が少し前とは変わってきている。
	変わらない	農林水産業（総務担当）	・気温上昇により消費量は上向く。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・年度末を迎えるが、思ったほど受注が増加してこない。全体的にはまだまだ状況は悪いと思う。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・国内受注は1～3月期の反動で、4～6月期は一時的に落ち込みそうである。海外受注は、ほぼ計画どおりだが、円安の影響により上振れを見込む。トータルではあまり変わらない。
		建設業（経営者）	・わずかな期待はあるが、2～3か月ではまだ変わらない。
		建設業（総務担当）	・景気回復は期待できるが、受注価格に反映するにはまだ相当期間が必要と判断する。
		広告代理店（経営者）	・景気が上向くことが期待され、広告も復活あるいは増加の期待感がある。しかし、地元資本の得意先の広告費増加にはまだ時間がかかると思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・再生可能エネルギーの買取価格が4月から値下がりするという話がある。そうなると当社の受注は落ち込むことが予想される。
	悪くなる	輸送業（支店長）	・他社による運賃ダンピングや取扱量の減少、また、燃料価格の高騰により収益悪化に拍車がかかる。
雇用 関連 (四国)	良くなる	求人情報誌製作会社（従業員）	・異動時期になり求人数の増加が見込まれる。
	やや良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・年度末や夏季の需要などに伴い、求人の増加を期待したい。
		職業安定所（職員）	・月間有効求人倍率が、先月と比較して0.02ポイント上昇している。また、前年同月と比較しても、0.20ポイント上昇している。
	変わらない	人材派遣会社（営業）	・円安や原油高騰などが消費意欲を抑制する要因として景気にどこまで影響するかが不透明である。また、4月の労働契約法改正に伴い、企業が有期契約者の取扱をどうするのかを間接的に景気に影響すると考える。
		求人情報誌（営業）	・地場の中小企業でも、少しずつ人材の採用数が増えてきている。しかし、増えているのが非正規社員というところが引っ掛かっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・県などの予算執行が始まると現状よりは上向くと思うが、円安株高の恩恵を受ける企業は当県には少ない。ガソリンやそれに伴う各種製品の値上がりや電気料金の値上げが近づくなど、負の影響が先行し、消費者は家計防衛に傾くのではないかと思う。
		民間職業紹介機関（所長）	・3月の決算時期を控え、最後の利益確保に向かって動いている企業が多く、景気が良くなる要素はなかなか見つからない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・来年度向けの求人は順調に増えており、昨年より多い。しかし、企業の採用活動が短期集中になってきていることを考えると楽観視はできない。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・年度末を迎え、公共事業の終了や、大型官製談合事件の影響による離職者が発生することが予想される。
悪くなる	—	—	

10. 九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	良くなる	○	○
	やや良くなる	商店街（代表者）	・新政権になり、景気対策のテコ入れをしたことが、客にプラスの影響を与えている。将来への不安が少し払しょくされ、客の財布のひもは少し緩んでいる。
		商店街（代表者）	・政権が代わり、アベノミクスに期待される。消費税増税や電気料金・ガソリンの値上げ、また食料品においても小麦粉の値上げが発表されており、厳しいところもある。
		商店街（代表者）	・政権交代等の政治の動きは小売店にあまり影響を与えていない。小売店の廃業が増えているのも確かであるが、入学式や卒業式等の制服関連に動きがあり、例年より良い状況である。今後もこの状況が続く。
		商店街（代表者）	・贈答品や合鍵等の動きが間違いなく増える。しかし、物品販売業に関しては現状のまま推移する。
		商店街（代表者）	・3月になると異動期になり、消費が活発になる。また天候も良くなるので、今後、景気は浮揚する。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・これから5月の母の日までは卒業式等の花の需要があり、毎年良くなる。ただ、企業の予算削減により、企業向けの花の需要が減る懸念もある。
		百貨店（売場主任）	・新政権になり、景気浮揚の好材料が出てきている。消費者のなかにも景気が良くなるのではないかという期待感が醸成されつつある。このまま安定的な政権運営が行われていけば、商圏内にある自動車産業の業績が好転し、消費の活性化につながる。また、クールビズも3年目でそろそろ半袖ワイシャツの買換え需要があり、前年に比べると盛り上がる。
百貨店（総務担当）	・当施設の核テナントである百貨店の売上が若干上昇傾向にある。来客数も回復傾向にあり、今後に期待できる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（企画）	・宝石や美術品等の高額商品の動きが良くなっており、景気はやや良くなる。
		百貨店（営業統括）	・来客数が増えており、今後の購買の増加が期待される。
		スーパー（店長）	・競合店出店から約1年が経過し、その影響は少なくなる。今後は、来客数の伸びが期待される。
		コンビニ（経営者）	・消費マインドがやや回復に向かっており、今後それが具現化してくる。
		コンビニ（販売促進担当）	・ここ数年、小麦粉の卸価格が上がったり、下がったりの繰り返しであるが、売れ筋の菓子パン等は価格を変えずに大きさを変えて対応し、例年並みの動きとなっている。食パンについても上向き傾向で、販売個数は伸びている。今後、景気は若干良くなる。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・今から春にかけて少しずつ暖かくなっていき、今よりも客が外に出る機会が増え、売上は少しずつ改善されていく。それに伴って、プラス1品の買物が増え、売上は少しずつ回復する。
		衣料品専門店（店長）	・現状売上が良く、このまま伸びる。
		衣料品専門店（総務担当）	・政権交代により、経済政策がかなり大胆に変更され、消費動向はプラスに動いている。また株価にも表れており、景気はこれからやや良くなる。
		衣料品専門店（チーフ）	・ここ2、3か月間、売上が日々上昇し続けている。またアジア各国の客の来店が増えているため、今後の売上にはまだ伸びしろがある。
		家電量販店（店員）	・景気はまだまだ悪いが、アベノミクスはうまくいっており、株価が上がっている。少しは明るい材料であり、今後、景気はやや良くなる。
		乗用車販売店（代表）	・消費者の様子をみる限り、3か月先の景気は多少なりとも上向きになる。
		住関連専門店（店長）	・農家が多い土地であり、今後のTPPの方向性にかかなり左右されるが、景気対策への期待が感じられるため、全体的には良い方向へ進む。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・3、4月には卒業、入学というシーズンを迎えるのでちょっとしたギフト物がこれから出る。また気候が暖かくなるにつれ、客の出入りが多くなるので、それに見合う販売量が見込める。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・空港内の店舗改装が終わり、コンビニエンスストアの新規開店がある。集客力が高まるため、商品の動きが良くなる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	・政権交代後の金融政策等による円安や株価に動きがあり、経済環境が明らかに変化している。先行きの期待感から、今後消費活動は良くなる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・3月も引き続き予約状況は良い。
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況は例年と比較しても好調な状況であり、大型コンベンションも開催される。
		都市型ホテル（副支配人）	・予約自体は少しずつ遅れてきているが、個人の動きが非常に良く、今後も良い状況が続く。
		旅行代理店（企画）	・さらなる株価の上昇と円安の進行により、メーカーで働く人の景気が良くなる。一方で、中国や韓国との領土問題による観光産業への打撃が懸念される。
		タクシー運転手	・今のところは官主導で動いているが、企業ごとに民の動きも少しずつ出てきているので、この先少しずつ世の中の景気が回復していく。
		通信会社（販売部）	・3、4月は卒業・入学や入社、異動等のイベントがあるため、それに合わせて携帯電話の需要が高まる。
		通信会社（営業担当）	・今、政府が推し進めている経済政策を確実に実行し、今の状況が続けば、景気は良くなる。
		競輪場（職員）	・堅調な売上が持続している。
		美容室（経営者）	・化粧品業界は、暖かくなると春物、薄手の洋服に変わってきて、化粧品等が動く。それに合わせて今の景気対策が少しずつ浸透し、景気回復につながると大変期待している。
		理容室（経営者）	・今月から学校の卒業等の行事があり動きは良くなる。3、4月はまだ入学等の行事があるので、今後も期待される。
		美容室（店長）	・来月の予約も入っており、少しずつではあるが景気が良くなっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・在宅サービスの需要が拡大する季節時期でもあり、また政権交代による補正予算により、さまざまな助成事業のチャンスが期待できる。
		設計事務所（所長）	・予定されている官公庁の工事が5月ごろから発注されるので、景気はやや良くなる。
		設計事務所（代表）	・消費税増税前の駆け込みでやや良くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税の影響が特需として顕在化してくる。
		住宅販売会社（代表）	・基本的にはやや良くなっていく。それは税制の優遇等政策の形が変わってきているところが影響している。
		商店街（代表者）	・商店街における他店の話でも、売上が良かったという話は聞かない。何とか現状を維持しているのが現状であり、今後も変わらない。
		商店街（代表者）	・アベノミクスによる円安や株価の上昇で、大手企業や製造関連企業の業績回復が連日ニュースで伝えられているが、一般消費者のレベルでは全く実感がない。特に高齢者や主婦層では、円安による原油価格の上昇や電気ガス料金の値上げ等により、購買意欲の減退が懸念される。
		商店街（代表者）	・世間では政権交代をしたアベノミクスで景気が良くなっていると言われていているが、これはムードが先行しており、実際には消費は低調な状態が続いている。これからもこの状況が続く。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・卒業・入学シーズンであるが、最近では家で祝いをするのが少なくなっている。お祝いをして、鉢盛等の需要はなくなっている。今後も厳しい状況が続く。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・景気が良くなるという要素が今のところ生鮮食品業界では見当たらない。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・円安、株高により景気が少し回復したかのようにみえるが、消費者はまだ節約傾向にあり、一般小売店にまで景気回復感の伝わりは伝わってこない。必需品であるガソリンや電気代の値上げもあり、買い控えはまだ続く。
		百貨店（営業担当）	・自家消費の物産催事での購入意欲はおう盛であるが、冬物衣料バーゲンや春物正価販売品の動きが今一步である。クレジット利用者の買い控えや現金の貯蓄傾向は今後も続く。
		百貨店（売場担当）	・来客数は前年比1～2%減でずっと推移しており、それほど下振れはしていない。3月いっぱいでは他地域の店舗が閉店し、そちらの客を取り入れる営業をするため、今後はややプラスとなる。ただ気候要因がかなり影響してくる。
		百貨店（営業政策担当）	・景気の底上げとなる与件は当面見当たらず、各商業施設の施策によるパイの奪い合いの構図が続く。消費税増税前の駆け込み需要も、次年度後半の効果に限定される。
		百貨店（売場担当）	・ガソリン代も光熱費も上がっており、消費動向は今後、厳しくなる。
		百貨店（業務担当）	・季節の立ち上がりには、春物の動きが鈍い。ここにきて気温が平年より低いのも原因であるが、必要な時期に必要な買物をする行動パターンが続いており、必要がなければ購入しないという動きに変わりはない。
		スーパー（経営者）	・富裕層については良くなる傾向にあるが、その他の消費者層にとっては物価の高騰等による不安感が残っている。今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（店長）	・円安が更に進み、小麦を中心とした各種食品の値上がりやガソリンの店頭価格の上昇といった状況下で、客は生活防衛に走り、買い控え傾向となる。可処分所得が増えなければ、景気浮揚とはならない。今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（店長）	・一般的には景気回復基調がささやかれているものの、店舗の売上自体は厳しい。同業各社との価格競争も相変わらず続いており、先行きは楽観視できない。
		スーパー（店長）	・競合店がディスカウント化になって、5月で1年が経過する。その影響は変わらない状況であり、今後も前年比7%減ぐらいで推移する。
スーパー（店長）	・政府の景気対策で景気は上向きになると思われるが、企業の業績が社員の給与に反映されるまでにかかなり時間がかかる。特に光熱費のアップで家計は非常に苦しくなり、3か月後についても景気回復はあまり見込めない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（総務担当）	・大きな新規参入がないため、競争環境は大きく変化しない。今後も現在の景気状況で推移する。
		スーパー（総務担当）	・日々の買物にかける金額は相変わらず上向き傾向にならず、競合も含め低価格戦略による客の獲得競争が継続する。
		スーパー（業務担当）	・春物の動向が前年並みで推移しており、非食品部門の売上の伸長は期待できない。ゴールデンウィークへ向けて顧客動員ができるイベントの計画も経費縮小で難しくなっており、来客数の増加も期待できない。
		衣料品専門店（店員）	・客は単価にとってもシビアになっている。特にセレモニー服等で単価を抑えようとしているのが伝わってくる。
		衣料品専門店（取締役）	・アパレルファッションは季節に左右される。2～5月であれば季節的には春物、初夏の物が動く時期なので、売上は上がる。ただ、前年に比べるとどうなのかは全く不透明である。
		家電量販店（店員）	・家電製品に対する購買意欲が全然伸びていない。国の公共事業費の拡大で全体的に景気が良くなっているような印象を受けるが、末端のエンドユーザー目線で景気が良くなるのは、もうしばらく時間がかかる。現状のずっと悪い状態が続く。
		家電量販店（総務担当）	・地域の競合店も昨年と比較すると来客数が減少している。今後も厳しい状況が続く。
		乗用車販売店（総務担当）	・新型車の発売は当分無いが、引き続き新車販売が好調に推移する。今月と同レベルの売上、収益が期待できる。
		住関連専門店（経営者）	・円安で輸入商品の値上がりが懸念され、輸入家具と国産家具の価格差が縮まり、国産家具が売りやすくなる。物価は上がるものの、所得が横ばい状態であり、厳しい状況が続く。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・今後、燃料油については値上げ傾向が予想され、物流等に与える影響が危惧される。客は燃料油の値上げについてはやむなしという様子であるが、燃料油以外のカーケア商品の購入について慎重になってきている。
		その他専門店〔書籍〕（代表）	・景気浮揚の期待はあるが、地方の末端に波及してくるには、多少時間がかかる。
		その他専門店〔書籍〕（地区支配人）	・現在、トレンドとしては落ち込んでおり、景気浮上の気配はなかなかみられない。伸びる商品はあるものの、全体には波及してこない。周辺の景気回復はあったとしても、身の回りに及ぶとは考えにくい。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・景気対策は期待できるものの、ガソリン価格の値上げや小麦価格の高騰等懸念材料もあり、今後、消費は活性化されな
		高級レストラン（支配人）	・予約や問い合わせが少なく、景気が良くなる見通しがつかない。
		高級レストラン（専務）	・政権が代わり、株価や円安等の報道がされているが、飲食店に影響はない。景気が良くなるのは半年後ぐらいで、予約もまだまだ悪い状態である。
		居酒屋（経営者）	・周りに店をたたむという声も多く、景気が良くなる気配はなかなか感じられない。今後も厳しい状況が続く。
		観光ホテル（総務）	・収入予測が変わらない。
		観光型ホテル（専務）	・消費税が上がり、景気が上向く要因が見当たらない。
		旅行代理店（従業員）	・4、5月の海外の予約は、前年同時期より早い。円安による駆け込み需要や早期予約割引の充実により、予約が早まる傾向にある。
		タクシー運転手	・3、4月はタクシーの昼の利用が特に少なく、夜の歓送迎会が少しあるだけで、例年あまり良くない。今年も同じ状況となる。
		タクシー運転手	・ある会社の客から今後2、3か月先の状況は明るいという話を聞いた。予約状況も割と良くなっている。
		通信会社（管理担当）	・債権回収が上手くいっていない。
		通信会社（企画担当）	・販売量に影響を与える要因が見つからない。
		通信会社（業務担当）	・3月は例年であれば卒業シーズンで携帯新規契約及び買換え台数が大きく伸びることが期待されるが、スマートフォンの販売は他社からの攻勢でシェアを減らしている。月間の販売数は昨年を下回ると予想される。
		通信会社（総務局）	・個人消費の改善には時間がかかる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		ゴルフ場（従業員）	・プレーヤーの予約状況として、3～5月は通年では5月のゴールデンウィークの予約の問い合わせがきている状態であるが、出足を控かれている。観光業に対する消費意欲は沈滞している。5月ぐらいまでは変わらない。	
		ゴルフ場（支配人）	・3月のコンペ予約は徐々に入っているが、多くはない。個人客が多いため、直前にならないと予約が固まらず、天候に左右される。ビジター獲得を戦略として格安料金のセールが激化しており、少々の割引料金では集客が困難である。	
		設計事務所（所長）	・結果が出るのが案件が出てから半年から1年かかるので、3か月先は今の状態と同じである。	
		住宅販売会社（従業員）	・景気は日経平均や円安にけん引されているように見受けられるが、不動産関係にはあまりそういう影響はない。賃金等の上昇を期待しているが、動きは鈍く、物価や金利が上がる。今のところ景気が良くなる状況ではない。	
	やや悪くなる		百貨店（営業担当）	・アベノミクスで好景気になりつつあり、公共投資等も活発化してくるのではとされているが、当地では賃金が上がるまでには至っておらず、厳しい状況はしばらく続く。客の買物の仕方をもても、非常にシビアになっている。小売の景気としては、今後まだまだ厳しくなる。
			百貨店（店舗事業計画部）	・直近では景気が良くなりそうな報道が目立つが、一時的な円安や株価回復のメリットを受ける客が当店には少ない。むしろ、電気料金の値上げや消費税増税、電力会社の経費削減策が広く波及し、給与等の増加も期待されず、今後は厳しい。
			コンビニ（店長）	・新年度が始まり、税金等の支払いに追われ、ぜいたくできない客が多い。買物客より支払客のほうが多い。今後もこの状況が続く。
			衣料品専門店（店長）	・町から人の姿が消えている。暖かくなる3月に期待する。
			家電量販店（従業員）	・現在新生活に向けての準備等で購入する客が増えているが、今月末のピークが終われば、また購入する客は減る。厳しい状況が続く。
			乗用車販売店（従業員）	・決算が終わり、来店客が少なくなる。今後は厳しい状況が続く。
			その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・ガソリン価格の高騰や電気代の値上げ等、マイナスの要因が多い。
			高級レストラン（経営者）	・2月末の選挙が終わり、3月の予約が少しずつ入ってきており、月末は歓送迎会、特に送別会のニーズが多い。3月前半の予約が少なめなので来月はやや下向くが、去年の3月よりは良い。
			競馬場（職員）	・来場者数や売上の推移をみると、今後は前年を下回る。
	悪くなる		スーパー（店長）	・来年の消費税増税や将来の年金、また雇用問題等、先行きに関して安心できる状況がみえない限り、景気は上向かない。
都市型ホテル（販売担当）			・電気料金が上がり、T P Pへの参加が決まれば市民の生活に影響を与える。今後、景気は悪くなる。	
企業 動向 関連 (九州)	良くなる	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・自治体向けについては補正予算が確定したことで追加の受注が見込める。	
	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・円安傾向で輸入物が値上がり始めており、その反動で国産物の価格が安定している。円安は畜産関係にとっては餌代等のようなマイナス面もあるが、総じてプラス要因のほうが大きい。加えて、春先以降は大手加工メーカーのメニュー変更があり、原料肉の引き合い等が強い季節となる。特に今年は政権交代の影響で景気上昇の期待感が大きく、各取引メーカーから色々な話がきている。	
		家具製造業（従業員）	・4、5月の家具需要見込みが例年より10%程度増えている。3か月以降の商業施設新設の情報も確実に増えており、昨年より動きは活発である。	
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・3、4月は一番商品が動く。また機能性食器類がいくらか決まりかけている。また、消費者の動向も商品開発も大分動いており、その点も期待している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		鉄鋼業（経営者）	・以前は一時的に販売量が増えることがあっても長続きせず、その後2～3か月の契約量は激減といった状態だった。その傾向に変化がみられるようになり、大幅な増加には至っていないが、以前に比べて継続的に販売量が増えている。今後もこの傾向が続く。
		金属製品製造業（企画担当）	・当社製品は公共投資の依存度が高いため、大型補正予算の成立により、今後の需要増が期待できる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・円安になると原材料を輸入している業者からの値上げに対応しなくてはならなくなるという懸念はあるが、輸出しているユーザーの動きが良くなる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・エネルギー関連及びその他の設備の引き合いが増えている。また、機械部品加工の見積が増えており、景気は良くなる。
		精密機械器具製造業（従業員）	・3月までの生産計画は上向きとなっている。今期は今のところ黒字計画で進んでいる。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・得意先の生産量が増加するため、今後景気はやや良くなる。
		建設業（従業員）	・政権交代により、公共工事の予算増額が決まり、業界にとって景気は上向きになる。見積案件も多くなっており、受注に結びつけたい。また、消費税増税の駆け込み受注も見込まれ、景気は上向く。
		建設業（社員）	・平成25年度の発注が今年4月にはあるようであるが、3月にどれだけの補正予算関連の工事が発注されるか期待している。
		通信業（経理担当）	・景気上昇の流れを肌身で感じている。少なくとも、参議院選挙までは上昇を続けていき、今後期待できる。
		金融業（従業員）	・製造業では円安効果により、海外からの引き合いが増えてきているほか、公共工事に絡んだ商談が増加している。また、個人消費はスマートフォンや軽自動車の売行きが好調であり、住宅投資も持ち直してきている。
		金融業（営業）	・円安効果により、国内生産の見直しがある。長期的には海外への生産移転のトレンドは変わらないが、短期的には下請企業の受注は、現状維持もしくは増加する。
		金融業（営業担当）	・取引先の動向をみると、建設業を中心に受注が増え、預金口座の動きも活発になっている。
		金融業（調査担当）	・取引先の話でも、政府の政策への期待感が大きい。また、消費税増税前の資金需要も底堅い。
		変わらない	
経営コンサルタント（代表取締役）	・昨年末の政権交代以降、経済の雰囲気が非常に明るくなっている。まだ数字としては表れてはいないが、今後、春先にかけて若干好転するのではないかと期待される。		
経営コンサルタント（社員）	・経営の動きが活発化しており、前向きな投資が始まっている。		
食料品製造業（経営者）	・1月は業績が大きく後退したが、2月に入ってほぼ昨年並みの売上を達成しつつある。しかし依然として、1、2か月先の予測が困難である状況に変わりはなく、樂觀できない。納入先の客単価も依然として下げ止まりが続いており、来客数が増加する要因が見当たらないので、景気は変わらない。		
食料品製造業（経営者）	・円安の影響で海外品と国産品の価格差が小さくなっている。今すぐ影響はないが、今後の国産品の需要拡大に期待したい。		
繊維工業（営業担当）	・仕事は増えつつあるが、取引先が合併したり、倒産したりしている。		
輸送業（総務）	・東日本大震災の復興需要や消費税増税前の住宅着工件数が増加し、建築資材関係の荷動きは増えてきている。しかし、全体的にはまだまだ低迷している。		
通信業（職員）	・受注予想に景気回復の兆しは明確に表れておらず、少なくとも平成25年度当初は現状と変わらず、景気は低迷したまま推移する。		
金融業（得意先担当）	・足下の業況が非常に厳しいなか、代表者の景況感は以前と比べて厳しい状況にあり、変化は見受けられない。引き続き、取引先企業の動向に注視していく必要がある。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社（広告）（担当者）	・ 広告出稿に結びつくような大型のトピックスが少なく、通信販売と旅行広告が売上の中心となる傾向は、今後も変わらない。
		広告代理店（従業員）	・ 新聞折込の受注枚数は前年比3%減と昨年4月以降、前年を超えることができない。円安や株価の上昇で景気が好転しているとの報告があるが、折込広告の柱の一つの不動産やスーパー等の業種はまだ反応がない。パチンコ等の娯楽関連も広告費の削減が続いており、ピーク時の8割も回復していない。しばらくはこの状況が続く。
		広告代理店（従業員）	・ 長期低迷状態から抜け出せない。今後も厳しい状況が続く。
		経営コンサルタント	・ 経営の方針が内向きになっている。コスト削減を重点に置く企業が多く、新しい仕事に取り組む動きがあまりみられない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・ 新規問い合わせ件数に大きな動きはなく、しばらくこの状況が続く。
	やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・ 円安が続いているので、非常に飼料価格が上がり、非常に厳しい状況である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・ 現状のままいけば、景気はやや悪くなる。企業の方針を変え、今まで開発してきた商品を世に出すことで良くなるように努力する。
		輸送業（総務担当）	・ 預かっている荷物は輸入品が多い。円安で電気代や燃料代は値上がりしているが、生活必需品は現状維持となる。また、料金値下げの要請がきている。
	悪くなる	輸送用機械器具製造業（経営者）	・ 自動車関係の取引先の年度生産計画から判断し、景気は悪くなる。
		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・ 建設コンサルタントに関する業務は、減少の一途を辿っており、底がまだみえていない。道路等の建設工が増えるのではないかと見込んでいる他業者もおり、ハローワークの道路設計の求人は先月よりも増加しているが、先が見通せない状態にある。発注される見込みがないため、このまま景気は悪くなる。
雇用 関連 (九州)	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・ 事業計画を聞いているなかで、今後もまだまだ求人ニーズが出てきそうである。
		人材派遣会社（社員）	・ 自民党政権への期待なのか、労働者が前向きに行動し始めた。求職活動もその一つで、人が動けば消費が増える。
		人材派遣会社（社員）	・ 政権が代わり、期待感が出てきているなか、実際に人手が欲しいという企業が多く出てきている。4月以降も人手が欲しいという企業が多い。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ 金融緩和策の効果が出ており、ムードも実態も景気は良くなる。今後も継続する。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ 政府の経済政策により、明るい兆しがみえ始め、企業活動が活発化しつつある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ 企業の景気回復への期待感が高く、求人の動向は良い。学生の就職活動も厳しいながら、多少明るさがある。
		職業安定所（職員）	・ 円安や株高により、消費マインドが好転しており、求人の増加が見込める。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・ 採用担当者のお話でも前向きな話が多く出ている。従来の欠員補充以外の新規採用が今後期待できる。
	変わらない	人材派遣会社（営業）	・ 現在の求人数は昨年とあまり変化がなく、今後もこの状況が続く。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・ 労働条件が悪い地元中小零細企業の人材確保が困難になる傾向が続く。
		職業安定所（所長）	・ 管内においては各業種とも改善の要素が見当たらない。
		職業安定所（職員）	・ 管内企業にはアベノミクスへの期待もみられるが、電気料金の値上げや中小企業金融円滑化法期限切れの影響等、不安材料もあり、先行きは不透明である。
職業安定所（職業相談）		・ 1月から大手カメラ部品製造工場が減産体制に入ったことから、下請会社従業員を中心に期間従業員の雇止めによる離職者が増加している。ただし、4月から生産量が回復する話もあり、影響は限定的となる。	
	民間職業紹介機関（職員）	・ 年始から求人数についての目立った動きはなく、年度末商戦に向け、営業中である。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・求人件数は増加しているものの、厳選採用という厳しい就職環境は継続している。また、採用予定数に満たなくても選考活動を終了している企業も見受けられる。今後もこの状況が続く。
	やや悪くなる	民間職業紹介機関（社員）	・派遣延長がないという話に加え、4月以降新規派遣利用や追加利用の声も少ない。地元企業に対して派遣利用の営業活動を続けているが反応は少ない。今後も厳しい状況は続く。
	悪くなる	民間職業紹介機関（支店長）	・法規制の強化や客の採用意欲の減退、製造業や情報通信系、金融系といった大口の新規注文が欠員補充、短期間限定のものに限られている。今後も厳しい状況が続く。

11. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (沖縄)	良くなる	百貨店（営業企画）	・新年度がスタートする。店舗立地上、オフィスビルが多く、役所の新庁舎開業等もあり、利便性の改善を図るため、営業時間をこれまでより1時間延長する。仕事帰りの女性客の動員を期待している。
	やや良くなる	一般小売店〔菓子〕	・既に注文を受けている。
		コンビニ（経営者）	・近くにホテルがあり、進学、転勤の人が多くなってくるので、売上は上がると見込む。
		観光名所（職員）	・予約状況が良い。
		住宅販売会社（総務・企画分野）	・景気の高揚感や、消費税増税の件から、2、3か月先は、より真剣な商談が行われ、良くなるとみている。住宅建築や建売棟販売についての、追客可能客数が増えると予想できるので、その点でも良くなるとみている。
		住宅販売会社（代表取締役）	・当分は住宅や民間アパート建築に関して、消費税増税前の駆け込み需要が増えるとみられる。ただし、建築現場での職人不足が予想され、タイムリーに充分対応できるか懸念される。
	変わらない	スーパー（販売企画担当）	・買上点数や単価の減少もあり、消費税率引き上げなどからくる将来不安も考えられるため、競合の新規出店と合わせて厳しい状況が続くとみられる。
		コンビニ（経営者）	・来客数増の材料が見当たらない。
		コンビニ（エリア担当）	・競合店や大型量販店の出店で集客力は分散されている。また、個々の購買意欲は変わらず、余分なものは買わない傾向は続いている。客単価の増減を今後の一つの指標としているが、なかなか上がらない。
		コンビニ（エリア担当）	・現在の景気政策の浸透にはまだ時間がかかると判断する。
		衣料品専門店（経営者）	・今月も、全体的には客が少ないが、売上の下げ止まり感が若干感じられるので、これから数か月、少し様子をみたい。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	・若い人の来客数は増えているが、購買力の回復感と高額商品の販売はまだまだ厳しい状況である。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・市場に少し動きが出てきた感があるが、まだ、超低価格志向が中心で単価はなかなか上がってこない。
観光型ホテル（マーケティング担当）		・現段階での予約状況から推測される稼働率の見込みが、今月同様、ほぼ前年同月実績並みである。	
ゴルフ場（経営者）	・客単価を上げる方向で対応してきており、今後も良い結果が変わらず出てくるのではないかとみている。		
やや悪くなる	通信会社（店長）	・卒業シーズンの3月をピークに、夏商戦までは販売が落ち着くのではないかとみている。	
悪くなる	商店街（代表者）	・街中商店街には、観光客も多少はいるが、消費単価は落ちているとよく耳にする。国の方ではアベノミクスということで、手を打っているが、現時点では2、3か月では効果が末端まで下りてくるとまでは期待できず、大変危機感がある状況である。厳しい状況が続いている。	
企業動向 関連 (沖縄)	良くなる	－	－
	やや良くなる	窯業・土石製品製造業（経営者）	・民間工事は堅調に推移し、公共工事は年度末に向けて増加する見込みである。
		建設業（経営者）	・モデルハウス及び住宅見学会への週末の入場組数が、圧倒的に増えている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（代表者）	・石垣で、生コンの需要家同士の乱売が終息する見込みである。東日本震災復興の本格化やアベノミクスで、全体的に市場にタイト感がある。
		通信業（営業担当）	・仕事の量は確実に増えている。仕事はあるが要員を確保するのが難しい状況になっている。しかしながら、中国等の技術要員を沖縄で育成してビジネスの拡大を図る企業が幾つか出てきているので、今後の景気は期待できる。
		会計事務所（所長）	・円安傾向で海外向けの観光が県内へシフトすることを期待している。
	変わらない	—	—
	やや悪くなる	食料品生産業（総務）	・円安が進むと更に物価高感が進み、購買意欲が減る心配がある。
		輸送業（本社事業本部）	・家電関連の売行きにおいて、売れ筋商品の変化がみられる。大物から小物、中物中心に変わりつつあり、取扱量が減少、更に一部の取引先において商物一体化の傾向があり、これまでの体制から少しではあるが変化している。
悪くなる	—	—	
雇用 関連 (沖縄)	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（総務担当）	・年度末に向けてIT関連企業やコールセンターの案件も増えてきている。新年度4月以降スタートの案件で、新規で介護や介護保険請求事務、ロングステイ用施設客室担当など、今までとは異なる職種の問い合わせもあり、求人増が期待できる。
		求人情報誌製作会社（総務担当）	・かれこれ1年くらい「良い」状況が続いている。今後、悪くなる要素も無く、かといって今以上に良くなるかという点で、変わらず現状維持かとみられる。
	悪くなる	学校〔専門学校〕（就職担当）	・学生募集で前年度より入学者が減っている。もう少し社会情勢が安定すれば、保護者も安心して子供の進学を検討するとみている。
		人材派遣会社（経営者）	・紹介予定派遣の割合が多く、正社員への雇用をした場合の政策補助金終了の3月で終わることになっている。そのため、更新予定であった派遣もあり、それが終わると減少する懸念がある。
	悪くなる	—	—